

2009 7



Architecture and Society

建築と社会

特集/建築と水

日本建築協会

日本建築協会80年史
1917-1996

「日本建築協会80年史1917-1996」 増刷頒布中 頒価 3,000円

1999年7月に発刊した「日本建築協会80年史1917-1996」は、各方面から好評をいただいておりますが、このたび、皆様の強いご要望により、増刷・頒布することにいたしました。大正6年3月30日に関西建築協会として誕生した日本建築協会の80年の歴史を、様々な事業や委員会活動を通じて、また、本会設立者の片岡安、武田五一以降現在までの会員たちの社会活動を通して知ることができる記念誌として、A4判・240頁にまとめています。とくに、協会草創期の大正・昭和初期の片岡安ら協会のメンバーと当時的大阪市長・関 一との交流を物語る一文は、大阪の都市計画史、あるいは関西の建築人物誌ともなっています。本会の歴史を知るだけでなく、建築を通して、それぞれの時代の雰囲気を感じることができる大変貴重な資料となるものです。購入ご希望のかたは、下記要領でお申し込み下さい。

*

申込先 社団法人 日本建築協会
〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31
大阪マーチャンダイズ・マートビル7階B室
TEL 06-6946-6981 FAX 06-6946-6984
頒価 1部3,000円(税・送料込み)
※増刷部数には限りがございますので、お早めにお申し込み下さい。

*

「日本建築協会80年史」

A4判・240頁・並製本

- 日本建築協会の沿革／委員会活動／「建築と社会」の変遷／大正時代から現在までの本会主催の博覧会・展覧会・講演会／よろず相談住宅展／青年建築家・青年技術者顕彰／工高生デザインコンクール入選者etc.
- 日本建築協会創立者と会を支えた38人のプロフィール(片岡 安・設楽貞雄・武田五一・池田 實・波江悌夫・竹腰健造・尾崎久助・東畑謙三・塚本猛次・福田朝生・佐野正一・葛野壯一郎・横濱 勉・松本禹象・宗 兵蔵・園部文雄・日高 胖・野村一郎・古宇田 實・松室重光・松井貴太郎・安井武雄・中澤誠一郎・坂 静雄・今林彦太郎・井上新二・松本儀八・池田宮彦・錢高輝之・中西六郎・大林芳郎・鴻池藤一・伊東五郎・竹中鎌一・鷲尾健三・松村雄吉・横尾義貴・足立 孝)
- 座談会「戦中から戦後初期の協会活動」—尾島清四郎・大林芳郎・小西 岬・佐野正一・横尾義貴・三品哲夫の6氏による終戦前後の協会活動の証言—

■執筆ワーキンググループ

坂本勝比古／安達英俊／石田潤一郎／植松清志／梅宮弘光／桐浴邦夫／酒井一光／橋寺知子／山形政昭／吉田高子／和田康由

■80年史編集委員会

長谷部朗郎／安達英俊／近藤達夫／谷淳之介／十倉 毅／原見昌志／和田康由／吉田悦二

「日本建築協会の遺産と功績」(坂本勝比古)より



この本は、日本建築協会の歴史を振り返るための一冊である。協会の設立から現在までの歩みを、建築家としての活動や協会活動を通じて紹介している。特に、協会の設立者である片岡安の功績に重点を置いている。協会の設立は、大正6年(1917年)である。この年から、協会は建築界の発展に貢献してきた。協会の活動は、建築教育の普及、建築技術の向上、建築文化の振興などである。協会の功績は、建築界の発展に大きく貢献している。この本は、協会の歴史を知るための重要な資料である。

「草創期の人々」より片岡安の項



片岡安は、日本建築協会の創立者である。彼は、大正6年(1917年)に協会の設立に貢献した。協会の設立は、建築界の発展に重要な役割を果たした。片岡安は、協会の設立後、協会の活動に積極的に参加した。彼は、協会の発展に貢献した。片岡安の功績は、建築界の発展に大きく貢献している。この本は、協会の歴史を知るための重要な資料である。

会 告

中之島ダイビル 見学会

この見学会は、建築CPD情報
提供制度認定プログラムです。

(社)大阪府建築士会 (2単位)

(社)日本建築家協会 (2単位)

●建築概要

所在地 大阪市北区中之島3-3
建築主 ダイビル株式会社
設計 日建設計大阪
施工 鹿島建設株式会社
建築 鹿島建設株式会社
電気 きんでん・東光電気工事JV
空調 新日本空調・三晃空調・
三機工業JV
衛生 ダイダン株式会社
自動制御 株式会社山武
昇降機 三菱電機株式会社
株式会社日立製作所
敷地面積 21,089.32㎡
建築面積 2,693.04㎡
延床面積 79,543.04㎡
構造規模 S、PCa-SRC、RC造
B2F、35F、PH3F
竣工 2009年(平成21年)3月
建物用途 事務室、飲食店舗、物販店舗、
自動車庫、診療所

1925年に竣工した現ダイビル本館は、質実なデザインながらも、建物の正面や玄関ホールなど要所に装飾を施したネオロマネスク様式の建築として大いに親しまれてきた。本館建て替えの第一弾となる中之島ダイビルの設計では、高品質なオフィス性能やアメニティの実現、低炭素時代に向けての企業姿勢の表出を設計テーマとして追いつつも、現代オフィスビルから失われつつある、ホスピタリティの姿勢、ダイビル本館のデザインイメージを継承していきたいと考えた。

土佐堀川と堂島川に挟まれた南北に細長い敷地であるため、1階は南北に貫通する3層吹き抜けの玄関ロビーとし、2、3階を飲食中心の商業施設で取り巻いた。4階までを低層基壇として、高層オフィス部のデザインとの切り替えをおこなっている。

高層のオフィス空間は、西面を主たる窓にせざるを得ないという敷地条件から、極限まで細くした鉄骨鉄筋コンクリートのプレキャスト柱構造を採用し、構造体そのものによって西日の遮蔽をはかっている。プレキャスト柱はオフィスの窓とは干渉せず、建物外周部に独立柱として1.6mピッチに配

置され、約1500㎡の無柱のオフィス空間を実現している。歴史の継承を表現した低層部に対して、プレキャスト柱と水平の庇とが織りなす彫りの深い高層部の外観は、ダイビルにふさわしい品格を醸し出すとともに、周辺の高層ビル群のなかであって、アイデンティティを表出している。(川島克也)

日時 2009年8月5日(水)

14:00~16:30

講師 川島克也氏

(株)日建設計設計部門代表

對中秀樹氏

(ダイビル株技術部副部長)

集合 現地/中之島ダイビル南玄関

定員 40名(申込先着順)

参加費 会員1,000円、一般1,500円
学生は各半額

申込方法 FAXまたはEメールで、

①催し名「中之島ダイビル」

②氏名

③会員・一般の種別

④職場名または学校名

⑤参加証送付先

⑥連絡先電話番号

⑦CPDを申請される方は、
申請先の団体名を明記の上、
下記へお申込み下さい。



申込先 (社)日本建築協会編集事業課
TEL.06-6946-6981
FAX.06-6946-6984
E-mail:jigyoka@aaj.or.jp

見学会 「次世代空調DESICA」を体験してみませんか

この見学会は、建築CPD情報
提供制度認定プログラムです。

(社)大阪府建築士会 (3単位)、

(社)日本建築家協会 (3単位)

人間の生活スタイルが多様化している昨今、地球環境にやさしい新時代の空調システムの開発が進み、高い省エネ性はもちろんのこと、空気中の水分調整、ホコリなど不純物の除去および脱臭、さらに静粛性などの快適性が求められています。

人にとって最適な空調システムとは…
デシカント空調機は、冷凍機や冷水等を用いる従来の空調システムと違い、

乾燥剤(吸湿剤)等を用いて空気中の湿気を調湿(除湿)する空調システムです。

今回、空調機器メーカーであるダイキン工業の堺製作所金岡工場にて、デシカント空調の説明会及びデシカント空調機のデモ運転及び工場生産ラインの見学を企画いたしましたのでご参加よろしく、お願いいたします。

日時 2009年8月26日(水)

13:00~16:00(約3時間)

見学先 ダイキン工業堺製作所 金岡工場
大阪府堺市北区金岡1304

集合 現地
堺製作所金岡工場正門前

定員 40人※申込多数の場合は抽選

参加費 会員500円 一般1000円
学生は各半額

申込み 7月31日(金)までにFAX
またはEメールにて

①「デシカント空調見学会」

②氏名

③会員・一般の種別

④職場名または学校名

⑤参加証送付先(住所、〒)

⑥連絡先電話番号

⑦CPDを申請する方は団体
名を明記の上、下記へお申し
込みください。

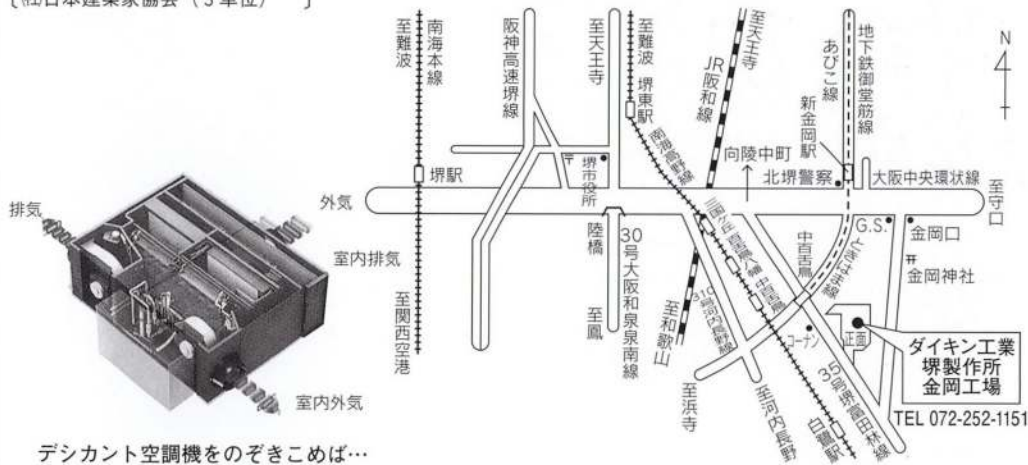
申込先 (社)日本建築協会編集事業課
〒540-6591

大阪市中央区大手前1-7-31

TEL 06-6946-6981

FAX 06-6946-6984

E-mail: jigiyoka@aaj.or.jp



デシカント空調機をのぞきこめば...

会告

総会議決のお知らせ

平成21年 6月17日開催の平成21年度
第1回通常総会において、下記議案が
それぞれ原案のとおり承認されました。

- ・第1号議案
平成20年度事業報告の件
(詳細p3)
- ・第2号議案
平成20年度決算報告の件
(詳細p4)

- ・第3号議案
役員選任の件

- * 6月21日付で退任した理事
足高晴夫 (株)きんでん
門川清行 (株)竹中工務店
長 恵祥 (株)大林組
片倉健雄 元近畿大学
志摩宣彦 大阪府

寺下 均 大成建設(株)
平岡 博 大阪市
鴻池一季 (株)鴻池組
古元真美 (株)シブタニ

退任された理事の方には、長年にわたり
会務遂行にご尽力いただきありがとうございました。

再任及び新任の顧問及び理事、監事は
p7の会務分掌の表のとおりです。

通常理事会議決の
お知らせ

平成21年 6月3日開催の平成21年度
第1回通常理事会において、下記議案が
それぞれ原案のとおり承認されました。

- ・第1号議案
平成20年度事業報告(案)の件
- ・第2号議案
平成20年度決算報告(案)の件

- ・第3号議案
役員選任(案)の件
- ・第4号議案
総会等の開催の件

臨時理事会議決の
お知らせ

平成21年 6月22日開催の平成21年度
第1回臨時理事会において、下記議案が
それぞれ原案のとおり承認されました。

- ・第1号議案
役付役員選任の件
- ・第2号議案
常設委員長並びに常任理事委嘱の件

- ・第3号議案
理事の会務分掌の件
いずれもp7の会務分掌の表のとおり
です。

評議員会議決の
お知らせ

平成21年 6月3日開催の平成21年度
評議員会において、下記議案がそれぞれ
原案のとおり承認されました。

- ・第1号議案

- 評議員会副議長互選の件
嘉納秀一氏を選任
- ・第2号議案
役員(顧問、理事、監事)候補者推

- 薦の件
- ・報告事項
平成20年度事業報告(案)の件
平成20年度決算報告(案)の件

『民間(旧四会)
連合協定工事請負
契約約款』
改訂版のお知らせ

社会情勢の変化や関連法令の改正など
に対応し「民間(旧四会)連合協定工
事請負契約約款」が平成21年6月1日
に改正されました。販売方法、販売価
格は変更ありません。

なお、新旧対照表は下記URLをご参
照下さい。

販売価格：1セット(2部)700円
規 格：A4判

※販売場所

- (社)日本建築協会事務局
〒540-6591
大阪市中央区大手前1-7-31
大阪マーチャンダイズ・マートビル7階
TEL：06-6946-6981
FAX：06-6946-6984
- 大阪府庁別館諸用紙販売店
〒540-0008
大阪市中央区大手前3-2-12
TEL：06-6941-4741
FAX：06-6941-4741

新旧対照表URL：<http://www.gcccc.jp/contract/contract.html>

- (社)日本建築協会・京都支部
〒604-0944
京都市中京区押小路通柳馬場東入橋町641
京都建設会館別館内
TEL：075-211-2857
FAX：075-255-6077
- (社)和歌山県建築士会
〒640-8045
和歌山市ト半町38
建築士会館内
TEL：073-423-2562
FAX：073-433-2772

平成20年度事業報告書

平成20年4月1日～平成21年3月31日

1. 総 会

- (1) 第1回通常総会 平成20年6月18日
議事 ①平成19年度事業報告書(案)の件
②平成19年度収支決算書(案)の件
③役員選任の件
- (2) 第2回通常総会 平成21年3月25日
議事 ①平成21年度事業計画(案)の件
②平成21年度収支予算(案)の件
③和歌山支部廃止の件
④名誉正会員推薦の件

2. 理 事 会

- (1) 第1回通常理事会 平成20年6月4日
議事 ①平成19年度事業報告書(案)の件
②平成19年度収支決算書(案)の件
③役員選任の件
④総会等の開催について
- (2) 第1回臨時理事会 平成20年6月22日
議事 ①会長選任の件
②役付き役員選任の件
③常設委員長並びに常任理事委嘱の件
④理事の会務分掌の件
- (3) 第2回通常理事会 平成21年3月25日
議事 ①平成21年度事業計画(案)の件
②平成21年度収支予算(案)の件
③和歌山支部廃止の件
④名誉正会員推薦の件

3. 評 議 員 会

- (1) 第1回定時評議員会 平成20年6月4日
議事 ①評議員会正副議長互選の件
②役員(理事・監事)候補者選任の件

4. 役 員 会 等

- (1) 常任理事会 8回
(2) 支部長会議 1回

5. 常 設 委 員 会 等

- (1) 編集委員会 委員会 12回 小委員会等 88回
(2) 事業委員会 7回
(3) 教育委員会 5回
(4) 出版委員会 委員会 11回
(5) 建材委員会 2回

6. 特 別 委 員 会 等

- (1) 工高生デザインコンクール審査委員会 1回
(2) 青年技術者選考委員会 1回
(3) 読者と選ぶ「建築と社会」賞選考委員会 1回

7. 建築と社会・特集号

- 4月号 まちづくり2011年宣言
5月号 新ホテル物語
6月号 設備に役立つ地震対策
7月号 中国地方を訪ね歩いて見えるもの
小林聖心女子学院
8月号 建築と景観
9月号 第55回青年技術者
10月号 木造住宅を巡って
11月号 建築においてROBOTが活躍する日は来るのか?
12月号 自然と戦う構造
1月号 私の空間作法—会員作品—
京阪電車中之島線—新線が拓く中之島新時代
2月号 水の都 にぎわいのある未来に向けて
3月号 東海—TOKAIオムニバス

8. 講 演 会

「可能性を信じて～変化するすばらしさ」
—障害者のスポーツを通しての気づき—
平成20年6月18日 参加60名
講師: 高橋 明 氏 (アダプテッドスポーツ・サ
ポートセンター理事長)

9. 見 学 会

- ・兵庫県立考古博物館
平成20年5月24日 参加12名
- ・「大阪市公館」見学会と「水都・大阪のモダン建
築を活かした街づくり」講演会
平成20年6月28日 参加50名
- ・茶室「清流亭」 平成20年12月6日 参加33名
- ・武庫川女子大学建築学科・大学院建築学専攻スタ
ジオ 平成21年2月24日 参加54名
(以上事業委員会)
- ・IDEC SALES OFFICE (全館LED社屋)
平成20年7月23日 参加38名
- ・学生対象見学会 土佐堀ダイビル新築工事
平成20年11月21日 参加35名 (以上編集委員会)

10. 建築工事実務講習会

- ・本部主催「施工計画・仮設見積」
平成20年12月3日(水) 9:30～17:30 受講者45名
講師: ①施工計画(仮設・地下工事)
—白塚芳郎/鴻池組大坂本店
②施工計画(躯体・仕上・設備工事・工程)
—山内博記/浅沼組大坂本店
③仮設計画・同見積り
—阪井 聡/大林組本店
- ・東海支部主催「施工計画・仮設見積・積算業務」
平成21年1月21日(水) 9:30～17:00 受講者48名
講師: ①施工計画—日吉智紀/清水建設名古屋支店
②仮設見積—田端 聡/大林組名古屋支店
③積算業務—山田 治/竹中工務店名古屋支店

11. 新 建 材 の 紹 介

建材委員会事業として、新建材の特性等の調査検討
を行った。

12. 優秀卒業生の表彰

研鑽意欲の向上を促し激励するため、高等学校、専
門学校の優秀な建築科卒業生徒162名を表彰した。

13. コ ン ク ー ル

- ・第54回工高生デザインコンクール
設計課題: インターネットカフェ
応募者: 26校・98点
審査会: 平成20年10月18日 表彰式: 11月15日
審査委員: 久保清一/大阪芸術大学建築学科教授ほか
14名
入選作品: 10点(うち最優秀1点、優秀2点)
・大阪「かくれたええとこ」再発見コンクール
応募数: 216点
審査会: 平成21年4月15日 表彰式: 4月23日
審査委員長: 橋爪紳也/大阪府立大学特別教授
入選作品: 最優秀1点、入選7点

14. 後援・協賛等の承認

- ・「エネ蔵2008～エネルギーソリューション&蓄熱
フェア」に対する後援
- ・「第30回Japan Home & Building Show」に対す
る協賛
- ・「あすなろ夢建築」第18回大阪府公共建築設計コ
ンクールに対する協賛
- ・「日本における近代建築の原点—吉田鉄郎の作
品: 大阪・東京ふたつの中央郵便局庁舎—」に対
する後援
- ・「第15回大阪・心ふれあいまちづくり賞」に対す
る協賛
- ・「第28回大阪都市景観建築賞(愛称大阪まちなみ
賞)」に対する後援
- ・(社)日本建築学会近畿支部環境保全部会公開研究会
「美しい住環境形成に建築協定はどこまで有効か」
に対する後援
- ・「Osaka Home Expo 2008」に対する協賛
- ・「建築・建材展2009」に対する協賛
- ・コロキウム「構造設計におけるRC非構造壁の
実務的取り扱い手法の現状と課題」に対する協賛
- ・見学会「フェスティバルホール(新朝日ビル)」
の共催

- ・景観シンポジウム「川と人」シリーズ第3回・in
京都 歴史都市の保全と創造に対する後援
- ・「第32回人間—生活環境系シンポジウム」に対す
る協賛
- ・「リビング&デザイン」に対する後援
- ・「2008年度 かんてん 住まいの設計コンテス
ト」に対する後援
- ・第9回講演会「建築紛争の現状と課題(その2)」
に対する協賛
- ・「建築構造部材の接合部耐火性に関する現状と課
題」に対する協賛
- ・「平成21年度1級・2級建築施工管理技術検定試
験受験対策講座」の共催
- ・「構造材料の耐火性ガイドブック」改訂講習会に
対する後援
- ・「創っ展2009-ATC関西学生卒業作品展」に対す
る後援
- ・「エネ蔵2009～エネルギーソリューション&蓄熱
フェア」に対する後援
- ・「日本マンション学会大阪大会」に対する後援

15. 青年技術者の顕彰

- ・満35歳以下の青年技術者を対象に、昭和29年度
より実施しており、第55回は、応募者30名のう
ち21名を顕彰した。また、顕彰者を称え激励す
るため、表彰式・講演会、及び先輩・役員との交
流会を平成19年度と同様に実施した。

16. 合同忘年懇親会等

- ・建築関係4団体合同忘年懇親会
20年度は(社)日本建築家協会近畿支部が当番会とな
り、次のとおり開催した。
平成20年12月17日 18:00～19:30 太閤園
- ・建築関係14団体合同新年交礼会
20年度は(社)大阪建設業協会が当番会となり、実施さ
れた。
平成21年1月5日 14:30～15:30
シェラトン都ホテル大阪

17. 役員を送った団体

- 大阪商工会議所 2号議員
大阪市街地再開発促進協議会 理事
日本建築総合試験所 評議員
大阪建築防災センター 評議員
大阪住宅センター 理事
国際デザイン交流協会 評議員

18. 各支部事業活動

京都支部

- ・会議の開催 総会1回 役員会2回
・事業 見学会1回
受験講習会 2級建築士(製図)延べ6日間

中国支部

- ・会議の開催 総会1回 常議員会1回 企画・幹
事会2回
・事業 「建築と社会」7月号 中国支部特集編集
講演会及び懇親会各1回

東海支部

- ・会議の開催 総会1回 役員会等10回 総務委
員会等の委員会36回
・事業 支部機関紙の発行2回
講演会1回 見学会3回(国内2回、海外
1回)
支部会員名簿の発行
懇親会2回 ゴルフ親睦会2回
「建築と社会」東海特集号編集
- ・協力事業 中部建築賞協議会ほか5団体の事業実
施に協力。建築8団体の新年互礼会で幹事を担当。
- 和歌山支部
- ・会議の開催 総会1回 幹事会1回

平成20年度決算報告書

貸借対照表

平成21年 3月31日現在 (単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金・預金	33,070,695	32,444,510	626,185
貯蔵品	76,811	95,271	-18,460
未収入金	2,082,616	3,699,733	-1,617,117
前払費用	134,714	173,134	-38,420
仮払金	13,959	0	13,959
流動資産合計	35,378,795	36,412,648	-1,033,853
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	0	0	0
(2) 特定資産			
記念事業積立預金	8,000,000	3,000,000	5,000,000
事業基金積立預金	29,000,000	29,000,000	0
退職給付引当資産	6,720,854	6,330,304	390,550
特定資産合計	43,720,854	38,330,304	5,390,550
(3) その他固定資産			
什器備品	111,260	111,260	0
投資有価証券	445,440	443,316	2,124
保証金	3,436,650	3,436,650	0
その他固定資産合計	3,993,350	3,991,226	2,124
固定資産合計	47,714,204	42,321,530	5,392,674
資産合計	83,092,999	78,734,178	4,358,821
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	2,331,295	2,419,108	-87,813
前受金	7,496,813	10,436,047	-2,939,234
預り金	185,633	119,193	66,440
流動負債合計	10,013,741	12,974,348	-2,960,607
2. 固定負債			
退職給付引当金	6,720,854	6,330,304	390,550
固定負債合計	6,720,854	6,330,304	390,550
負債合計	16,734,595	19,304,652	-2,570,057
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(37,000,000)	(32,000,000)	(5,000,000)
正味財産合計	66,358,404	59,429,526	6,928,878
負債及び正味財産合計	83,092,999	78,734,178	4,358,821

正味財産増減計算書

平成20年 4月1日～平成21年 3月31日 (単位：円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	45,729,483	48,558,400	-2,828,917
個人正会員受取会費	13,672,100	14,865,200	-1,193,100
個人正会員（地方）受取会費	1,029,450	1,068,900	-39,450
団体正会員受取会費	31,008,333	32,607,500	-1,599,167
準会員受取会費	19,600	16,800	2,800
事業収益	24,785,807	26,372,376	-1,586,569
編集委員会収益	18,704,009	16,606,136	2,097,873
契約約款収益	3,805,990	5,244,030	-1,438,040
会員名簿収益	0	1,945,900	-1,945,900
出版委員会収益	665,894	782,868	-116,974

科 目	当年度	前年度	増減
事業委員会収益	285,000	224,000	61,000
教育委員会収益	1,052,214	1,018,792	33,422
建材委員会収益	0	0	0
事業雑収益	272,700	550,650	-277,950
雑収益	307,317	280,797	26,520
経常収益計	70,822,607	75,211,573	-4,388,966
(2) 経常費用			
事業費	37,172,754	38,808,784	-1,636,030
給料・手当	13,419,690	13,594,277	-174,587
法定福利費	1,973,387	1,270,093	703,294
編集委員会事業費	17,754,903	16,099,432	1,655,471
契約約款費	2,409,758	3,373,437	-963,679
会員名簿発行費	0	2,019,099	-2,019,099
出版委員会事業費	122,972	226,413	-103,441
事業委員会事業費	230,572	172,957	57,615
教育委員会事業費	1,214,853	1,721,308	-506,455
建材委員会事業費	0	0	0
雑費	46,619	331,768	-285,149
管理費	26,720,975	26,823,440	-102,465
給料・手当	11,567,814	11,565,789	2,025
退職給付費用	390,550	370,000	20,550
法定福利費	1,220,349	1,391,766	-171,417
福利厚生費	2,935	0	2,935
助成費	1,883,340	2,279,462	-396,122
会議費	921,528	1,008,555	-87,027
旅費交通費	400	63,580	-63,180
通信運搬費	416,669	440,341	-23,672
減価償却費	0	27,606	-27,606
集金費	719,100	723,375	-4,275
消耗品費	2,005,680	1,804,837	200,843
備品購入費	316,680	136,395	180,285
修繕費	0	0	0
印刷製本費	68,250	0	68,250
光熱水料費	235,438	248,429	-12,991
保険料	18,520	18,520	0
租税公課	676,000	698,200	-22,200
清掃費	14,700	14,700	0
建物管理費	4,527,265	4,353,690	173,575
雑費	1,735,757	1,678,195	57,562
経常費用計	63,893,729	65,632,224	-1,738,495
当期経常増減額	6,928,878	9,579,349	-2,650,471
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	6,928,878	9,579,349	-2,650,471
一般正味財産期首残高	59,429,526	49,850,177	9,579,349
一般正味財産期末残高	66,358,404	59,429,526	6,928,878
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	66,358,404	59,429,526	6,928,878

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
その他の有価証券 時価のあるもの…期末日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は移動平均法により算定）によっている。
- (2) 固定資産の減価償却の方法
什器備品…定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準
退職給付引当金…期末退職給与の要支給額を引当てている。
- (4) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は税込み方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
小 計	0	0	0	0
特定資産				
記念事業積立預金	3,000,000	5,000,000	0	8,000,000
事業基金積立預金	29,000,000	0	0	29,000,000
退職給付引当資産	6,330,304	390,550	0	6,720,854
小 計	38,330,304	5,390,550	0	43,720,854
合 計	38,330,304	5,390,550	0	43,720,854

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
小 計	0	—	—	—
特定資産				
記念事業積立預金	8,000,000	—	(8,000,000)	—
事業基金積立預金	29,000,000	—	(29,000,000)	—
退職給付引当資産	6,720,854	—	—	(6,720,854)
小 計	43,720,854	—	(37,000,000)	(6,720,854)
合 計	43,720,854	—	(37,000,000)	(6,720,854)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

(直接法により減価償却を行っている場合)

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	1,112,560	1,001,300	111,260
合 計	1,112,560	1,001,300	111,260

財産目録

平成21年3月31日現在

(単位：円)

科 目	金額
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	33,070,695
現金手許有高	57,721
普通預金 三井住友銀行大阪中央支店	7,828,169
普通預金 三菱東京UFJ銀行瓦町支店	5,262,288
普通預金 りそな銀行北浜支店	4,836,219
郵便振替 00910-9-39975	3,048,352
普通預金 マーチャングイズビル内郵便局	37,946
定期預金 三菱東京UFJ銀行瓦町支店	11,000,000
定期預金 三井住友銀行大阪中央支店	1,000,000
貯蔵品	76,811
切手・はがき	76,811
未収入金	2,082,616
会誌収入	1,495,000
個人正会員会費収入	512,400

科 目	金額
地方会員会費収入	27,300
団体正会員会費収入	47,916
前払費用	134,714
助成費	132,314
集金費	2,400
仮払金	13,959
会議保険料	13,959
流動資産合計	35,378,795
2. 固定資産	
(1) 基本財産	
基本財産合計	0
(2) 特定資産	
記念事業積立預金	8,000,000
定期預金 三菱東京UFJ銀行瓦町支店	8,000,000
事業基金積立預金	29,000,000
定期預金 三菱東京UFJ銀行瓦町支店	29,000,000
退職給付引当資産	6,720,854
定期預金 三菱東京UFJ銀行瓦町支店	6,720,854
特定資産合計	43,720,854
(3) その他固定資産	
什器備品	111,260
書棚 1 式	111,260
投資有価証券	445,440
中期国債ファンド 三菱UFJ証券	445,440
保証金 本部事務所賃貸契約による保証金	3,436,650
その他固定資産合計	3,993,350
固定資産合計	47,714,204
資産合計	83,092,999
II 負債の部	
1. 流動負債	
未払金	2,331,295
会誌発行費	2,001,440
助成費	18,605
集金費	7,600
租税公課	292,000
見学会保険料確定分	11,650
前受金	7,496,813
個人正会員会費収入	2,138,900
団体正会員会費収入	5,097,913
地方会員会費収入	117,300
準会員会費収入	7,700
会誌収入	135,000
預り金	185,633
給与源泉税預り	28,570
報酬源泉税預り	132,063
誤振込み預り	25,000
流動負債合計	10,013,741
2. 固定負債	
退職給付引当金	6,720,854
固定負債合計	6,720,854
負債合計	16,734,595
正味財産	66,358,404

収支計算書

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
会費収入	45,264,647	45,729,483	-464,836
個人正会員	13,495,752	13,672,100	-176,348
個人正会員（地方）	979,528	1,029,450	-49,922
団体正会員	30,772,567	31,008,333	-235,766
準会員	16,800	19,600	-2,800
事業収入	23,834,539	24,785,807	-951,268
編集委員会収入	17,525,000	18,704,009	-1,179,009
契約約款収入	4,071,539	3,805,990	265,549
出版委員会収入	500,000	665,894	-165,894
事業委員会収入	250,000	285,000	-35,000
教育委員会収入	1,300,000	1,052,214	247,786
建材委員会収入	0	0	0
事業雑収入	188,000	272,700	-84,700
雑収入	177,400	307,317	-129,917
前受金収入	0	7,480,330	-7,480,330
前払費用収入	0	173,134	-173,134
仮払金収入	0	1,186,640	-1,186,640
預り金収入	0	5,986,665	-5,986,665
貯蔵品収入	0	18,460	-18,460
事業活動収入計	69,276,586	85,667,836	-16,391,250
2. 事業活動支出			
事業費支出	38,268,400	37,172,754	1,095,646
事業関係人件費支出	15,695,417	15,393,077	302,340
編集委員会事業費支出	18,025,000	17,754,903	270,097
契約約款費支出	2,717,983	2,409,758	308,225
出版委員会事業費支出	100,000	122,972	-22,972
事業委員会事業費支出	200,000	230,572	-30,572
教育委員会事業費支出	1,500,000	1,214,853	285,147
建材委員会事業費支出	0	0	0
雑支出	30,000	46,619	-16,619
管理費支出	28,943,369	26,330,425	2,612,944
管理関係人件費支出	13,621,369	12,788,163	833,206
退職給付支出	0	0	0
福利厚生費支出	50,000	2,935	47,065
助成費支出	2,300,000	1,883,340	416,660
会議費支出	1,172,000	921,528	250,472
旅費交通費支出	130,000	400	129,600
通信運搬費支出	500,000	416,669	83,331
集金費支出	800,000	719,100	80,900
消耗品支出	2,000,000	2,005,680	-5,680
備品購入費支出	300,000	316,680	-16,680
修繕費支出	100,000	0	100,000
印刷製本費支出	100,000	68,250	31,750
光熱水料費支出	280,000	235,438	44,562
保険料支出	20,000	18,520	1,480
租税公課支出	750,000	676,000	74,000
清掃費支出	40,000	14,700	25,300
建物管理費支出	4,600,000	4,527,265	72,735
雑支出	2,180,000	1,735,757	444,243
前受金支出	0	10,419,564	-10,419,564
前払費用支出	0	134,714	-134,714
仮払金支出	0	1,200,599	-1,200,599
預り金支出	0	5,920,225	-5,920,225
事業活動支出計	67,211,769	81,178,281	-13,966,512
事業活動収支差額	2,064,817	4,489,555	-2,424,738
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			

科 目	予算額	決算額	差異
特定資産取得支出	190,550	5,390,550	-5,200,000
退職給付引当資産取得支出	190,550	390,550	-200,000
記念事業積立預金支出	0	5,000,000	-5,000,000
投資有価証券取得支出	0	2,124	-2,124
投資活動支出計	190,550	5,392,674	-5,202,124
投資活動収支差額	-190,550	-5,392,674	5,202,124
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
IV 予備費支出	150,000	0	150,000
当期収支差額	1,724,267	-903,119	2,627,386
前期繰越収支差額	46,102,000	33,725,135	12,376,865
次期繰越収支差額	47,826,267	32,822,016	15,004,251

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金・預金・未収入金及び未払金を含めている。
なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

科 目	前期末残高	当期末残高
現 金 預 金	32,444,510	33,070,695
未 収 入 金	3,699,733	2,082,616
合 計	36,144,243	35,153,311
未 払 金	2,419,108	2,331,295
合 計	2,419,108	2,331,295
次期繰越収支差額	33,725,135	32,822,016

平成21年度

日本建築協会役員会務分掌

(21.06.22現在・敬称略)

名誉会長 佐野正一 (株)安井建築設計事務所 *顧問 中嶋 俊行	
名誉会長 市川 宏 (株)東畑建築事務所 *顧問 平岡 博	
会 長 中井 進 (株)日建設計	
副会長 井上 豊 大阪大学名誉教授 編集・研修担当	
*副会長 大井 昇二 (株)大林組 会勢・事業担当	
*副会長 大石 忠彦 (株)きんでん 会勢・事業担当	
*副会長 黒川 省二 (株)竹中工務店 企画・財務担当	
副会長 樋口 洋一 大阪ガス(株) 総務・事務局担当	
副会長 松村 孝治 (株)東畑建築事務所 会長職務代行 編集・研修担当	
理事 ○印は常任理事で委員長	
(総務) 6名 大林 剛郎 (株)大林組 栗原 信英 栗原工業(株) 佐野 吉彦 (株)安井建築設計事務所 立野 純三 (株)ユニオン ○松原 徹雄 (財)日本建築総合試験所 ○山形 政昭 大阪芸術大学 (財務) 4名 奥村太加典 (株)奥村組 木村 之彦 木村工業(株) 大寺 正直 中央電設(株) 森本 晴夫 三和建設(株) (編集・出版) 9名 ○上原 正行 U建築工房 木戸 徹 鹿島建設(株) 佐藤 栄一 (財)日本建築材料協会 佐藤友美子 (財)サントリー文化財団 ○設案 貞樹 (株)安井建築設計事務所 竹中 統一 (株)竹中工務店 立成 良三 (財)大阪住宅センター 松村 孝夫 関西電力(株) 吉村 英祐 大阪工業大学 (会勢) 12名 浅沼 誠夫 (株)浅沼組 池内 哲郎 野里電気工業(株)	*葛田 守弘 (株)鴻池組 小橋 鴻三 清水建設(株) 近藤 徹 不二熱学工業(株) 銭高 善雄 (株)銭高組 野村 昇 戸田建設(株) 藤井 實 エスケー化研(株) 藤原 富男 (財)大阪建設業協会 佐伯 博 (株)東畑建築事務所 森畑 武 MO建築研究室&RG 與謝野 久 (株)日建設計 (事業) 6名 木村 雅則 都市再生機構 城口 俊雄 (株)大阪城口研究所 ○瀬戸川 葆 関西住宅品質保証(株) 高嶋 章光 西松建設(株) 好井 康則 (株)フジタ 渡辺 勝紀 (株)熊谷組 (研修) 6名 岩橋 貞雄 八千代電設工業(株) *上林 研二 (株)地域生活空間研究所 *久保 博司 大成建設(株) 千種 幹雄 (株)昭和設計 *永原 穰 王建工業(株) 和田 克朗 元財団法人建築センター
常務理事 林 新一	理事合計51名
監事 杉山 泰生 元・(財)日本建築協会 前田 隆司 (株)前田商会	

注 *印は新任

細則抜粋 第17条 会務分掌理事のうち若干名を常任理事に選任する。

平成21年度

日本建築協会評議員

議長 三木 敏男

副議長 嘉納 秀一

21.6.1現在 (敬称略)

区分	任期 (20.6.1～22.5.31)	任期 (21.6.1～23.5.31)
技術 3	三木 敏男 (株)サングロブ 村上幸三郎 村上デザイン事務所 五十嵐巳代治 飛鳥建設(株)	
総合 13	柿本 正和 (株)銭高組 中窪 義征 (株)浅沼組 中垣 潔 安藤建設(株) *天野 直樹 (株)竹中工務店 中本 修司 (株)大林組 山本 清彦 戸田建設(株)	*肥後 行人 (株)鴻池組大阪本店 *浅野 博光 (株)奥村組 重見 法人 三井住友建設(株)
	中道 正伸 (株)中道組 原 眞一 コーナン建設(株)	今西 邦夫 (株)今西組 金山 隆興 (株)金山工務店
電気 4	*河島 秀光 (株)きんでん 森 淳 三和電気土木工事(株)	嘉納 秀一 三宝電機(株) 嶋田 雅景 (株)クリハラント
管工 4	安原 和利 (株)精研 春木 雄一 (株)三晃空調大阪本店	吉武 秀幸 (株)三冷社西日本支社 若林 尚史 若林設備工業(株)
建材 3	安田 誠 安田(株) 山中 豊茂 (株)山中製作所	深江 隆司 アスワン(株)
中国 4	国沢 幹男 日本住宅ビル工業協同組合 嶋津 孝之 広島大学	清田 剛一 (株)大方工業所 村重 保則 現代建築設計事務所(株)
東海 7	小宮 三辰 三辰設計事務所 鈴木 慶智 (株)伊藤建築設計事務所 寺本 英一 (有)T.R.A 芳山 明久 東海支部幹事	後藤 利秋 (有)和光建築計画研究所 中村 哲士 アトリエN-級建築士事務所 福田 泰造 福田泰造建築事務所
京都 3	長瀬 博一 長瀬建築研究所 森島 照雄 森島建築設計事務所 山田 昌次 花豊造園(株)	

総数41人 *印は新任

平成21年度

日本建築協会支部長 (敬称略)

京 都 上林 研二 (株)地域生活空間研究所

中 国 森畑 武 MO建築研究室&RG

東 海 佐伯 博 (株)東畑建築事務所

平成21年度 日本建築協会委員

平成21年4月15日開催の常任理事会において、下記のとおり各委員会委員を委嘱しました。

(◎委員長 ○副委員長 △幹事 ☆顧問 *21年度新委員 所属名は略称 順不同・敬称略)

■編集委員会

会誌「建築と社会」の企画・編集及び創立100周年記念事業の実施

◎設案 貞樹／安井建築設計事務所

■特集小委員会

計画分科会

(計画系)

△飯田 匡／大阪大学大学院
飯沼 清明／阪急不動産
鈴木 克彦／京都工芸繊維大学大学院
田中 慎治／大阪市計画調整局
田中 直人／摂南大学
紅谷 昇平／人と防災未来センター
松田奈緒子／京都工芸繊維大学ベンチャー・ラボラトリー
三宅 次郎／阪神電気鉄道
守井 辰／日建設計
吉村 英祐／大阪工業大学

(建築計画系)

荒木 宏之／大成建設
奥村 朋孝／鴻池組
菅野 忠司／鹿島建設
△神戸 嘉也／大林組
木多 彩子／摂南大学
楠 敦士／安井建築設計事務所
*静 茂夫／大建設計
*下坂 浩和／日建設計
所 千夏／ATELIER CK
野田 隆史／竹中工務店
枇杷 健一／枇杷健一建築設計室
松森 織江／東畑建築事務所

*米山 剛史／UR設計

(インテリア・住宅系)

*小倉 一平／都市再生機構西日本支社
加藤 力／宝塚造形芸術大学
△神谷 浩司／大林組
黒柳 亮／竹中工務店
田中 浩介／積水ハウス
戸井賢一郎／日建スペースデザイン
ペリー史子／大阪産業大学
*間瀬 一博／安井建築設計事務所
／バナソニック電工

構造分科会

秋田 智／安井建築設計事務所
*石田 大三／日建設計
△岸本 光平／竹中工務店
*小芝 淳一／ZEN建築構造事務所
*志摩 好宣／鴻池組
瀧野 敦夫／大阪大学大学院
*角田 耕一／大林組
難波 尚／神戸大学
房安 智也／北條建築構造研究所
松村 健／東畑建築事務所
向井 洋一／奈良女子大学

設備分科会

△赤澤 正治／竹中工務店
梶井 宏修／近畿大学
北野 勝也／きんてん

谷野 太志／新菱冷熱工業
*難波 利幸／大阪市都市整備局
夏井 重行／元・富士ネオ工業
福谷 周／安井建築設計事務所
榊井 貴廣／総合設備コンサルタント
*宮崎 ひろ志／関西大学
村上幸三郎／村上デザイン事務所
渡邊 裕之／大阪市都市整備局

施工材料分科会

△桜井 和男／竹中工務店
*下迫 力／鹿島建設
平田 茂良／大和ハウス工業
藤丸 啓一／清水建設
山岡 篤人／大林組
吉田 正友／日本建築総合試験所

法令分科会

*近都 学／兵庫県建築指導課
河野 学／大阪府立工業高等専門学校
*田上 幸二／大阪府建築指導室
*西林 浩一／堺市都市局建築指導課
*濱崎 秀和／大阪市建築指導部
文山 達昭／京都市建築指導部
*△鷺尾 真弓／神戸市建築指導部

■作品作風小委員会

○居内 章夫／徳岡昌克建築設計事務所
池上 明／エー・アイ・アーキテクト スタジオ
稲垣 和江／イナガキケンテックケンキュウショ
井上 雅祐／大林組
岩佐 進／東畑建築事務所
加嶋 章博／摂南大学
倉渕奈千子／田中啓文総合建築研究所
澤田 純一／兵庫県県土整備部
戸川 勝之／安井建築設計事務所
榎野 淳司／竹中工務店
豊田 充広／高松建設
鳥居 久人／昭和設計
西田 佳代／日建設計
芳谷 晴彦／清水建設
増田 敬彦／増田敬彦一級建築士事務所
山田 俊紀／三菱地所設計

■広告企画小委員会

上田 訓将／竹中工務店
宇城 英彦／大成建設
江本 孝弘／鴻池組

○虎谷 伸幸／大林組

○前田 衛／日建設計

南澤 浩司／清水建設
森川 幸信／安井建築設計事務所

■10年委員会

赤木 隆／日建設計
川上比奈子／摂南大学
熊田 将男／安井建築設計事務所
河野 浩司／竹中工務店
齋藤 幸代／鴻池組
菅原 幸也／日建設計
中村 文紀／東畑建築事務所
○前川 治彦／前川治彦建築研究所

■事業委員会

見学・講演・説明・展示・懇親会などの企画および実施

◎瀬戸川 葆／関西住宅品質保証

○原見 昌志／元・安井建築設計事務所

○南 次郎／元・浅沼組

■情報見学小委員会

△伊藤 博／元・松村組
△大喜孝哉／大林組
△中西 稔／ジェイアール西日本コンサルタンツ
△森田 芳次／安井建築設計事務所
石井 太志／日建設計
岩下 智／鴻池組
岡本 隆／日建設計
河合 哲夫／竹中工務店
越水 博明／清水建設
雑賀 俊至／きんてん
佐々木 栄／昭和設計
田崎 祐生／大阪成蹊大学
*豊田 充広／高松建設
夏井 重行／元・富士ネオ工業
樋上 新治／ラシンブランニング
福島 隆／鹿島建設
三浦 憲／大林組
米井 寛／東畑建築事務所

■出版委員会

建築に関する図書の企画・編集・刊行、ならびに講座の企画・実施

◎上原 正行／U建築工房

井上まるみ／住まいの研究室

植村 典人／修成建設専門学校

神谷 剛／竹中工務店

神田 暢子／神田建築工房

田中 正司／鹿島建設

玉水 新吾／エス・バイ・エル

谷川 康信／大阪工業技術専門学校

*筑波 幸一郎／筑波建築設計工房

○中川 徹／清水建設

仲本 尚志／竹中工務店

藤山 宏／造景空間研究所

*牧野 高尚／アトリエビクト

峯松 秀吾／メイン企画

☆山田 修／修建築事務所

■教育委員会

建築教育についての調査・研究、講習会の企画・実施、ならびに工高生デザインコンクールなどの企画および実施

◎山形 政昭／大阪芸術大学

■講習会小委員会

○平野 剛／鹿島建設
*池内 昌志／浅沼組
河野 浩司／竹中工務店
阪井 聡／大林組
白塚 芳郎／鴻池組
水野 貴夫／清水建設
八木為治郎／大成建設

■工高生教育小委員会

○神野 茂／堺市立工業高校
△出雄 隆／大阪市立芸芸高校
宇都 直人／大阪市立都島工業高校
大西 正宜／大阪府立西野田工科高校
岡本 展好／大阪市立都島工業高校
小早川弘樹／大阪府立今宮工科高校
武田 雄二／愛知産業大学
谷口 幸雄／日建設計コンストラクション・マネジメント

永島 敏郎／安井建築設計事務所

中村 眞二／東畑建築事務所

山岡 徹／堺市立工業高校

■建材委員会

建材コンサルタント・新建材の紹介

◎松原 徹雄／日本建築総合試験所

上原 優一／清水建設

河津 龍大／日本建築総合試験所

菅 知史／鹿島建設

阪本 重信／大成建設

新谷 英夫／奥村組

*佐藤 勝紀／都市再生機構西日本支社

徳山 正司／鏡高組

豊永 秀男／竹中工務店

西出 浩／大建設計

松田 俊幸／大林組

松本 章／東畑建築事務所

安江 広／日建設計

☆和田 克朗／元・日本建築センター

平成21年4月の常任理事会後、以下の特別委員会が編成されています。

■関西の建築界・群像

100周年に向けた記念企画。

◎本多 友常(和歌山大学)

影林 督論(安井建築設計事務所)

近藤 努(日建設計)

永野 一朗(大林組)

根本 和人(東畑建築事務所)

古谷 隆祥(昭和設計)

米津 正臣(竹中工務店)

■史料研究会

(再読 関西近代建築)

100周年に向けた記念企画。

◎山形 政昭(大阪芸術大学)

安達 英俊(安達英俊建築研究所)

石田潤一郎(京都工芸繊維大学)

植松 清志(大阪人間科学大学)

梅宮 弘光(神戸大学)

桐谷 邦夫(京都建築専門学校)

酒井 一光(大阪歴史博物館)

橋寺 知子(関西大学)

吉田 高子(近畿大学)

和田 康由(大阪市立都島第二工業高校)

☆坂本勝比古(神戸芸術工科大学名誉教授)



私の空間作法

日本建築協会 ■ 会員作品特集

2009



作品募集

「建築と社会」平成21年11月号の 「第16回会員作品特集号“私の空間作法”」

「建築と社会」11月号では会員作品発表の場として、“第16回会員作品特集号・私の空間作法”を企画しております。対象は、建築、ランドスケープデザイン、インテリアデザイン、まちづくり、アート等、建築に関わるすべてとし、表現方法は、写真、CG等の別を問いません。みなさまの個性あふれる作品の応募をお待ちしております。

※

■提出資料

作品は、竣工作品、計画案を問いません。下記要領に基づいてお送り下さい。

1. 写真 外観・内観・ディテール・模型写真等のプリント
(サイズはキャピネ判程度、5～6枚)
2. CG等 パース、コンセプト図等
(パースの写真撮影等は致しかねますので、印刷原稿となる状態をお願いします)
3. 概要 作品名称、所在地、設計者、施工者名、建築面積、延床面積、構造規模、工期など。
4. 説明文 作品についての考えを300字程度にまとめて下さい。

■掲載に際しての補足

1. 掲載料は無料です。誌面は白黒ページとなります。
2. 写真の撮影者名は必ず付記願います。
写真に著作権等が生ずる場合は、応募者にて処理願います。
3. 掲載頁数は、原則として1社(1人)1頁とします。
また、8月末までに竣工予定の作品を掲載希望の場合、写真等の原稿期日は配慮致しますので、ご連絡下さい。
4. 建物の特徴や特殊な事柄については簡単な補足説明をお願いする場合があります。
5. 作品の掲載順及び誌面レイアウトを含む特集全体の構成は、委員会にて担当致します。また、応募作品多数の場合等は、編集の都合により掲載できないこともありますのでご了承下さい。

■原稿期日及び送付先

1. 期 日 **2009年8月31日(月) 必着**

2. 送付先 社団法人 日本建築協会編集委員会
「会員作品特集号」係

〒540-6591 大阪市中央区大手前1丁目7番31号
大阪マーチャンダイズ・マートビル7階
TEL. 06-6946-6981 FAX. 06-6946-6984

「建築と社会」誌

特集一覧 ●1987~2008

大正6年3月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正6年9月に「関西建築協会雑誌」と題して創刊された。大正8年に「日

本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。取り上げてきた特集テーマは下記のと

おりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局（TEL 06-6946-6981、FAX 06-6946-6984）まで。販売価格は1200円（送料・消費税含）。

号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1987 vol.68	●入浴物語	●腐食	●創立70周年 記念号	●躍動する 東海へ	●貯蔵・保管 施設 ●大阪府立 体育会館	●室内の仕上床	●駅	●行政建築家 の可能性	●シティホテル の設備	●宝塚の 街づくり*	●建物と町並みの 接点 ●昭和設計 作品集	●第34回 青年技術者 作品集
1988 vol.69	●ホテル物語	●軟弱地盤 と基礎 ●文化と伝統—東 海からの報告	●設備における LCCと リフレッシュ ●東海建築事務所 作品集	●建物の外装 リフレッシュ*	●都心居住	●中国地方の展望 とひろしまの まちなみ	●21世紀への 照明*	●制振*	●超高層住宅 を考える	●集合住宅の リフレッシュ* ●大阪府営普	●第35回 青年技術者 ●800号記念*	●読者テレビ
1989 vol.70	●夢をのせる 輸送設備	●リゾート事情 ●竹中工務店 創立90周年記念	●色の復権 ●東海の新建築 と伝統技術*	●省力化の ための材料 ・工法	●まちづくり と法	●博覧会と まちづくり	●都市環境創造 と設備I	●建築とアート	●構造の省力化 ●島田建設大阪支 店建築設計部作品 集	●都市環境創造 と設備II ●ユーザー参加 のハウジング	●第36回 青年技術者	●最近の博覧会 パビリオン
1990 vol.71	●商品化住宅 のデザイン*	●ニュータウン・ ルネサンス	●東海の都市 景観 ●佐賀市文化会館*	●スケール感	●プレハブ 住宅技術の 現在と未来	●国際花と 緑の博覧会	●建築家のための 設備知識— 中規模オフィス ビルによる ケーススタディー	●高強度化— 設計の多様化 をめざして*	●やわらかな 住宅管理・ ユーザーの 役割	●都市のナイス ・ブレイス ●兵庫県営館 の歩み	●第37回 青年技術者 ●和歌山県 の展望と景観*	●高級感—建物の 顔：感性の時代 を渡り越えての 外装材
1991 vol.72	●新しい都市 空間づくり —I—	●オフィス・ プレジャー ●新しい都市空間 づくり—II— ●建築の風景	●東海支部 復活30周年 記念	●大阪東海上 ビルディング	●今、京都 ●建築家のための 設備知識—複合 商業ビルによる ケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設 局管轄部	●一般号*	●建築をめぐるト ラブルとその解 ●建設現場のイメ ージアップ作戦	●空間のアイデン ティティ ●きんでん写真集 ●大建設40周年	●自治体住宅 政策への提言 ●大林組創業 100周年記念	●建築と土木 —構造技術 の世界— ●第38回青年技術 者	●スリムでタフな コンクリート ●21世紀の住まい を考える シンポジウム
1992 vol.73	●夢物語— 人にかわる、 まちにかわる—	●ここだけの インテリア ●近畿の郵政建 築15年の歩み	●建築と デザイン —東海支部—*	●建築家のための 設備知識—集合 高層住宅の設備 システム—	●地球環境 時代の建築	●街創り、住まい 創り—住宅・都 市整備公団関西 支社10周年—	●木構造を使っ てみませんか —集成材— による構造*	●接着— 建築分野への 限りなき可能性	●中国地方の 町並みと建築 家の「語り、夢、 作品」*	●中国地方の 魅力に学ぶ— ハウジングの メインストリーム を探る	●いま建築教育 に何が期待 されているか	●京のかたち と色
1993 vol.74	●第38回青年技術 者 ●東海建築事務所 創立60周年 記念作品集	●大阪府営繕	●東海的美術館 ・博物館	●市民劇場の 舞台設備	●環境— 限りある自然 と建築との かわり	●都市の スカイライン	●映画の中の インテリア ●はいはいプラ ザ・住友ホール	●建築の再生 —構造技術の 役割— ●大阪府営繕	●国際的パート ナーシップの 可能性	●福祉の まちづくり	●都市型住宅 再考	●第40回青年技術 者 ●環境—人に やさしい空間創 造をめざして
1994 vol.75	●コピー文化の 新時代 ●広島市の街創り アジア競技大会	●九州のインス タレーション と貌	●伊勢・神宮 式年遷宮と 神宮界隈*	●建築のエネ ルギーシス テム	●明日に向か って—会員 作品*	●いま、医療 施設は	●住空間にお ける居どろ ろへの視点	●まちなかの 看板 ●竹中工務店 の集合住宅	●水と建築 ●日本建築 総合試験所	●建築設備のCG シミュレーション ●村野、森建築 事務所	●構造美— 建築の中の美 ●集合住宅団地 リニューアル	●第41回 青年技術者 ●関西国際空港
1995 vol.76	●光がつくる 風合の世界*	●音—騒音から 採音/創音へ	●飛騨・美濃 —まちの活性化 と地方文化*	●トイレから 見た都市 文化	●トイレ空間	●接合 ●コスモタワー	●ユニバーサル デザインとは	●私の空間 作法—会員 作品	●新しい「都 市・建築」 の視点*	●最新の大型 スポーツ競技 施設の設備	●私の空間作法 —第42回 ●九州の元気 ●りんくうの3作品	●第42回 青年技術者 ●滋賀県建築課
1996 vol.77	●阪神大震災 から学ぶ*	●大阪府住宅 供給公社創立 30周年記念*	●遠江—その 地方振興と 文化*	●立体駐車場 設備 ●大建設	●災害11非常時 に生じる法系 ●OAPタワーズ	●いま、ブル ーが おもしろい	●住まいの 未来像	●マルチ メディアが つくる世界	●キーコンセプト の新时代	●私の空間作法 —第43回 ●九州の元気 ●りんくうの3作品	●私の空間作法 —第43回 ●九州の元気 ●りんくうの3作品	●第43回青年技術 者 ●近畿地方建設 局
1997 vol.78	●建築のロン グライフ化 をめざして	●鉄ものがたり *	●東海支部会員 作品 ●鉄—歴史・文 化とまちなみ—建築*	●創立80周年記念 /建築と社会 —80人の眼—*	●木造建築物の伝統 技術とその継承	●住む空間の 復興—一棟の 建物を再生する ●住都公園関西支 社	●素材の不思議 ●大阪ドーム	●新エネルギー 住宅・都市 整備公団改 革への提言	●クロスワード 都市OSAKA *	●モザイク都市 の住むかたち ●昭和設計 40周年	●私の空間 作法 —会員作品—	●第44回 青年技術者 ●京都駅ビル
1998 vol.79	●新しいまち づくりの予感 ●東海建築事務所 創立65周年	●Concrete ●九州とわたし そして建築	●東海支部 会員作品 ●信州—諏訪と その周辺—	●街並みの演出— 最近の外構材料	●生活環境の 安全・安心	●地球環境 保全と建築	●心と体を 元気にする インテリア	●建築設備— ビルメンテナンス の立場から	●建築への証 言—98 —21世紀に 向けて	●アバンティ ア—都市空間 としてのイン テリア	●私の空間作法 —2001年の医 療施設	●第45回青年技術 者 ●家とともに歩 み—第45回 ●第45回青年技術 者 ●家とともに歩 み—第45回
1999 vol.80	●“らしさ” のデザイン ●建築を模どる 小粋なモノの仕度人	●大阪府都市 整備局	●東海支部 会員作品 ●東海支部 会員作品2000 ●東海支部 会員作品2000 ●東海支部 会員作品2000	●都市の パブリック	●測る—測定方法 と測定結果が 意味するもの—	●改正建築 基準法 —パートII—	●現代の日本 の空間・文 化を探る	●100年後への メッセージ ●日本建築 100周年	●建築の力 ●都市の力	●建築の力 ●都市の力	●私の空間作法 —会員作品—	●第46回 青年技術者
2000 vol.81	●21世紀のデザ インの動向を見る ●安井建築設計事務 所創業25周年	●中国支部—しな まみ海と中国地 方の街づくり—	●東海支部 会員作品 ●東海支部 会員作品2000 ●東海支部 会員作品2000	●都市の パブリック	●測る—測定方法 と測定結果が 意味するもの—	●改正建築 基準法 —パートII—	●現代の日本 の空間・文 化を探る	●100年後への メッセージ ●日本建築 100周年	●建築の力 ●都市の力	●建築の力 ●都市の力	●私の空間作法 —会員作品—	●第47回 青年技術者
2001 vol.82	●エス・ティ ・フィナン シヤーズ	●21世紀の建 築設計教育	●東海支部 会員作品 ●東海支部 会員作品2000 ●東海支部 会員作品2000	●都市の パブリック	●測る—測定方法 と測定結果が 意味するもの—	●改正建築 基準法 —パートII—	●現代の日本 の空間・文 化を探る	●100年後への メッセージ ●日本建築 100周年	●建築の力 ●都市の力	●建築の力 ●都市の力	●私の空間作法 —会員作品—	●第48回 青年技術者 ●第48回 ●第48回
2002 vol.83	●国土交通省 近畿地方整 備局管轄部 *	●再生・リサ イクル	●東海支部 会員作品 ●東海支部 会員作品2000 ●東海支部 会員作品2000	●都市の パブリック	●測る—測定方法 と測定結果が 意味するもの—	●改正建築 基準法 —パートII—	●現代の日本 の空間・文 化を探る	●100年後への メッセージ ●日本建築 100周年	●建築の力 ●都市の力	●建築の力 ●都市の力	●私の空間作法 —会員作品—	●第49回 青年技術者 ●大阪府中央 公会堂
2003 vol.84	●東海建築事務所 創立70周年	●九州の地域づ くり・まちづ くり	●東海支部 会員作品 ●東海支部 会員作品2000 ●東海支部 会員作品2000	●都市の パブリック	●測る—測定方法 と測定結果が 意味するもの—	●改正建築 基準法 —パートII—	●現代の日本 の空間・文 化を探る	●100年後への メッセージ ●日本建築 100周年	●建築の力 ●都市の力	●建築の力 ●都市の力	●私の空間作法 —会員作品—	●第50回青年 技術者 ●第50回 ●第50回
2004 vol.85	●大阪府住宅局	●都市緑化	●東海支部 会員作品 ●東海支部 会員作品2000 ●東海支部 会員作品2000	●都市の パブリック	●測る—測定方法 と測定結果が 意味するもの—	●改正建築 基準法 —パートII—	●現代の日本 の空間・文 化を探る	●100年後への メッセージ ●日本建築 100周年	●建築の力 ●都市の力	●建築の力 ●都市の力	●私の空間作法 —会員作品—	●第51回 青年技術者
2005 vol.86	●震災から 10年	●「健やか」 ●長崎医療 センター	●東海支部 会員作品 ●東海支部 会員作品2000 ●東海支部 会員作品2000	●都市の パブリック	●測る—測定方法 と測定結果が 意味するもの—	●改正建築 基準法 —パートII—	●現代の日本 の空間・文 化を探る	●100年後への メッセージ ●日本建築 100周年	●建築の力 ●都市の力	●建築の力 ●都市の力	●私の空間作法 —会員作品—	●第52回 青年技術者
2006 vol.87	●都市環境デ ザインと参 加のまちづ くり	●「地方空港の 時代」—まち と共存する空 港づくり—	●東海支部 会員作品 ●東海支部 会員作品2000 ●東海支部 会員作品2000	●都市の パブリック	●測る—測定方法 と測定結果が 意味するもの—	●改正建築 基準法 —パートII—	●現代の日本 の空間・文 化を探る	●100年後への メッセージ ●日本建築 100周年	●建築の力 ●都市の力	●建築の力 ●都市の力	●私の空間作法 —会員作品—	●第53回 青年技術者
2007 vol.88	●光り輝く 京都の景観 まちづくり	●学校新時代	●東海支部 会員作品 ●東海支部 会員作品2000 ●東海支部 会員作品2000	●都市の パブリック	●測る—測定方法 と測定結果が 意味するもの—	●改正建築 基準法 —パートII—	●現代の日本 の空間・文 化を探る	●100年後への メッセージ ●日本建築 100周年	●建築の力 ●都市の力	●建築の力 ●都市の力	●私の空間作法 —会員作品—	●第54回 青年技術者
2008 vol.89	●私の空間作法 —会員作品—	●PFI事業、 その後	●東海支部 会員作品 ●東海支部 会員作品2000 ●東海支部 会員作品2000	●都市の パブリック	●測る—測定方法 と測定結果が 意味するもの—	●改正建築 基準法 —パートII—	●現代の日本 の空間・文 化を探る	●100年後への メッセージ ●日本建築 100周年	●建築の力 ●都市の力	●建築の力 ●都市の力	●私の空間作法 —会員作品—	●第55回 青年技術者

*は欠号

gallery

無の器

エンジニア

山内 佳弘 やまうち よしひろ

コクヨファニチャー株式会社

2007年3月オープンのレストラン・美術館のコンセプトは、「美を結ぶ。美をひらく」。展示ケースは極限まで余分な要素を排除する必要があるとの考えにより、ガラスの存在はもとより、ケース自体の存在が目立たないシンプルなデザインで高機能な展示ケース（照明・調湿・免震）を目指した。

特に5面ガラスの独立展示ケースは、ガラスの接合部を全て45度の「留め」にし、エッジの面取り幅を0.5mmと極限までシャープに仕上げることによりガラスの存在感を消し、展示室の空間デザインと自然に一体化した存在となった。

また、ケースの開閉は、本体に隠されたシャフトにより5面のガラス全体が電動で昇降する機構を採用しているが、展示台の開閉の仕組みが外観から分からないようにした。

これらにより、展示台に置かれた作品を鑑賞するのに妨げになるものが一切なく、まさに展示室の中で作品のみが浮かび上がるような展示環境を生み出した。

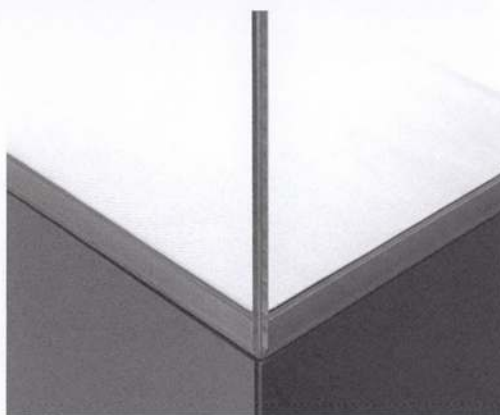
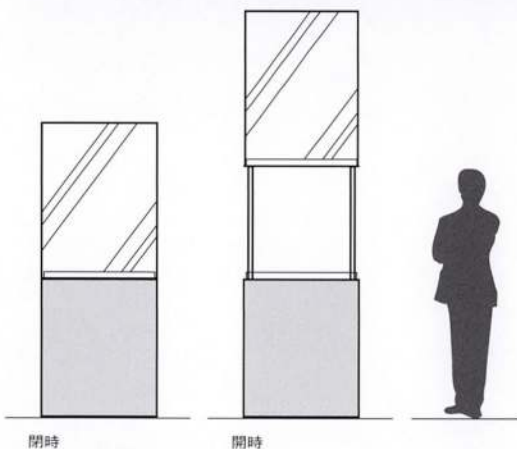
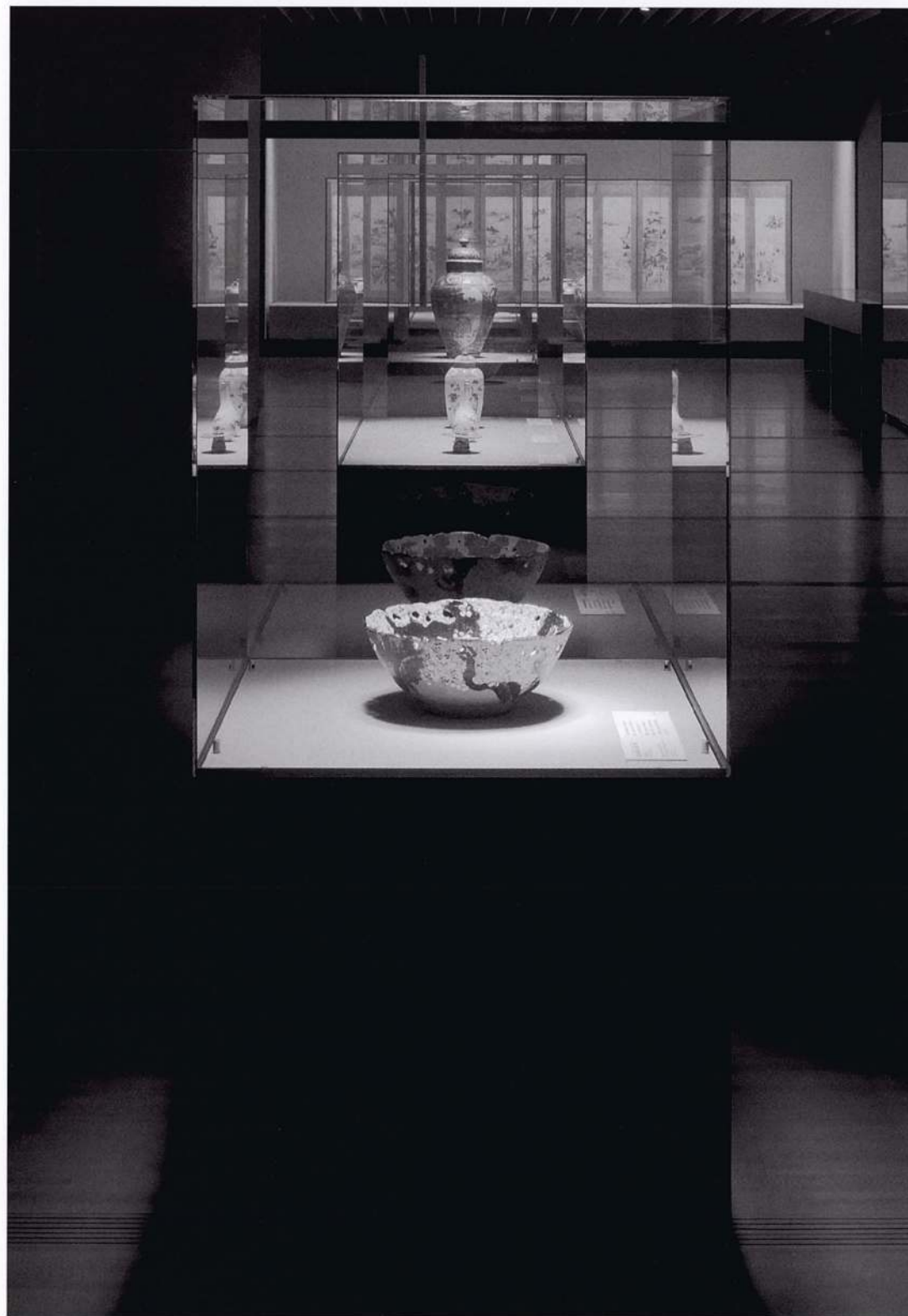
施設名：レストラン・美術館
(2007年3月開館、東京都港区)

山内 佳弘

1958年 大阪府生まれ
1979年 国立明石工業高等専門学校建築学科卒業
コクヨ株式会社入社後
ケースの設計業務を行う

企画編集

芳谷晴彦 (作品作風小委員会)



展示ケース端部

特集 建築と水

間もなく水都大阪2009が開催され、中之島公園を中心に川で作られた水の回廊を生かして様々なプログラムが展開される。一方で大阪に見るような都市レベルでの自然の水利用のほか、古来、人は空間に水を取り込み借景にするなど、建築を語る上で水は重要な役割を果たしてきた。

そこで本特集では、水による建築づくりの様々なアイディアに注目し、設計者の意図とその効果を中心に典型的な事例を考察することで、建築と水との豊かな共存のあり方を模索したい。

編集委員 神戸 嘉也

【総論】

水のインスピレーション ●鈴木博之

【各論—名建築を読み解く】

海に建つ社殿『厳島神社』 ●宮元健次

滝の音を聴く住宅『落水荘』 ●水上 優

水を取り込む／中庭を流れる命の水『ソーク生物学研究所』 ●松隈 洋

【各論—現代建築の魅力を探る】

水の記憶・水の風景『島根県芸術文化センター』 ●内藤 廣

水と地下空間『国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館』 ●栗生 明

水を浮かべる都市のオアシス『オアシス21』 ●葛西秀樹

水をめぐる2つの〈庭〉『佐川美術館』 ●内海慎介

【編集後記】

総論

水のインスピレーション

青山学院大学教授

鈴木博之

■建築は模倣芸術ではない■

多くの芸術のジャンルのなかで、建築は非模倣芸術だといわれる。つまり、絵画や彫刻のように、自然界を再現的につくり出すことがないのが建築なのだ。肖像画や肖像彫刻はあっても、肖像建築が無いことを考えれば、その意味はわかるであろう。模倣芸術は現実の世界を写し、描写し、再現することができるのだ。小説が世界を叙述し、主人公の人生を文字で描けるのは、文学もまた模倣芸術の性格をもつからである。それに対して建築が模倣芸術ではないということは、再現、描写といった手法が建築にはないということだ。

だから、ここで建築と水の間を考えると、水は建築のなかで、あくまでも水でありつづけ、建築は建築として、水とは一線を画して存在する。建築にとってどのようなモチーフも、建築がそれを取り入れる要素、あるいは建築がそのモチーフとどのような関係をつくり出してゆくかという問題としてしか、存在しない。

したがって、水と建築について考えるとき、水のイメージが建築によって再現されたり描写されたりするのは、建築と水の「関係」が建築家によって解釈され、そしてある場合にはそうした解釈のあり方が継承されつづけているのだということをわきまえなければならぬ。つまり、水のイメージが建築のなかに再現されるのではなく、水が建築に何かのイメージを与えるのである。そして、水と建築がもつことになる関係のあり方が、再解釈され、継承されることが起きる。

くだくだしい議論はこれで打ち切って、具体的な建築をたどってゆこう。そこに、建築による、イメージの継承、イメージの再生が見られるであろうから。

■広島平和記念公園の水■

広島市の厳島神社は、海上に展開するきわめて特異な神社である。平清盛の崇敬厚く、いまに残された平家納経は、平安時代の文化の華麗さを瑞々しく伝える。この厳島神社は、聖地である厳島に参詣するための神社である。そのため、聖地厳島を侵犯することの無いように、島の上ではなく、島の前の海上に

神社を展開したのである。厳島では、様々な行為が禁忌として禁じられていた。

海上であるから、そこには起伏はない。文字通り水平な面が広がる。神社は海上から参詣する人びとが潜る大きな鳥居を沖に建て、社殿は整然と左右対称形に広がる。社殿の背後にそびえる厳島こそが、聖地でありご神体なのだった。

鳥居→拝殿→本殿→厳島

これが水上にのびる厳島神社の聖なる軸線であった。水の上であるからこそ、軸線は直線的に延びることができた。

ここからは、わたくしの解釈が始まる。

水上の厳島神社の構成は、丹下健三によって広島平和記念公園計画のなかに再解釈される。丹下は近代建築のヴォキャブラリーを用いて広島平和記念公園を設計しているが、そこに貫かれている直線的な軸線は、厳島神社の水上の軸線の再解釈なのだ。

丹下は建物をピロティによって持ち上げることで、聖なる軸線を地上に延ばすことを可能にした。軸線は中央の建物の下を抜け、直線的に延びて慰霊碑に突き当たる。この慰霊碑はHPシェルのかたちをした一種のトンネル状のモニュメントである。ふつうは墓石のように、あるいはピラミッドのように、マッシブな量塊的なものをモニュメントにするものだが、ここで丹下はトンネルのように中が抜けた形態のモニュメントを据えた(写真1)。



写真1 丹下健三 広島平和記念公園 慰霊碑

このかたちは、一種の鳥居と見えてくるのである。建物の下を抜けてきた軸線は、中空のモニュメントのなかを抜けて、さらに先に延びてゆくことができる。その先にあるものこそ、原爆ドームの名で知られる遺跡なのである。原爆ドームこそ、広島市の悲劇を象徴するシンボルであり、一種の聖なる遺物なのだ。

丹下健三は原爆ドームを平和記念公園のハ
イライトに据えることによって、計画を完成
させた。ここでは、原爆ドームが厳島の一
つな聖地と位置づけられている。

建物→慰霊碑→原爆ドーム

この軸線が広島平和記念公園を貫く聖なる
軸線である。丹下はこの構図が乱されること
のないように、慰霊碑と原爆ドームの間に水
を張り、一種のカナル（運河）を作り上げて
いる。慰霊碑は水に囲まれて建っているの
である。まさしく海中にそびえる厳島神社の鳥
居のように。

丹下健三が広島平和記念公園のインスピ
レーションを得たのは、彼が大学入学以前の学
生時代を過ごした広島で体験していた、
厳島神社からであった。近代建築のヴォ
ーケラと前近代の聖地の構造を結びつけ
られる才能こそ、丹下健三の類い稀な資質だ
った。

■「東京計画1960」の背景■

よく知られるように、丹下健三は広島平和
記念公園の計画を行った後、ハーヴァード大
学で客員教授を務めるチャンスを得て、この
機会に「東京計画1960」と名づけられた都
市計画イメージを提出する（写真2）。

この計画は、未来の東京が東京湾に向か
って伸びてゆく、壮大な海上都市イメージであ
った。水の上は、丹下にとって、文字通りの白
紙（タブラ・ラサ）であり、束縛のない未来像
を描きうる白紙のキャンパスだった。水上のイ
メージは、自由のイメージと重なっていた。

しかしながら丹下健三は、まったく自由に、
何の拘束もない未来都市イメージを提出しよ
うとしていた訳ではなかった。この計画は単
なる「都市計画1960」ではなく、あくまで
「東京計画1960」なのである。それはど
こに現れているのか。

いうまでもなく、この計画を貫いているの
は、東京から伸びる幅の広い軸線である。こ
の軸線が既存の東京から東京湾上に伸びてゆ
くことによって、未来都市東京が生まれ出る。
強い軸線は、丹下がしばしば求めたデザイン
原理であった。それは広島平和記念公園計画
から連続して存在するデザイン原理であり、
さらに言うならば、これは丹下健三の名を一
躍有名にした戦前のコンペにも見られた、彼

のデザイン原理なのである。

東京から東京湾に向かって伸びてゆく都市
軸は、幅広い。海上を幅広い軸線が伸びてゆ
くことによって、交通の処理や、軸線のなか
でループを描く通路ができるようである。だ
が、なぜ幅広い軸線が伸びているのかを考え
ているうちに、重要なことに気づいた。

既存の東京から東京湾に伸びる幅の広い都
市軸は、その幅のなかに皇居を含み込んでい
るのである。つまり皇居から発する軸線が東
京湾に伸びて、「東京計画1960」を形成して
いたのであった。この構図は、厳島から発す
る聖なる軸線が海上に伸びてゆく厳島神社の
構図と全く同一だといってよい。丹下健三の
デザイン原理はここでも貫かれているのだ
った。「水の上を走る聖なる軸線」が、丹下
健三の原理であり、それが彼の近代建築デ
ザインに、超越性をもった独特の強さを与
える秘密なのである。

丹下健三の水の与えるインスピレーション
を生かしつづけていたと解釈できるだろう。

■ハドリアヌス帝のヴィラ■

古代ローマ皇帝ハドリアヌスは、帝国最盛
期を画す五賢帝のひとりであり、ローマ帝国
内を広く旅したことでも知られる。彼は生涯
の決算として、ローマ近郊のティヴォリに広
大な別荘を営んだ。ハドリアヌス帝のヴィラ
と呼ばれるこの別荘は、複合した建築群が
つくりだす都市のようなすがたをしている。そ
こには浴場もあれば、警護の兵士たちが詰
める兵舎もあり、神殿も広場も池も宮殿も図
書館も備えられていた。

ハドリアヌス帝はここに彼がその生涯の
うちに旅したさまざまな場所を写そうと試
みたとされる。ハドリアヌス帝のヴィラは、
それ自体がひとつの世界創造の試みだったと

われるのだ。カノプスと名づけられた場所は、
広い池を囲んで彫像が並ぶ幻想的な小世界
である。そこに皇帝はギリシアに憧れる自
分の精神の拠り所をつくり出そうとしたのだ
った。

また、海の劇場と呼ばれることのある円形
の建物では、水が取り巻く建物のなかに籠
った皇帝は、外部からの接触をいっさい断
って、瞑想に耽ったと言われている。建物
の形式も複雑であり、そこに込められた皇
帝の意図も同様に複雑だった。

ハドリアヌス帝のヴィラは、建築の構成、
そして建築群が生み出す内部空間と外部空
間の関係性の面白さに、多くの建築家たち
が引き寄せられてきた。このヴィラの建
築群の複雑さは、古代ローマにおけるバ
ロックだという人がいるほどである。その
面白さは、近代建築家にとっても変わ
るところはなかった。なかでも、20世紀
建築の巨匠ルイス・カーンはここに通
い、この建築群を研究したと言われ
る。形式に対する意識が強く、建築群の
全体性に興味をもっていたカーンにと
って、ハドリアヌス帝のヴィラはまた
とない分析対象であつたろう。カーン
がハドリアヌス帝のヴィラから何を
持ち帰ったかは、実に興味深い問題
である。しかしそれを考えるためには、
もう少しハドリアヌス帝のヴィラを
歩く必要があるだろう。

広大なヴィラの東の端に当たる部分に、
後世の人びとが「黄金の広場（ピア
ッツァ・ドーロ）」と呼ぶ広場がある。
一辺51メートルと60メートルの大
きさをもつこの広場は、いまだこ
そ廃墟となっているが、両端に多
角形の建物が建ち、周囲を回廊の
ようなかたちで列柱のある建物
が取り巻いていた。そして広
場の中央部には、小さな溝のよ
うなものが設けられていて、そ
こをさらさらと水が流れるよ
うに工夫されていた（写真3）。
広場と水が、



写真2 東京計画1960

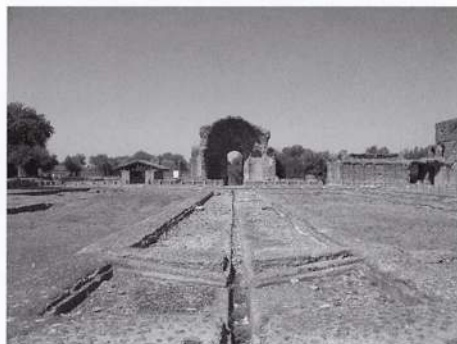


写真3 黄金広場 ティヴォリのハドリアヌス帝のヴィラ

効果的で印象的に組み合わせられていたと考えられるのである。この広場が「黄金の」と呼ばれたのは、誰の目にも広場の素晴らしさが一目瞭然、想像できたからである。

■ハドリアヌス帝に学んだルイス・カーン■

古代ローマ建築の粋といわれるハドリアヌス帝のヴィラのなかでも、もっとも印象的な場所だといわれる「黄金の広場(ピアッツァ・ドーロ)」に学んだのが、ルイス・カーンであつたろう。

カーンの代表作のひとつ、1965年にアメリカ西海岸、カリフォルニア州ラ・ホラにつくられたソーク研究所は、ガラスとコンクリートという近代建築材料、それに加えてトラバーチンとチーク材という古代から知られる石と木材を用いて外装が仕上げられた建築である。ソーク博士はソーク・ワクチンの開発で知られる医学者であり、この開発によって豊かな財力をもつにいたった人物だった。

ここではソークとカーンの関係、建築設計の詳細なプロセスを追うことはしない。ただひとつ見ておきたいのが、この研究所の広場なのである。西に向かって太平洋に開けるこの広場の中央には、細い水路が一条、静かに水を流している。トラバーチンの舗装と、その細工は精密で、カーンの神経が細やかに行き渡っていることが知られる。

これは、あきらかにティヴォリのハドリアヌス帝のヴィラに見られる構成である。そこに見られた広場のスケールと、中央に流れる一条の水を、カーンは臆面もなく模倣したのである。しかしこれは「臆面もなく」ではなく、「敬意を込めて」模倣したというべきところであろう。ハドリアヌス帝のヴィラのもつ、複合的でありながら整然としており、想像力にとんだ構成に憧れ、その分析を行ったルイス・カーンは、ソーク研究所の中心部にそれをよみがえらせたのだった。彼は、古代ローマにおいて行われていた水と建築の関係性が、現代においても同じように感動的で、新鮮であることを、この作品を通じてわれわれに示したのである。そこには、建築を解釈することが建築の創造につながるという、知的な創作の方法が示されている。

そのような目で見直すならば、ソーク研究

所に用いられたトラバーチンという石材が、古代ローマにおいても、もっともよく用いられ、なじんだ材料であることに気づく。トラバーチンを用いることで、カーンは古代ローマ建築の肌触りをよみがえらせているのだ。

建築がどのように過去を継承し、よみがえらせるかを、ソーク研究所はよく示している。建築は模倣芸術ではないと冒頭に述べたが、建築においても、継承、再解釈、意識的引用などと考えられる手法で、建築の意味は伝承される。それは先例となる過去の建築作品の模倣と思われるかもしれないが、縮小再生産のような模倣ではなく、知的再解釈という操作による再創造なのである。2世紀前半にハドリアヌス帝がティヴォリで示した水の扱いは、カーンの手によって20世紀後半になって、アメリカ西海岸に新しく再生したのである。

冒頭で、「建築と水の『関係』が建築家によって解釈され、そしてある場合にはそうした解釈のあり方が継承されつづける」と述べたのは、こうした事例の連鎖をいうのである。

■ティヴォリの水の広がり■

ローマ近郊のティヴォリには、ハドリアヌス帝の別荘が営まれただけでなく、その後の時代にもいくつもの広大な別荘が営まれた。なかでも有名なものが、16世紀半ばに枢機卿であったイッポリート・デステによって造営されたヴィラ・デステと呼ばれる別荘である(写真4)。



写真4 ヴィラ・デステ ティヴォリ

ヴィラ・デステは廃墟ではなく、いまでも美しい別荘として存在しつづけている。この別荘の見どころは、なんといってもその庭園であり、その庭園は水の扱い方の見事さによって有名なのである。ある場所では無数の噴水

が林立し、別の場所では岩のなかから水が轟々と吹き出し、またさらに別の場所ではカスケードとなって水が流れ落ちる。ヴィラ・デステは水の饗宴を楽しむ庭園なのである。

庭園における水は、建築と水の関わりを考えるときにきわめて重要である。わが国の庭園と建築における水は、基本的には静水(たたえられた水)である。心字池などといって、一度に全貌が見渡せないかたちの池を日本の庭園は評価するが、そこにある水は流れではなく、たたえられた水、すなわち静水なのである。動きのある水を考えても、滝と流れが動きのすべてだといってよい。無論、滝にはさまざまな水の落ち方があり、そのための石の組み方があるが、日本庭園には噴水やカスケードはまず見られなかった。

庭園全体のかたちにおける、自然庭園と整形庭園の違いに対応して、水の扱い方にも西欧には林立する噴水、幾何学図形的に配置された滝や噴水など、大掛かりで整然とした水の配置が西欧には多い。

ヴィラ・デステは、まさにそうした西欧的な水の扱い方の集大成なのである。水は動き、並び、離れ、浮かび、舞う。そうしたダイナミックな水を生み出すのが庭園であり、建築はそうした水の動きの舞台装置となり、支えとなり、背景となり、展望台となる。水は華やかに舞い上がり、激しく落下する。

ロマン派の作曲家であり、ピアノの名手でもあったフランツ・リストは、この別荘を訪れた印象をもとに「ヴィラ・デステの噴水」という曲を作曲している。ここでは音楽によって華麗な水の動きが表現されている。このリストの名曲に触発されて、印象派の音楽家たちも水を主題にした曲を作っている。モーリス・ラヴェルが作曲した「水の戯れ」、クロード・ドビュッシーが作曲した「水の反映」がそれである。きらきらと煌めきながら揺れる水のイメージは、西欧庭園に見られる水である。

おなじように庭園の水に触発されて作曲されたものに、スペインのフランシスコ・タルレガが作曲した「アルハンブラの思い出」がある。これはスペイン・イスラムの庭園をもつアルハンブラ宮殿の印象をギターで曲としたものである。ヴィラ・デステの水と違って、

アルハンブラの水のイメージは細かくゆれる
繊細なギターの響きのなかに表現されてい
る。同じ水のイメージによる楽曲であっても、
ルネサンス庭園とイスラム庭園では、やはり
明らかに異なるものがある。水の扱われ方の
違いが、そこに現れるのであろう。

■ティヴォリ・コーナーへ■

ティヴォリが及ぼした影響は、ヴィラ・デ
ステの噴水やルイス・カーンによるソーク研
究所だけではない。ティヴォリという土地は、
ハドリアヌス帝が別荘を営んだ時代から、景
勝の地であり、いくつもの神殿やモニュメン
トが建てられていた。そのひとつに、ヴェス
タの神殿と呼ばれている遺跡がある。

ヴェスタはかまどの神、すなわち火の神で
ある。そうした神の神殿であるところからか、
ヴェスタの神殿は炉を中心にしたかのような
円形神殿が多い。ティヴォリのヴェスタの神
殿も円形神殿であり、深い溪谷を見晴らす眺
めの良い崖の上に建てられている（写真5）。



写真5 ヴェスタの神殿 ティヴォリ

この神殿の廃墟は魅力的な遺跡として知ら
れ、多くの人びとがここを訪れてきた。遠く
からも眺められる崖の上の円形神殿の廃墟
は、ピクチャレスクな魅力に富んでいた。
これは水の話ではなく、火の神の社の話だが、
少し語っておきたい。

ティヴォリのヴェスタの神殿をもっとも有
名にしたのは、18世紀末のイギリスの建築
家、ジョン・ソーンであろう。彼はこのヴェ
スタの円形神殿の、湾曲する壁面の構成を応

用して、ロンドンに設計したイングランド銀
行の外壁の一部を構成した。街路に沿って湾
曲する角の部分、ヴェスタの神殿の壁面構
成を用いて設計したのである。

当時のイギリスの人びとには、そのデザイ
ンが何に由来するかが直ちに理解できた。そ
してそれは模倣というより、古代ローマの遺
跡に対するオマージュと評価されたのであ
る。いまではイングランド銀行のこの部分は、
ティヴォリ・コーナーと呼ばれて親しまれて
いる。インスピレーションの源泉を知ったう
えで、その再解釈の仕方や応用の仕方を楽し
むことが、建築のデザインを好み、評価す
る基盤になっていたのである。建築にまつわ
る原型とその応用の仕方を理解することは、
教養ある人びとにとっては必須のものだっ
た。

さらに話を広げると、このティヴォリのヴ
ェスタの神殿は、戦前の建築教育のなかで、
コピーの課題に使われていた。ヴェスタの神
殿には見事なコリント式の柱が用いられてい
るのだが、この柱の図面をコピーするという
課題が、少なくとも昭和10年代には出されて
いた。

2009年4月に刊行された『立原道造全集』
第四巻は、詩人・建築家であった立原の、建
築家としての軌跡を収めている。彼が書き残
した建築図面は、知られる限りのすべてを収
録してある。そのなかに、彼が東京帝国大学
で建築を学び始めた直後に、課題として描い
た柱頭の図面があった。コリント式で美しい
柱頭である。全集編集時にはこの柱頭がどの
建築の柱頭であるのか、判明しなかった。し
かしながら第四巻が刊行された直後、作業を
手伝ってくれていた大学院生が、この柱頭が、
建築学会の『建築雑誌』に掲載されているこ
とに気づいてくれた。それによって、立原が
課題として描かされたものがティヴォリのヴ
ェスタの神殿の柱であると判明したのであ
った。

編集には間に合わなかったが、これによっ
て戦前の建築教育がどのような教養をベース
にしようとしていたのか、その一端がかいま
見られた。想像をたくましくすれば、当時立
原が師事していた建築意匠の教授は岸田日出
刀であったが、彼以前の建築教育の中心には

辰野金吾がいた。辰野は日本銀行本店をはじ
めとして、多くの銀行建築を手がけたことで
知られている。当然彼はイギリスにおける銀
行建築の代表である、イングランド銀行のデ
ザインを知悉していたであろう。ならば、そ
こにあるティヴォリ・コーナーも、そのイン
スピレーションの源泉であるヴェスタの神殿
も、詳しく知っていたに違いない。そうした
ことから、ヴェスタの神殿の図面が『建築雑
誌』に掲載される機縁が生じ、それが学生の
製図課題として用いられることになったので
はないか。

水にまつわる建築のインスピレーションを
語るうちに、火の神ヴェスタの神殿にまつわ
る建築の物語になってしまったが、建築を巡
るインスピレーションは変幻自在なのだから、
致し方あるまい。

（すずき ひろゆき）

名建築を読み解く

各論

海に建つ社殿 厳島神社

作家・建築家

宮元健次



■大風の通り道■

厳島神社は瀬戸内海に浮ぶ宮島の入江の海上に建つ古社である。社伝によれば593年、佐伯鞍職によって創建され、宗像三女神を祀ったという。宮島は、元来神の島として瀬戸内の漁師や船乗りにも崇拝されてきた。『日本後期』によれば811年、「伊都岐島神^{いづきしまのかみ}」が名神大社として官幣にあずかったと記され、これが史料上の初見である。

十二世紀には、平家の崇敬をうけて発展、中でも平清盛は厳島神社を平家の守護神として位置づけ、今日の姿に近い寝殿造りの社殿が海上に造営された。しかし、宮島は大風の通過しやすい位置にあり、また、瀬戸内が海上交通の要衝であることから、戦火にあうことが多く、下記のように数回にわたって炎上、大破老朽化のために造り替えられている。

1169 (仁安三) 年	造宮
1207 (建永二) 年	炎上
1208 (承元二) 年	上棟
1215 (建保三) 年	遷宮
1223 (貞応二) 年	炎上
1236 (嘉禎二) 年	上棟
1241 (仁治二) 年	遷宮
1450 (宝徳二) 年	社頭大破
1571 (元亀二) 年	造替

現在の社殿は、1571年の領主毛利元就、隆元らによる造替の姿を今に伝えたものだが、今日も大風が通過するたび、破壊された

箇所を忠実に再現されて受けつがれている。

1996年、厳島神社はユネスコの世界文化遺産に登録された。

地図上でその位置を確認してみると興味深いことに気づく。すなわち、厳島神社本殿の軸線を背後の真南へ延長すると標高529.8メートルの弥山山頂にぴったり達するのである。

また、本殿の軸線を南北へ延長すると、大鳥居を通過した後、対岸の宮島外宮を通過、さらに極楽山山頂へと達する。すなわち、北から南へ極楽山、宮島外宮、大鳥居、厳島神社、弥山が一直線に並ぶことになる。

これらの関係は、偶然とは考えにくく、おそらく山岳信仰から、意図的に配されたものといっていよう。

現在の状況にほぼ整ったと思われる1571(元亀二)年の、領主毛利元就、隆元らによる造替の際、社殿にどのような変更が加えられたかは不明であるが、現社殿を詳しく調べてみると、非常に興味深いことに気がつく。

以下、その点について、項目別に指摘してみたい。

■柱の間隔■

厳島神社本社の社殿について、これまでしばしば、その柱の間隔が非常に不規則であることが、先学によって指摘されてきた。

しかし、その原因については、いまだに不明のままである。

そこで、修理報告書の柱間寸法の実測値をもとに、社殿の柱の間隔について考えてみたい。

まず、本社社殿と大鳥居を結ぶ軸線方向の

柱間を調べると、拝殿から祓殿に向って順に、

ア=4.818m

イ=3.939m

ウ=3.030m

エ=3.273m

オ=2.424m

カ=3.939m (回廊の柱間)

キ=2.424m

ク=2.424m

ケ=2.424m

コ=2.485m

という数値が得られる。

図1を見ると、まず気がつくのは、拝殿から祓殿にかけて、柱間がだんだん狭くなっていくことである(カ=3.939mについては、祓殿を貫通する回廊の柱間であることから例外として考えた)。

すなわち、アからイにかけては0.879m、イからウにかけては0.909m、ウ、エはほぼ等しいが、エからオにかけては0.849m間柱が狭くなっていることがわかる。

ここで注目したいのは、ウ≒エ、オ=キ=ク=ケ≒コであることから、ウ、エを一つの項とし、それぞれの値を共存させ、オ、キ、ク、ケ、コについては、オ、キ、ク、ケの値を代表として考えると、驚くべきことに、次に示すような数列を指摘することができる。

$a_1=4.818m$

$a_2=3.939m$

$a_3=3.030m \quad 3.273m$

$a_4=2.424m$

ここで、先に指摘した通り、

$a_4 - a_3 = 0.849m \quad (84.9cm = 3尺 - 2寸)$

$a_3 - a_2 = 0.909m \quad (90.9cm = 3尺)$

$a_2 - a_1 = 0.879m \quad (87.9cm = 3尺1寸)$

という値が出る。従って、

$a_4 - a_3 \div a_3 - a_2 \div a_2 - a_1 \therefore a_{n+1} - a_n \div d$ (ほぼ一定)

という等差数列を社殿の軸と平行した拝殿から祓殿にかけての柱間に指摘することが出来る。

すなわち、柱の間隔が拝殿から大鳥居に近づくにつれて、一定の法則でだんだん短くなっているのである。

そして、その結果、拝殿から青い海に向けて、朱色の大鳥居をアイポイントとして眺め

ると、距離感が実際より短く感じる。

つまり、ここにみごとな遠近法の効果が巧妙に造り出されていることがわかるのだ。

もちろん、偶然こうなったとは考えにくい。

■天井高さの変化■

次に天井高の変化についてであるが、拝殿から祓殿にかけて天井高がなだらかに低くなっており、先つぼまりの空間が造り出されている。

この天井高の変化も日光東照宮本殿と同様のしくみとなっており、遠近法の効果をさらに強調するものとなっている。

■床板巾の減少■

今度は祓殿の床に注目してみたい。

母屋においては、回廊部分の柱間の3.939mを除いて、2.424mで軸線方向の柱間が一定しており、柱の間隔が減少する傾向は、ここではみられない。

しかし、床板を調べてみると、中央の柱間の板が拝殿側から、大鳥居側に掛けて四枚、五枚、十枚となっている。

すなわち、一枚一枚の板の幅は小さくなっていくのがわかり、その結果、ここにおいても遠近法の効果を見い出すことができる。

■本社の全体計画■

さらに、同様の視点から、本殿全体に着目してみたい。

本社社殿から舌先にかけての軸線部分の拝殿、祓殿、高舞台の空間の幅に注目すると、やはり先つぼまりが指摘できるし、また、平舞台から舌先にかけても、同様に先つぼまりとなっていることがわかる。

すなわち、先に述べた社殿の高さの変化だけでなく、幅についても先つぼまりとなっているのであり、その結果として、遠近法の効果を助けるしくみとなっているのである。

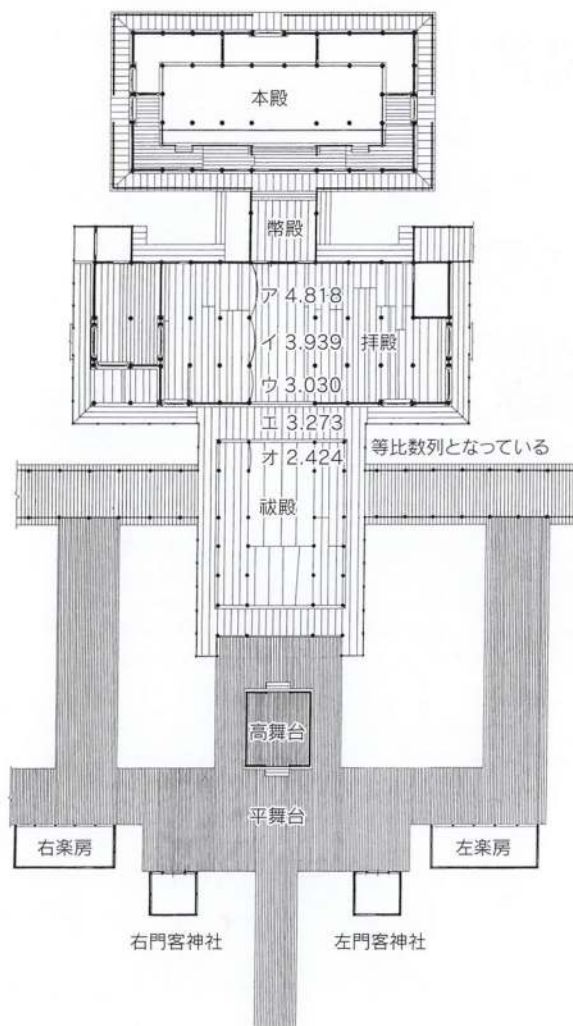


図1 厳島神社本社本殿平面

■空気遠近法■

以上のような、主に形態的な遠近法の手法の数々の他、本社社殿には、実に巧妙な光の演出が作り出されていることを見逃すわけにはいかない。

すなわち、社殿から大鳥居に至る軸線上にみられる光のグラデーションである。

本社の各空間について、本殿から大鳥居方向へ、順に調べていくこと、まず、本殿は、二重の壁や引戸に囲まれているので、外部光がほとんど届かない暗室となっている。

しかし、次に拝殿をみると、壁や引戸は一重となり、本壁より明るいが、全体的に薄い暗い空間が作り出されていることがわかる。

また、それが祓殿となると、建具類はいっさい用いられず、吹き放しとなっており、庇によって外部光が遮られるだけの明るい野外スペースとなっている。(図2)

さらに、高舞台に至っては、屋根さえ設けられず、外部の光が直接あたる完全な外部空間となっているのである。

つまり、本殿から大鳥居に近づくに従って、軸線上の各空間が、徐々に明るくなっていることが指摘できる。

そして、その結果、「暗」から「明」への光のグラデーションとでもいうべき演出効果が作り出されていることがわかるのである。

それによって、本殿側から大鳥居をアポイントとして望むと、やはり距離感が実際より短かく感じるトリック、いわゆる「空気遠近法」の手法がたくみに造形されていることが明らかとなる。

■菱格子戸■

その他、これまで述べてきたような遠近法の効果を助けるしくみとして、本殿正面にみられる菱格子戸である。

普通、本殿正面の扉は、板戸であり、扉を開けずに中を見ることができないのだが、厳島神社の前面扉は格子状の珍しいものとなっている。

もちろん、御神体は宮殿(厨子)の中にあ

るのだが、本殿前面に扉がない神社は、他にまったく例を見出すことができない。

厳島の造営者は、重要な本殿の正面に、このような異常な意匠を用いたのだろうか。

その答えは一つしか考えられない。

すなわち、正面扉を格子状にすることによって、本殿内部がずっと奥まで見渡すことができ、前述の社殿に施された数々の遠近法の手法をさらに生かすために他ならない。

本殿の扉が板戸であつたら、せっかく本殿に巧妙に施した遠近法の効果が薄れてしまう。

前に示した東照宮においても、本殿の遠近法の効果を助けるために、戸袋に引き込まれてしまう独特の扉が内陣正面に用いられていたが、この厳島神社本殿の扉も、くしくもそれと同様の目的を持っているとまず見てよい。

以上、述べてきたような本殿にみられる数々の遠近法が、同時代のルネサンスで大流行した手法であることはいうまでもない。

このような手法は、後に述べるように、やはり、キリシタンを通じて日本にもたらされた西欧文化の影響と見なすことができるのである。

■全体配置計画■

このような西欧的手法といった観点から、最後に本殿だけではなく、厳島神社全体の配置計画についても考えてみたい。

まず、前に述べた数多くの遠近法の手法が仕掛けられていた本殿の中心軸を延長すると、1561(永禄四)年に毛利元就、隆元父子によって再建された大鳥居を通過するが、この軸線をAとする。

次に、1587(天正十五)年に関白豊臣秀吉が建立したといわれる千畳閣の北辺を延長すると、やはり大鳥居を通過するが、この軸線をBとする。

さらに建立年代ははっきりしないが、厳島神社の願主、大願寺の社殿の西辺を延長すると、同様に鳥居を通過するが、この軸線をCとする。

そして、本殿舌先を軸線Aと垂直に延長した軸線Dを引くと、くしくも千畳閣と大願寺の建物端を通過することがわかる。

すなわち、これらの軸線AB,C,Dによって構成される三角形が、厳島神社の諸施設の配

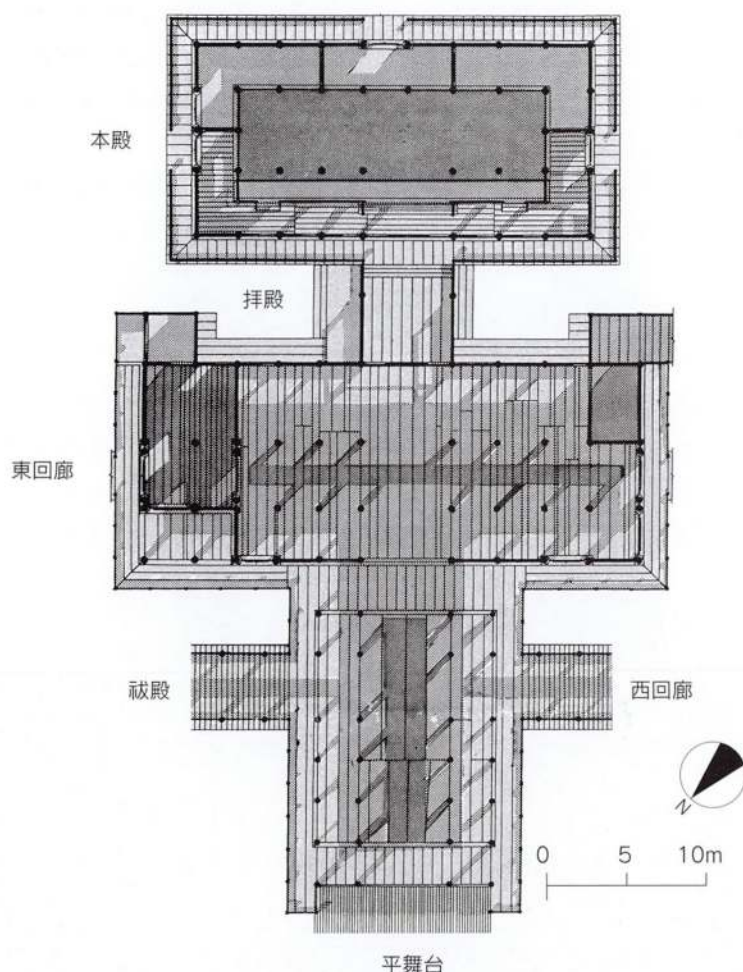


図2 厳島神社本社本殿に見られ空気遠近法

置を決定するために縄張りであるといえよう。

そして、ここで注目したいのは、AとB、AとC、DとB、DとCのかたちづくる角度が、すべて45°になるという事実である。

それまでの日本における建築の縄張りというのは、人工的な幾何学形態にあてはめるといよりは、地形に順応し、対応させることを第一としてきた。

そのため、この45°という角度は、日本建築の縄張りにおいて、ほとんど用いられた例がない(図3)。

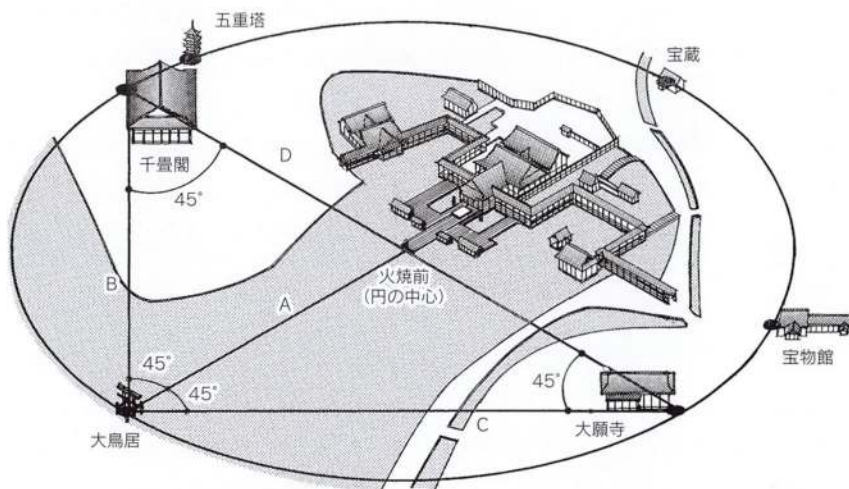


図3 厳島神社は配置図における幾何学の指南

■厳島とキリシタン■

以上、ここまで挙げてきた厳島神社にみられる西欧的造形はいったいどこからきたのであろうか。

これらの諸施設の造営にかかわった人物とキリシタンとの関係について考えてみたい。

まず、厳島神社壇主毛利氏とキリシタンとの関わりであるが、1587(天正十五)年、秀吉による九州征伐を前にして、秀吉が毛利元就の子元春、隆景、孫の輝元に、キリシタン大名として知られる黒田孝高を派遣し、毛利氏の領内に駐在所を設けることを認めさせた。

そのため、もともと輝元や隆景は、キリシタンに対して反対の態度をとっていたが、すでに秀吉に服属し、その秀吉がこの頃はキリシタンに対して格別の好意を寄せていることから、領内での布教を許している。

元就の八男、毛利秀包の妻は、キリシタン大名大友義鎮の第七女で洗礼名をマセンシアといい、夫秀包も妻の影響により、キリシタンに入信。

また、元就の長男隆元の妻は大内義隆の養女であるが、義隆は1551(天文二十)年、ザビエルに山口の布教を許可しているキリシタン保護者であった。

このように、毛利氏はキリスト教に対して全面的に好意をよせていたわけではないが、キリシタンのごく近くにあったことは明らかであり、入信するかいなかは別として、西欧文化に触れる機会は少なくなかったといってい

よい。

書簡の中で、日本から帰航するザビエルと同船したが、その際、ザビエルから厳島布教のときの様子を聞いたといい、そのことは、宣教師ルイス・フロイスも『日本史』の中で簡単に触れている。

つまり、ザビエルは厳島にて布教活動を行ったことがわかるのである。

また、『日本史』によれば、1559(永禄二)年には、宣教師ガスパー・ヴィレラら一行が厳島を訪れ、布教活動を行っている。

それらの様子を画いたものとして、「厳島・天橋立屏風」(図4)がある。

これは、厳島神社の後方を南蛮人が通過している図で、現存する厳島の「反橋」をわたっているものと思われる。

これらの布教を通じて、様々な西欧の情報もたらされていたことは想像に難しくない。それとともに、厳島にもともとみられる国際色をすすめてはならない。

戦国時代、大内氏の本拠地山口が、大内氏の繁栄と文化の奨励をとめない、西の文化都

市の名声を高めたので、文化人の厳島寄島が多くなり、その滞在中に厳島の文化の急激な高まりが生じたといわれる。

また、厳島は堺と中国海路の要港で、船舶の出入り繁く、厳島大明神に対する航海者の信仰とともに、すこぶる繁栄していたという。

厳島神社所蔵の1552(天文二十一)年3月付、堺住人綾井大郎左衛門の奉納絵馬などは(図5)、堺商人が多く厳島と往来したことを示しており、また、海賊に警固料として支払う駄別安堵料の徴集場所ともなっていた。

このように、厳島は国際性豊かな都市であっただけに、やはり、西欧文化にごく近い位置にあったといえる。

以上のような事情からみて、厳島神社にみられる数々の西欧的造形も、ここへきて突然現れたというよりも、むしろ同時ヨーロッパのルネサンス、バロック建築の意匠が影響した可能性を否定できないのである。

(みやもと けんじ)



図4 厳島・天橋立屏風

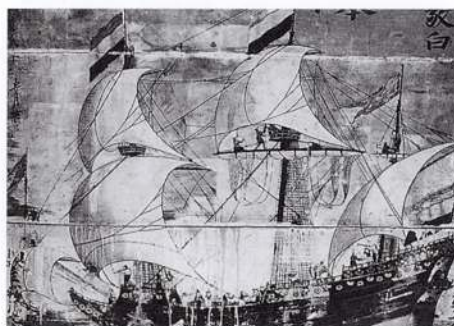


図5 堺住人綾井大郎左衛門の奉納絵馬

滝の音を 聴く住宅

落水荘

福山大学講師

水上 優

■落水荘へ■

フランク・ロイド・ライトが1935年に設計した「落水荘」は、ピッツバーグから南東へ約80km、車で2時間ほどの田舎町ミル＝ランのはずれにある。車を降りて鬱蒼とした木立の中に分け入り、なだらかに下りながら湾曲する道を数分歩くと、垂直方向に林立する木々の向こうに、対比的に水平な層が見えてくる。かすかに滝の音。近づくごとにその音は大きくなり、落ち葉を踏みしめる足音も早くなっていく。かれがデザインした橋の手前で、落水荘の全景が現れる。ベア＝ラン川に迫り出す巨大なバルコニーと庇による水平方向の重なりと、扁平な岩を積み重ねてそそり立つ壁の垂直方向のコンビネーション。橋



写真1 橋の上から落水荘を見る

を渡りながら、訪問者はこの住宅の構成文法を感じとることになる（写真1）。

パーゴラをくぐり住宅背後に導かれると、住宅壁面と敷地の崖に挟まれた垂直方向の空間。壁と壁の隙間に滑り込むように設けられた狭いエントランスから住宅内部に入れば、天井高の抑えられたワンルームの広大なリビング・ダイニングルームに出る。水平に連続した窓の外には、先ほど通ってきた木立の幹が垂直方向のリズムを奏でている。部屋には2つのエレメントが配される。1つは暖炉。炉床の巨大な岩は落水荘建設以前からまさにその場所にあったものであり、ライトを敷地に案内した施主がその上に座って滝の音を聴いていたとされる岩である（写真2）。もう1つは川面に降りていくための階段。スチールフレームのガラス戸を開き、ハッチを押し開けると、吹き込む風と共に川のせせらぎの音が住宅内部に響く（写真3）。2つのエレメントはこの住宅とこの場所とを結びつけるものであり、「音」がその契機となることが窺われようか。



写真2 リビングの暖炉



写真3 リビングから直接川面に降りる階段

■滝と共に住まう■

落水荘は滝の上に建てられた住宅である。ライトによる有名な透視図も滝を見上げる構図で描かれており、滝とその上に建つ住宅が緊密に結びつけられていることを視覚的に強く印象づける（写真4）。しかし滝の存在は、



写真4 滝と落水荘

この住宅内部からは全く目に見ることができない。想定外の提案にとまどう施主に対し、ライトはこの住宅の主旨を『滝を目で見るだけではなく、滝と生活を共にするのです』[GAT3-20]と説明している。本稿では、かれの言う「滝と共に住まう」ことのありようを、かれの言葉の内に訪ねたい。

『落水荘は、とても大きな恵み、それも、大地に於いて（on earth）経験されうるかぎりの大きな恵みのひとつだった。自然との同化、静寂（repose）という大いなる原理に従った表現にまさるものはないと私は思う。ここでは、森と流れと岩に加えてあらゆる建築物がすこぶるおだやかに結ばれているので、騒音は何も聞こえず、清流のせせらぎが音楽となって辺りをひたしている。落水荘で耳を澄ませば、山野の静けさを聴き取ることができるのだ』[GAT3-20]

ライトは他の作品同様に落水荘においても、自然との同化を志向する。ここでは、とりわけ「音」が重要な契機として自覚されている。大いなる原理とされる「静寂 repose」とは何の謂か、この概念にライトが込めた意味をさらに探っていこう。

■素材の本性■

或る講演で、ライトは「静寂」について次のように語っている。

『住宅とはすなわち人間や樹木の素晴らしい仲間であることを、われわれは信じたいのだ。だからこそその住宅は、全体を落ち着かせる静寂と、全体を外的な自然と優雅に一体化させるような肌理とを、持つべきなのだ』[MA65]

ここで言われている「肌理 texture」とは、建築を構成する素材そのものの質感である。炉床の岩から広がる床のスレートは溪流の水

面のようにしっとり鈍く光る。住宅北側垂直シャフトの壁や階段に用いられる地元産の石は、敷地周囲の崖のように乱石積みで荒々しく表現される。外気に触れる開口部にはガラスが用いられ、細いスチールフレームで縁取られる。屋内建具はレッドウッドで、一部ゆるやかな丸みを帯びた手触りのよいものである。これらは互いにその肌理を対比させながら、この住宅の空間に或る種の質を付与しているであろう。素材への注目は視覚的、触覚的レベルにとどまらない。かれが問い表現しようとしているのは「素材の本性 the Nature of Materials」である。

『素材は全て意義深いものである——各々が独自の本性に従う。各々の素材はスタイルの適切な決定要素となる——いかなる素材であれ、それを間違えて使用することはデザイン全体のインテグリティへの侮辱である。スタイルは今や建物そのものに自然な質である。スタイルは内 (within) より発展する。各素材が自然に最も有効であるところの真の形態における、あらゆる素材の適切な使用の報酬は、偉大な静寂——平静 (serenity)、新たな平穏 (tranquility) である』[Tes229]

鉄筋コンクリートは両素材の力学的本性に依拠する故に肯定されるが、かれは単純なラーメン構造を拒む。コンクリート内部の鉄筋が、壁も床も柱も梁も連続的 (continuity) に一体化 (plasticity) していることが本質であり、その表現にはキャンティレバーが相応しいからである。かれにとってこの住宅全体の構造システムは、そのような意味で素材の本性の「真の形態における」表現なのである。

このように、構造的にも意匠的にも素材をその本性において用いることが「静寂」をもたらしと言われるとき、その「静寂」は、単なる音の話にとどまるものではないであろう。『雷鳴とどろく嵐の中にあっても、自然は平静 (serene) 以外のなにものでもない』[Tes180] とも言われているように、静寂は、ライトが「自然」なるものに看取する或る本質的な質である。

■静寂■

素材がその本性において表現されているとき、自然の質としての「静寂」がもたらされ

るとライトは言う。自然における静寂について、例えば樹木に関して、かれは次のように言っている。

『取るに足らない柳の枝の生命原理が、運命遂行の静寂とともに柳の木の十全な表現の高貴な完全性に至るという単純な必然性に、われわれは憧れ驚愕するのだ。団栗は当然のように椎の木の栄光を秘めている。騒がしい松毬は気高い松の木として立ち上がる』[CW1-43]

枝の挿し木から柳が生じ、種子から樹木が生じる事態が言われている。ライトは何に驚いているのか。枝も種子も樹木の部分である。全体から部分が生じ部分から全体が生じる。「部分と全体の相関関係」が言われているのである。これは即ち、ライトの言う「有機的 organic」なる事態に他ならない。その事態は「生命原理 the Life principle」の働きである「生長 growth」という動的事態であり、そこに留まっているのが「静寂」である。先に見たように、かれは建築が人間や自然の仲間であること、建築を自然と一体化することを志向している。そのとき、それら人間や自然や建築を部分とする或る全体が、密かに想定されていると言わねばならない。ライトは著書の中で、いわば独自の天地創造神話とでも言うべき壮大なイメージを展開している。

『岩に囲まれた大地の構造のあらゆる線と実体は闘争を物語っている。全ては、調停を探し求める恐るべき力による傷跡を残し、抗争と征服によって依然として傷つけられている。しかしわれわれの時代において、闘争は静まり、対比的な静寂への道を指し示している。山際の稜線は平原へさらに穏やかに降る。地質の大変動は静まり穏やかになる。高貴な秩序が忍び出て、混沌に勝って立ち上がる』[AML21]

ライトはここで、「大地 the Earth」と「偉大な太陽」との抗争の静まりとして山の稜線が決定されたのだと言い、それを「世界作業 world-workshop」と称している。かれは地平線を独自に「大地線 the Earthline」と呼んでいるが、それは大地と偉大な太陽が会おう線に他ならない。人間も自然も、ここで言われる「大地線」の外に出ることはできない。ライトにとっては、あらゆるものの生長が、

この内でなされることとして捉えられているのである。ユースニアン・ハウスは「地平線の友」と呼ばれる。「大地線」はまた、「静寂の線 the line of repose」[NH17] とも言われている。

このように見ていくと、かれのいう「静寂」の意味の深まりが次第に明らかになってくるであろう。

『静寂の意味を、休憩するために心安らかであることと考えるのではなく、全体への関わりにおいてそれに完全に順応しているが故に、それ以上に心安らかであることと考えなさい』[CW1-23]

人、自然、建築物、あらゆるものを支える全体とは「大地」に他ならない。ライトのいう「静寂」とは、天地の間、物の傍らで、その全体に参与しつつ心安らかに住まう、その根本状態性であると言えよう。

『建築としての建物は、人間の心から生まれ出て、それは土地の永遠の仲間であり、木の同僚であり、人間自身の魂の圏域における人間の反映である。それゆえかれの建物は、身体的な意味以上に精神的な意味での保護と休養と静寂とをそこに求めるところの、聖別された空間である』[Two48]

垂直な木立に囲まれ、溪流の水平な流れと滝の垂直な落下の上で、そそり立つ壁とキャンティレバーで延び広がるスラブによって構成された「落水荘」は、周囲の自然と響きあっている。そして本性に従って表現された素材の傍らで、ささやかに絶え間ない滝の音、ばちばちと燃える炎の音、梢を時折吹き抜ける風の音に、聴き入っていく。そのとき落水荘は「静寂」の留まる空間現象の場所となる。「滝と共に住まうこと」の真意は、そのそこにいることとして、理解されよう。

(みづかみ ゆたか)

参考文献

- [GAT3]: 二川幸夫、B.B.ファイファー: GAトラベラ-003 落水荘、A.D.A.EDITA Tokyo, 2003.
- [MA]: Wright: Modern Architecture, Being the Kahn Lectures for 1930, Princeton University Press, 1931.
- [Tes]: Wright: A Testament, Horizon Press, 1957.
- [CW1]: Pfeiffer, B. B. Ed.: The Collected Writings of Frank Lloyd Wright, volume 1, Rizzoli, 1992.
- [AML]: Wright and Brownell, B.: Architecture and Modern Life, Harper & Brothers Publishers, 1937.
- [NH]: Wright: The Natural House, Horizon Press, 1954.
- [NH]: Wright: Two Lectures on Architecture, Chicago Art Institute, 1931.

水を取り込む／中庭 を流れる命の水

ソーク生物学研究所

京都工芸繊維大学大学院教授

松隈 洋



2003年にアメリカで公開され、日本でも2006年に上映されてたくさんの観客を集めた、建築家・ルイス・カーン（1901～74年）を描いた映画『MY ARCHITECT』に、印象的なシーンがある。この映画は、カーンの息子であるナサニエル・カーンが制作、監督、脚本、出演、そしてナレーションまでを務め、5年の歳月をかけて完成させたものだという。その内容は、複雑な家族事情の下に生まれた彼が、11歳で死に別れた亡き父親の建築家としての実像を求めて、さまざまな関係者に会いに行くドキュメンタリーになっている。建築の世界と無縁だったナサニエルは、父の遺したいくつかの建築と生前のカーンを知る建築家や評論家を訪ね歩いていく。しかし、関係者からは父の難解な哲学を聞かされ、建物を前にしてもどこをどう見れば良いのかわからずに戸惑い、途方に暮れてしまう。

そんな中、「ソーク生物学研究所」を訪れたナサニエルは、はじめて、「父に会えた気がする」とナレーションの中で語る。おそらく、そこからは、むずかしい建築の理論を知らない彼にとっても、人間の寄り集う場所についてカーンが考え尽くした居心地の良い空間が随所に実現されていることを瞬時に感じ取れたのだろう。そして、彼は、そのことを全身で確かめようとするかのように、この中

庭をローラー・スケートで走り回るのである。画面には、軽快な音楽をバックに、父カーンが求めた建築の真実の一端に触れたナサニエルの喜びに満ちた姿が映し出される。

このシーンを見ていて、卑近ながら、かつて私自身がこの建物の中庭で聞いたある言葉を思い出した。それは、1992年の秋、日本へ巡回されたルイス・カーン回顧展に合わせて、アメリカに残るカーンの15作品を巡る視察ツアーに参加する機会があり、その締めくくりに、ロサンゼルス郊外のラ・ホヤという高級保養地にあるこの研究所を訪ねた時のことである。あわただしい日程の中、最後までいはゆっくりとカーンの建築で過ごそうと、3時間ほどは滞在したのだろうか。写真にもあるように、それぞれの参加者は、カスケード（水路）を流れる水音の響く中庭に腰掛けて、遠く太平洋に沈む夕陽を眺めていた。そのとき、その中の一人が、「この建物へ来て、高い所から人間を見下ろしているように思っていたカーンの建築が、はじめて地上に降りてきたような身近で人間的な存在だと感じられた」とつぶやいたのである。

あまりにも唐突な組み合わせかもしれない。けれども、このふたつのことは、「ソーク生物学研究所」の意味を理解する上で、何らかの手がかりを与えてくれているように思う。ここでは、そうした魅力を生み出した源泉である空間の成り立ちと、そこにカーンが込めた思いについて、記しておきたい。



■建設までの経緯と試みられた方法■

小児ワクチンの発明者で知られるジョナス・ソーク博士が、この仕事をカーンに依頼したのは、1960年、カーンを世界的な建築家にするきっかけとなった、「リチャーズ医学研究棟」が完成した直後のことだった。だが、ソークは、この建物にはさほど感動を覚え、むしろ、カーン自身の人柄にひかれた

のだという。こうして、約2年間をかけた設計が始まる。ソークは、まず、研究者が長い時間を過ごすのに相応しい雰囲気を持った空間として、イタリアのアッシジにある「聖フランチェスコ修道院」の中庭とそれを囲む歩廊を具体例として挙げ、カーンへと伝えている。一方のカーンも、1929年の初めてのヨーロッパ旅行の際にこの場所を訪れてスケッチにも描いていたので、そのイメージを即座に理解することができた。つまり、この建物では、設計の最初の段階から、中庭をめぐる空間が主要なテーマとして共有されていたのである。

また、当初の建設構想では、太平洋を見下ろす広大な敷地の中に、大実験室と研究者の個室群からなる「研究の場」と、講堂や図書館、野外劇場、来訪者のための宿泊施設からなる「集いの場」、そして、研究者たちの住居である「住まいの場」という3つの要素にまとめられた建物群が、谷をはさんで点在するという壮大な計画だった。だが、結果的には、「研究の場」だけがカーンの設計によって実現する。興味深いのは、その初期の全体計画に描かれた建物のたたずまいである。ここでは、むしろ、「集いの場」の中にカスケードのある広場と中庭が、それも、後に「インド経営大学」や「バングラデシュ首都計画」で実現する古代ローマの廃墟のようなイメージで描かれている。それに比べて、「研究の場」は文字通りの研究施設として機能的に考えられていたのか、4つの棟の間に緑に覆われた2つの小さな散策用の庭が計画されているだけで、ことさら中心的な空間としての意味は自覚されていなかった。もし、建設予算が潤沢に用意されて、このままの形で全体が実現していたとしたら、おそらく、まったく違う性格のものとなっていたことだろう。

さらに、この建物は、先の「リチャーズ医学研究棟」で試みられた方法に改良を加える形でもあったのだが、その中で決定的な意味を持ったことがある。それは、個人の研究室と大部屋の実験室とを完全に分離し、部屋の性格に適したスケールと素材を用いたことであり、同時に、通常とは異なり、ロビーなどを介さず、個人の研究室が中庭というパブリックな空間をダイレクトに取り囲むというプ

ランを採用したことだった。このことによって、海を遠望する木製の窓をもつ小さな個室群が中庭の印象を決定づけ、この研究所が一人ひとりの研究者が集う空間であることを象徴的に表現することが可能となったのである。

そして、現在見られるような、明るい大理石を敷き詰め、中央にカスケードの流れる中庭が誕生するまでには、ふたつの重要なアドバイスと、それをヒントとして活かし、本質を見つめようとしたカーンの柔軟で粘り強い追求があった。



■中庭の誕生をめぐる思考■

そのひとつは、実験室と研究者の個室群にある中庭は、単に休憩のためのものではなく、同じ建物で同じ時間を過ごしているという感覚を与える場所であり、それをふたつに分けてしまったら、研究者の間に精神的な分断を生んでしまう、中庭はひとつにまとめ、その



意味を大切にしてほしい、という建設の直前になって出されたソーク博士からの疑問とアドバイスだった。この指示を受けたカーンは、すぐさま、建物の階数を増やして建物のプロポーションを大幅に変更し、4つの棟を2つに減らして、間に大きなひとつの中庭を取る設計案を作成している。だが、この段階になっても、中庭には青々とした樹木が描かれていた。そこには、ソーク博士と最初に共有したアッシジの「聖フランチェスコ修道院」の中庭がそうであったように、オアシスのように外部からは守られ、水と緑の自然に満ち溢れた空間がイメージされていたのだろう。その一方で、コンクリート打放しの硬質で精緻な表情をもった建物が完成に近づくにつれて、中庭をこのまま緑で覆ってしまってもよいのか、という疑問も大きくなっていったのだと思われる。こうして、カーンは、決定を先延ばしにして、中庭の景観を決めることなく建物を完成させる。そこには、一方で、予算的な限界もあったのだと思われる。というのも、中庭の整備については、別の寄付金によって賄われ、完成した中庭の入口の足元には支援者の名前が刻まれるからである。

さて、こうして、建物自体は、1965年8月には完成する。いよいよ中庭のデザインをどうするかというテーマに向き合ったカーンは、交友のあった同世代のメキシコの建築家、ルイス・バラガン（1902～88年）のアドバイスを得るため、彼に手紙を書き、現場へと招いている。1966年2月のことだった。そこでバラガンは、次のように述べたという。

「私ならこの空間に木や草の葉は置かない。ここは庭ではなく、石のプラザになるべきだ。もしここをプラザにすれば、ひとつのファサードができる一空へのファサードが」

この言葉をカーンは啓示のように受けとめ、1967年の夏、中庭を大きな余白として残し、その中央にカスケードを配した設計案がまとまり、建設に着手する。建物の竣工から2年が経過していた。こうして、中庭を中心とする空間が誕生する。

おそらく、完成した中庭とそれを取り囲む研究者の個室群が生み出したたたずまいは、カーンの想像をはるかに超えた象徴性を実現

したのだと思う。そこには、人間の手によってつくられた空間が、それを取り囲む自然と遠くに見える太平洋と対峙する、ひとつのステージのようなものとして立ち現れたからである。カーンは次のような言葉を残している。

「建築とは自然がつくり得ないものです。自然は人間のつくるものをつくり得ません。人間は自然—ものをつくる手段—を用い、そしてその法則を取り出すのです」



カスケードの水音と研究者たちの会話する声が響き、行き交う人影のシルエットが浮かび上がる中庭とそれを取り囲む建築は、そのすべてが人間のつくりあげた人工物であり、それらが切り取るのは、遠くに広がる海と空という自然である。そして、そのいずれもが移ろい行く時間だけを感じさせてくれる。この対比こそ、建築だけが実現することのできる風景であり、ナサニエル・カーンが父に出会えたと実感できたのも、訪れる誰もが彼の人間性への共感を抱くことができるのも、そこから、人間だけがつくり得る建築の讃歌が聞こえてくるからだと思う。そして、そこに静かに流れるのは命の水にほかならない。

(まつくま ひろし)

■参考文献

デヴィット・B・ブラウンリー、デヴィット・G・デ・ロング編／東京大学工学部建築学科香山研究室監訳『ルイス・カーン—建築の世界—』デルファイ研究所1992年

現代建築の魅力を探る

各論

水の記憶・ 水の風景

島根県芸術文化センター

建築家・東京大学大学院教授

内藤 廣

「水だけは勘弁してほしい」、「すぐそばを川が流れているんだから水盤は無くてもいいんじゃないか」、「海だってすぐ近くにある、わざわざ水面を作る必要なんてないよ」。県立の劇場と美術館が一体になった巨大な建物である島根県芸術文化センターの設計に取りかかったばかりの時に、発注元である県のお役人、それも幹部達から言われたことだ。彼らはなんとか広場の中央にある水盤を止めさせたかったようだ。

どうも、これまで何度も公共施設の水盤で失敗してきたようなのだ。おそらく、藻が発生する、メンテナンスに手間がかかり過ぎる、費用もかかる、水が漏れる、子供が入って遊んだら危険だ、彼らの頭の中に浮かび上がって来る幾つもの理由が想像できた。公共施設、それも限られた予算の中で実現する施設なのだから無駄は許されない。ましてや島根県の現状は厳しい。責任のある立場の人たちなら至極当然の発言だろう。この局面では、設計者がいくら美しさを説いても無駄だろう。

当初から、240もの部屋があるこの複雑きわまりない施設の中心に、45m四方の大きな広場を計画していた。全体をひとつにまとめるには、求心力のある広場がぜひとも必要だと考えていた。劇場や美術館の機能が大切なことはもちろんだが、それをまとめ上げる第三の強い要素が必要だ。それが無ければただの便利なだけの公共施設になってしまう。

しかし、この建物のミッションは、それを遥かに越えるものを背負っているように思えた。ただの文化施設ではない。五期務めた澄田知事が、益田市がある石見地方の再生を願って任期最後のプロジェクトとして取り組んだ。いまや県庁所在地以外の地方都市ならどこでも同じだが、この街も退潮が著しい。それだけに街の人たちの期待も大きい。この建物が担っているのは、この街の再生、さらにはこの地方の再生の一端を担うことだと理解した。それが設計に取りかかったときの心構えだった。

それには機能を越えた何かが必要だ。初めに感じたのはそのことだった。当初から計画の中心に広場はあったが、それだけでは足りなかった。広場の強さ、それが象徴的な存在になる、その広場が単なる広場を越えて何か

の意味を持つには、どうしても水盤が必要だった。だからこだわった。



益田は不思議な街だ。古い街だが特段街並が残っているわけではない。一部に街道町の名残をわずかに残しているが、街としてこれといって見るべきものは少ない。かつては川沿いに蔵があったらしいが、暴れ川である益田川の河川改修でそれらも無くなってしまった。街で目にするのは歴史的な建物ではなく、戦後出来たような建物ばかり、それともかなりくたびれた感じだ。街並が残っている津和野とはそこが大きく違う。ちょっと見ただけでは、どこにでもある地方の疲れ果てた街と変わりはない。しかし、しばらく居るとそれだけではないことに気付く。街全体に不思議な目に見えない霧のようなものが覆っているのだ。

江戸時代より以前、益田は石見地方の中心としてたいそう栄えた。古くは、宮廷歌人であった柿本人麻呂がここで生まれ没した場所だ。また、画家の雪舟が晩年頻繁に訪れ、ここで没したといわれる。雪舟作とされる庭園が益田川沿いの萬福寺に残っている。そうした文化を生み育てる歴史がこの地には確かに存在したのだ。それだけ豊かであったということだろう。

街の名前にもなっている益田の殿様であった益田元祥は、関ヶ原の戦いで毛利氏に付き従い、その後負け組となった毛利氏が今の山

口県である周防長門に封じられた時、毛利に従ってこの地を離れた。それ以来、江戸期を通じて益田は消長の長い道のりを辿る。この街に古い街並が残されていないのは、そうした理由による。何も無いのではない。何かある目に見えない霧のようなもの、わたしが感じ取った不思議な雰囲気、それは人々の心の中に残る遙かな時代から伝わって来る微かな息づかいのようなものかもしれない。

わたしが広場に求めたのは、そうしたはつきりとは言葉にならない漂う霧のようなものを留める場所を作ることだった。そのためには、広場はただの広場を越えねばならない。微かな歴史の響きと共鳴するものでなくてはならない。そのためには水が必要だ。水は人に現を越えた想像力を与える。水、それも鏡のような澄んだ水だ。



県庁の幹部の反対にもかかわらず、水盤にこだわったのにはそうした使命感にも似たものがあつたからだ。結局、知事に裁断を仰ぎ、了解を得て広場の中央に水盤が実現した。

知事の心の中にも、単なる公共施設を越えた何かを実現したいという強い思いがあつたに違いない。県庁幹部の意向を多少は聞くことにして規模を少し小さくした。さらに、イベントなどで全面的に広場として使うときは、水を抜けばあつという間に広場になる、というアイデアを組み込んだ。このプロジェクト全体は、財政危機もあって何回かコストダウンと規模の縮小を余儀なくされたが、広場と水盤のアイデアは、県庁側もわれわれ設計サイドも揺らぐことがなかった。

イベントが無いときは、ガランとしたスペースが空いているだけでは格好がつかない。ふだんは水盤が広場の中央に鎮座しているべきだ、と考えた。しかし、出来上がって三年が経ったが、実際はどうなっているのかとい

うと、当初考えていたのとは全く違う様相を呈している。水盤は市民にたいそう好評で、また、この建物の運営する側も気に入ってくれて、ほとんど清掃の時以外は水盤のままでは使われ続けている。イベント自体も水盤を利用して行われることがほとんどだ。容易にただの広場に変貌するシステムにしているのだが、水盤を広場に変えてイベントが行われることは少ない。例えば水盤の真ん中に簡易の舞台を設けて神楽をやる。水盤の真ん中にアーティストにデザインさせた露天風呂を設える。いろいろな試みが水盤を使って行われている。

夏場ともなれば、水盤は街の子供達の格好の遊び場となる。街の子供でなくとも、この建物を訪れる家族連れで子供がいるときは、十中八九子供は真っ先に水盤を目指す。また、人がまばらな平日の午後ともなれば、散歩がてらの老人が、広場の端に置かれたベンチに腰掛け、ただひたすら水盤を眺めて思いに浸っている風景をよく見かける。水盤は人の心を映し出す。まっさらな子供達の直感に働き掛け、老人達の淡い思い出に呼び掛けているのである。

この建物は、全体として群をなしている。切り妻屋根という基本的な建物の形式があり、コンクリートと石州瓦という極めて少数の限定された素材で出来ている。単純すぎるこの構成を救っているのが、それらの連なりと組み合わせによる群としての全体構成だ。全体はイタリアの中世都市のようにも見え、それでいて日本の伝統的な建物のような表情も見せる。群としての建物は街に対して広がりを持ち、この場所に密度の高い空間の濃度をもたらしている。

建物が出来上がって気がつくこともある。あらかじめ意図したことではないのだが、この建物は、歴史の中のどの時代にも世界のど



の場所にも属さず、建築史の中のどの様式にも含まれないように見える。一方、これは設計している時から願っていたことだが、ただひたすらこの場所を過去から未来へと貫く時間の中に佇んでいるようにも見える。その貫く時間をもたらしているのは、水盤に他ならない。

水盤によって、広場は単なる広場を越え、さらには、水盤は広場の中央に置かれているが故に単なる水盤であることを越えている。この鏡のような水面は、在るようであり存在せず、陽炎のようでありながら確かに物質として存在する。

不思議な街に不思議な建物、そして不思議な広場が出現した。水盤は、この街に漂ううつらとした霧のような空気をしっかりと受け止めているような気がする。水盤と戯れる子供達、水盤をひたすら眺める老人達、彼らの目にはこの水盤を貫いているものが見えているはずだ。

(ないとう ひろし)

現代建築の魅力を探る

各論

水と地下空間

国立長崎原爆死者没追悼
平和祈念館

千葉大学大学院工学研究科教授

栗生 明

「昭和20年（1945年）8月9日午前11時2分、長崎市に投下された原子爆弾は、一瞬にして都市を壊滅させ、幾多の尊い生命を奪った。たとえ一命をとりとめた被爆者にも、生涯いやすことのできない心と体の傷跡や放射線に起因する健康障害を残した。これらの犠牲と苦痛を重く受け止め、心からの追悼の誠を捧げる。原子爆弾による被害の実相を広く国の内外に伝え、永く後代まで語り継ぐとともに歴史を学んで、核兵器のない恒久平和の世界を築くことを誓う。」

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館のエントランスにはこの銘文が刻まれている。

原爆投下から60年。原爆体験の風化が懸念される中で、長崎平和公園は原爆の犠牲になった尊い命を追悼し、平和を祈る場としての役割を担っている。

この平和公園の中に建設された「国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館」は、国として原爆死没者への追悼の意を表し、永遠の平和を祈念するとともに、原爆の惨禍に関する世界の人々の理解を深め、被爆体験を後代に継承するため、被爆地広島とともに、長崎に設置する国の施設としては初めてのものである。

公募型プロポーザル方式で選定された原案では「水」は大きなテーマとはなっていなかった。プロポーザル時の原案では、提案募集

要項にあった、「長崎市におけるシンボル性」という要求に答える為、市内各所から見える遠望を重視したものとなっていた。メモリアルウォール、メモリアルタワー、メモリアルスリット、メモリアルプレートなどと称した巨大な構築物の構想は、例えば対岸の稲佐山から遠望した時、浦上天主堂、大浦天主堂、日本26聖人殉教地史料館とならんで風景の中に屹立し、記憶に残る姿でありたいと願ったものであったからだ。

もちろん近景においては戦後大きく変貌した風景を遮断し、失ってしまった自然を取り戻す仕掛けとして、緑や水、さらには光や風を効果的に演出し、命の息吹を表現しようとしていたが、それはあくまでも二次的なテーマであった。

しかし、具体的設計段階で構想は思いもよらぬ方向に大きく変貌していった。

まず、敷地は長崎市が管理する平和公園の中に設定されていたのだけれど、既にこの公園内に法的に許容される建築面積はほとんど残されていないことが判明したのだ。法を守るとすれば、施設のほとんどを地下化するしか要求されていた面積を収めることはできない。国の施設でもあり、施設の果す重要な役割から考えて、超法規的な扱いとすることも国土交通省では検討された。

こうした状況のなかで、超法規にたよらず全ての空間を地下に埋めることを決意させた



のは、原爆死没者遺族の方々の次のような言葉だった。

「人を驚かすような目立った施設はいらない。我々はただ静かに祈りをささげる場所がありさえすればいい」

この言葉は我々設計する者にとって、とても重いものとして理解された。そして「静けさ」と「祈り」を実体化するためにも地下空間が選択されたのだ。

一方、開け放たれた地上部は、常に水音を立てて溢れ出る直径30メートルの水盤を設えることが決定された。これも、原爆死没者が最期に水を渴望したことを多くの遺族から聞き、鎮魂の意味をこめて、この建築のいたるところで水を体感させることにしたのだ。水は生命の源として、天空と地上と地下をつなぎ、時を越えて人々の精神に働きかける。「水」はこの建築の大きなテーマに育っていた。

敷地はただでさえ騒がしい修学旅行などの団体バスやタクシーなどが利用するロータリーの中心に設定されている。この場所を緑の結界で取り巻き、中心に地上50cmの高さのテーブル状の水盤をすえた。

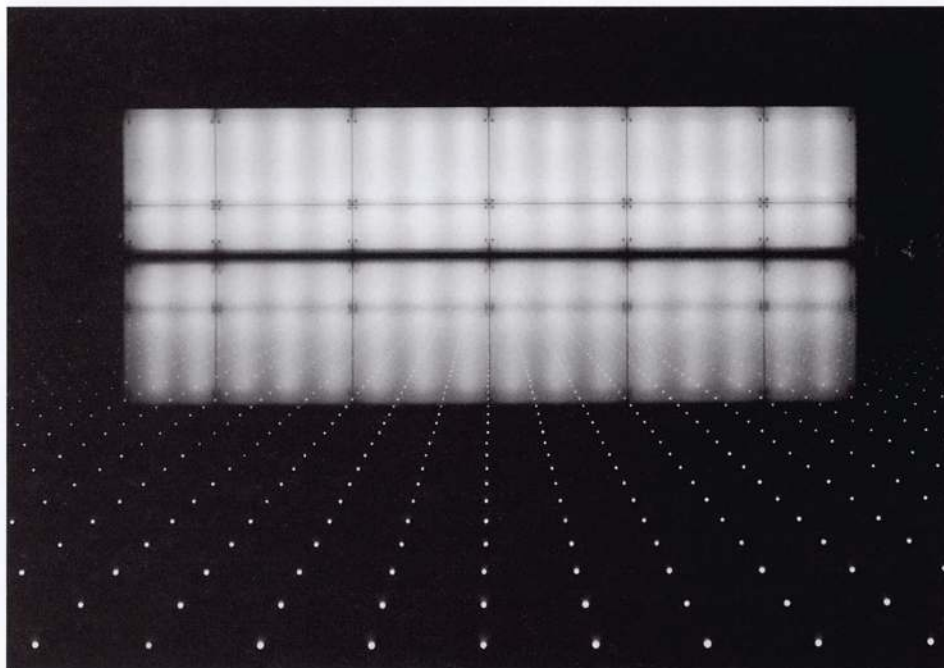
水盤の円周から流れ落ちる水音が周辺の騒音を消し去り、さざなみがたつ水面は光がきらめき、鏡面となる水面は空が映り、雲が流れて行く。地上の水は地中への壁面をつたう

滝となって地下広場に流れ落ち、時には地下広場を水没させる。そして地下の水面は地上と同じように、切り取られた天空を映し出す。地下の回廊のところどころでも地下水脈が沸き出すような水盤が設えられ、水のゆらめきを光が反射して壁や天井を彩る。ここでもかすかな水音がたえまなく聞こえ、地底での祈りの空間に人々をいざなう。

夕暮れになると、地上の水盤の底に埋め込まれた7万個の小さな光がその輝きを増してくる。実施設計段階で厚生労働省からの要請で7万人の死没者の数の表現が求められ実現したものだ。直径、0.75mmのプラスチック光ファイバーを、ジェット水流により小さく穿たれた水底の御影石に貫通させ光らせた。照明デザイナーの面出さんと原寸の模型で何度も適切な水深を探った。そして水深50mmが最も美しく効果的な逆円錐形の光を発することを発見するにいたったのだ。

盛夏、炎天下の現場では、御影石に膨大な数の細いグラスファイバーを貫通させ端部を接着する作業が延々とつづけられていた。その数7万ヵ所。このひとつひとつの手作りの作業が、ひとつとして同じに光らない7万個の光の粒子を作り出している。わずかな風にゆれる水面に浮かぶ光の粒は異なる7万の唯一無二の個性を持った原爆死没者の魂の表徴に見えてくる。

(くりゆう あきら)



水を浮かべる 都市のオアシス

オアシス21

大林組設計部 課長

葛西秀樹



■都市のオアシス■

大勢が集う都市のパブリックスペースでは、さまざまな予条件を高密度で実現することが求められる。オアシス21では、環境と情報の交流をテーマに、水の宇宙船、公園、バスターミナル、商業施設、イベント広場といった施設を立体的に積層した「都市のオアシス」となる拠点を目指した。

■二層化した都市の活性化■

敷地のある名古屋市は、夏は蒸し暑く、冬は寒いといわれ、地上の緑豊かな公園よりも、空調の整備された快適な地下街に人々が集まっていた。地上と地下に二層化した都市を活性化するために、敷地の中央に風穴を開け、ガラス屋根に水を溜めた「水の宇宙船」を浮かべた。自然採光や自然換気を地下空間に積極的に取り込みながら、水盤の屋根によって、夏の暑さや冬の寒さを和らげる効果を狙っ

た。加えて地下の広場をアトリウムのような屋内空間にしなかったことで、設備機器のインシヤルコストとランニングコストの大幅な削減に成功している。

■水の宇宙船■

ガラスの空中歩廊と水盤面で構成された「水の宇宙船」は、都市のランドマークとなる環境のシンボルとしてデザインしている。水とガラスを透過した太陽光が地下広場にうつろう光の波紋を無数に描き出し、訪れる人々に水中にいるような安らぎを与える「都市のオアシス」を提供している。日常見過ごしてしまう、なにげない環境の変化を、水を透過した幻想的な光によって体験することで、環境に対する意識を促すことを意図した。

「水の宇宙船」の空中歩廊からは、敷地内の植栽や、水面下の地下広場、隣接する久屋大通公園の豊かな緑が展望でき、都市に残された貴重な自然を空中から再発見する場となっている。空中歩廊を下から見上げると、歩行者の影がガラス越しに影絵のように見え、地下と地上の視覚的な距離感を縮めることにも役立っている。

■浮遊する光景■

全長約106m、幅約36mの巨大な構造物。

宇宙船が浮遊する無重力状態のイメージを具現化するため、組み立て式のカヌーの構造を引用し、フィーレンデル架構と張弦梁による軽快でスレンダーなフォルムとした。屋根面は強化合せガラスで構成され、歩廊部の



ガラスには乳白色の中間フィルムとセラミック焼付けによるノンスリップ加工を行い、浮遊するような歩行感を実現している。ガラスの突き合わせ目地は、シール切れを考慮してガラスの下に特殊な樋形状のガスケットを設置し、シンプルなディテールで荷重を受けながら排水機構を持たせた。地下広場に青色の床材を用いることで、歩廊部から水面を眺めた時に水面に波が立つとプリズム効果で水面が青く見え、遠景にいくに従い空の青が水面に映り込む。まるで地球を水面に閉じ込めたかのような光景である。

■水資源の有効活用■

水盤の景観水は無駄に排水しないように循環ろ過を行い、循環の過程で施設内のトイレの中水としても有効活用しながら、減った分だけを井水等によって補給している。そのため水盤の景観水は3日ほどで新鮮な水と入れ替わり、日当たりの良い水盤での藻の発生を効果的に防いでいる。逆の発想をすれば、トイレで消費する水を、循環の過程で景観水として役立てているとも言えるだろう。



■環境調査による考察■

水の宇宙船の水盤は、竣工後の環境調査から屋上緑化の約3倍のヒートアイランド抑制効果があることが確認されている。地上部分の緑化面積と合計すると、敷地全体を緑化したことと同程度の抑制効果である。また、水盤下の空間についても水が輻射熱を抑えるため、一般的なガラス屋根と比較し、快適な熱環境となっている。緑化スペースを確保するのが困難な都市部では、水による環境の整備は新しい建築の可能性を秘め、今後の展開が期待される。

(かさい ひでき)

水をめぐる 2つの〈庭〉

佐川美術館

竹中工務店設計部 副部長

内海慎介

■水上の回遊式庭園一本館■

佐川美術館の敷地は対岸に比叡山、比良山を望む琵琶湖畔にあり、歴史・自然の両面に恵まれた、時間・空間の雄大な広がりを感じさせるユニークな場所である。本館^{※1}は湖畔の景勝地という立地の特徴を生かすとともに、湖を埋めたてて造成されたこの地の古来よりの心象風景を再生し、建築とランドスケープの一体化した雄大な風景の創出を求めたものである。そのため敷地の大半に水庭を設け、水上の回遊式庭園ともいべき環境づくりを行った。

水庭に浮かぶ建物へは、橋を渡り、70mの外埠アプローチをゆっくりと水を感じながら歩み、非日常への気分の転換を行う。建物内部においても展示室を除くすべての経路空間は全面開口とし水庭と一体化した。なかでも2棟をつなぐ渡り廊下とカフェは大版ガラス



パース 奥に本館、手前に別館（施設の大半は地下に設置）



外部アプローチ（本館） ○ 撮影：村井修



水庭に面したカフェ（本館） ○

を用いた極めて開放的な場所とし、季節、天候、時刻に応じて多様に変化する水の表情を間近に楽しめる特徴的な場所として来館者に親しまれている。

また夕刻にはライトアップを行い、水庭に浮かぶ建物全体が一つの照明器具と化し、樹木のライトアップや水にゆらぐ光とともに幻想的な風景を提供している。^{※2}これを生かしたトワイライトコンサートなどの多様なイベントも継続し、美術館の楽しみの一つとして定着することができた。

■水上の茶室と水底の非日常空間一別館■

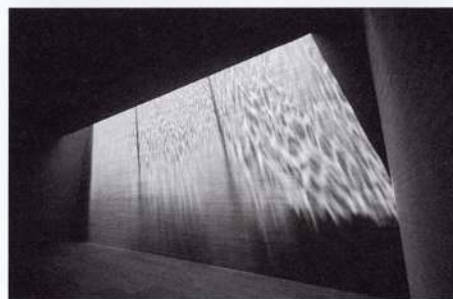
別館^{※3}は樂吉左衛門氏^{※4}とのコラボレーションによる氏の茶碗に調和する〈現代の茶室〉と非日常的展示空間創出の取り組みである。本館から拡張された水庭に浮かび、しかも茫々たる水生植物に囲まれた茶室のみを地上に配し、それは葦や蒲、水面、そして大型割れ肌石の他、個性的な材料を吟味厳選して茶碗との調和を追及した異空間とした。

そして茶室アプローチを含め展示空間等の機能はすべて水面下の地下に配し、その特徴を生かした水の演出を行った。

本館からの渡り廊下を進み、階段で地下1階へ進み別館に接続される。更に大階段で1層下ると地下2階に到り、そこは、水のゆらぎを映す天空光を導入した水面下の地下大空間で、非日常的展示空間へ至る気持ちの準備を行う。作品鑑賞への集中を狙った暗めの展



地下ホール（別館） ○○ 撮影：畠山崇



水のゆらぎ（別館） ○○

示室への導入のための眼や心の馴化のスペースでもある。地下1階、奥に設けた茶室アプローチ（外露地と内露地）には、水膜滝に囲まれた円形水露地を核として水の音や、外気、微かな自然の光や、スリット状の採光によって、水面下の場所を暗示し、水庭を直接見せるのでなしに潜在意識に訴える水の表現とした。苔や草木に代わって〈水〉で客を迎える現代の露地である。

■水をめぐる2つの〈庭〉■

10年という時間の経過のなかで、水との関係をテーマに2つの建築を計画し振り返って感じるのは、いずれもが現代の技術や素材を駆使してはじめて実現できた現代建築には違いないが、それはまた周辺環境と応答しながら理想の環境をつくるという古来からの庭園の文化を継承する取り組みでもあり、水をめぐる2つの〈庭（ランドスケープ）〉の創出ではなかったかとの思いである

（うつみ しんすけ）

※1. 本館

佐川急便創業40周年記念事業として1998年3月開館
日本画家 平山郁夫氏、彫刻家 佐藤忠良氏作品の常設展示の他、企画展示も開催

※2. ライトアップ

秋季イベント時等で見学可

※3. 別館 樂吉左衛門館

佐川急便創業50周年記念事業として2007年9月開館
陶芸家：樂吉左衛門氏の設計創案により、氏の作品展示室と茶室より成る

※4. 樂吉左衛門 陶芸家：樂家十五代当主

※ 佐川美術館

ホームページ：<http://www.sagawa-artmuseum.or.jp>

茶室見学は事前申込が必要

編集後記

建築計画系委員

『水が建築に何かのイメージを与える』

これは鈴木博之氏が総論で冒頭に綴った一節であるが、今回テーマの主旨が的確に表現されている。各論では、名建築を読み解く一方で建築家自らの作品を語る場面を織り混ぜるなど、現在・過去・未来に渡って『建築と水』との共存の在り方を様々な角度から捉えられるよう配慮した。この特集が、今後読者が建築をつくる際に、『水』を通して豊かなイメージを膨らませる一助になればと思って

(幹事・神戸 嘉也)

私事で恐縮だが、ある建物の外部空間に水盤を配したことがある。設計時は風景の一要素として水を不可欠な存在と捉えていたのだが、完成した水面の前に佇み、水がもつそれ以上の力に魅せられていた。それは水という存在が人の心を「時」と「想像」という感覚で満たし、建築を心象として感じさせる力があるからなのだ。と今回の特集によって深く認識することができたように思う。

(奥村 朋孝)

「建築と水」という単純なテーマであったが、文中に登場する建築と水とのかかわりを通じて、水による様々な手法や仕掛け、役割や意味、またそれによる効果など、それぞれ、この建築があるがこそそこに水があるし、そこに水があるがこそその建築があるという、建築と水との奥深い関係を改めて実感することができた。それと同時に、強い意志や思いがなければ「建築と水」とのすばらしい関係は生まれないと感じた。

(楠 敦士)

「建築と水」というそれぞれの記述の中に、建築家としての共通したある意識を垣間見た気がする。水の存在が「聖地」「静寂」「歴史」「時間」「生命」「環境」「非日常」といった多様で豊かな解釈を建築に付与している。その建築の中では水はゆるぎない存在として位置づけられる。建築に重要な光や風といった自然要素の中で「水」は視覚的にも独特の気配感を持ち、自然に人の心に染込む力を持っていることがその魅力だと実感した。

(静 茂夫)

水は重力に逆らえない。低く水平をなして空を映すか、あるいは滝となって垂直に流れ落ちるか、その姿はさまざまだが、建築が常に重力に逆らって立つ存在であることは対比的だ。ミースのバルセロナパビリオン、バラガンのヒラルディ邸、スカルパのクエリーニ・スタンパーリア財団、坂倉準三の神奈川県立近代美術館など今回取り上げられなかったが、建築家がどのように水を取り込んだかの秘密を探りたい名建築は数かぎりない。

(下坂 浩和)

水と建築とが不可分な関係にある事例を題材に、水と建築の諸相を描く目的で、今号は企画された。企画検討の段階では他にも、ルイス・バラガンやローレンス・ハルブリン、谷口吉生の作品、ヴェネツィア等も案として挙げられたが、都合により見送られた。潤いとしての水、闘としての水、自然としての水、共同体の象徴としての水等々、話題は尽きない。

(米山 剛史)

水は何か特別な存在だと常々感じる。建築の素材としても、しつらえ次第で形を変え、触れれば纏わりつき、風で揺れる。また水の流れや音は、ほぼ無条件に安心感を生む。

今回は、そんな建築と関係する水について、様々な視点で切り取り、読者に伝えるものにしたという編集委員の思いから生まれた。その思いが皆に伝わると共に、ここに載せきれなかった水の作法をも意識し、新たな水との関係が生まれることを願う。

(所 千夏)

建築計画系の特集はここのところ「建築と社会」の「社会性」に焦点を当てた企画が多かったが、今回はまず具体的な「水」をテーマとした「建築」をとりあげ、その「建築」と「水」との関わりについて論じていただいた。全体を通読してみると、「作品性」や「作家性」、あるいはその建築思想に焦点を当てた特集となったように思う。建設という行為を通じて環境を疲弊させることに荷担している自らの立場を省みる時、「水」は大きな「救い」でもある。

(野田 隆史)

御堂ビル

再読 関西近代建築

モダンエイジの建築遺産

橋寺 知子

所在地／大阪市中央区本町4-1-13
設計／竹中工務店
施工／竹中工務店
竣工／昭和40年3月（1965年）
構造／鉄骨鉄筋コンクリート造
規模／地下4階地上9階塔屋4階
種別／ビルディング

近年、老朽化を理由に1960年代の建築が解体されることが増えている。50歳に満たない若い「建築遺産」は、利用者には遺産というような実感はなく、歴史的評価もそこそこに消滅するが、果たしてそれでいいのだろうか。今回は1965年竣工の御堂ビルを取り上げ、その特色を見ておきたい。

御堂ビルは、関西を代表するゼネコン竹中工務店の本社ビルである。竹中工務店の歴史は織田信長の時代にまでさかのぼるが、近代的な建設業者としてのスタート、「承業」は1899年（明治32）に神戸に支店を構えた時と社史には記されている。清水組や大林組などに比べると後発ではあったが、設計と施工を一貫して行い、近代の技術を蓄積・発展させ、時代に応じた先進的な建築をつくってきた。御堂筋は大阪の経済活動の中心地であり、その地に本社ビルを構えることは長年の夢であったと言う。

■竹中のデザイン

渡邊節や村野藤吾は、関西、特に大阪の経済界のキーパーソンたちにかかわる仕事を多く手掛け、「売れる建築」を心掛けたと言われる。もちろんそれは「安い建築」ではなく、「コストパフォーマンスのよい建築」であっただろう。竹中工務店も、顧客には関西の企業が多く、大阪の都心には竹中の手掛けた建築が多い。

竹中工務店のビル建築には、テラーであつたオーソドックスなスーツのイメージがある。伝統的な型に従っているように見えるが、窮屈さはなく、きちっと身に合い、どこことなくしゃれていて、細部の仕上げが丁寧で美しい。都市の景観の中ではごく普通ののだが、落ち着いた色合いで風格があり、ちょ

っと背筋が伸びる空間である。技術は確かで、企業としては非常にコストパフォーマンスのよいチョイスと考えられる。御堂ビルは、そんなイメージ通りのオフィスビルであり、1960年代の竹中を代表する作品と言えるだろう。

1960年頃、竹中工務店設計部をまとめたのは岩本博行（1913～1991年）であった。岩本は1932年（昭和7）、大阪市立都島工業高校建築科を卒業し、竹中工務店に入社、製図工として下積みを経験しながら、朝日ビル（石川純一郎、1931年）に代表される先進的なモダニズム建築から和風建築まで、幅広い竹中設計部の先達のエッセンスを吸収した。1962年（昭和37）、小川正のあとを引き継ぎ、大阪本店設計部長に就任する。主な担当作品としては、ここに述べる御堂ビルのほか、神戸関電ビル（1964年）、神戸オリエンタルホテル（1964年）、大阪ロイヤルホテル（1965年）、京阪ビル（1966年）、朝日新聞ビル（1968年）などが挙げられる。日本の戦後建築史上、岩本の名は1963年の国立劇場のコンペで1等入選を果たしたことで知られる。ゼネコン設計部の見方が変わった出来事でもあった（1966年竣工）。

■端正なオフィスビル

『建築と社会』1965年（昭和40）5月号の巻頭に、竣工当初の御堂ビルの写真と記事が掲載されている。竣工当初、御堂ビルが建築専門雑誌に掲載されたのは『建築と社会』一誌だけであった。

記事は1ページのみで、簡潔に「設計者のことば」、「設備計画について」、「施工者のことば 新材料と新工法について」にまとめて書かれている。それによると、計画の要点は、



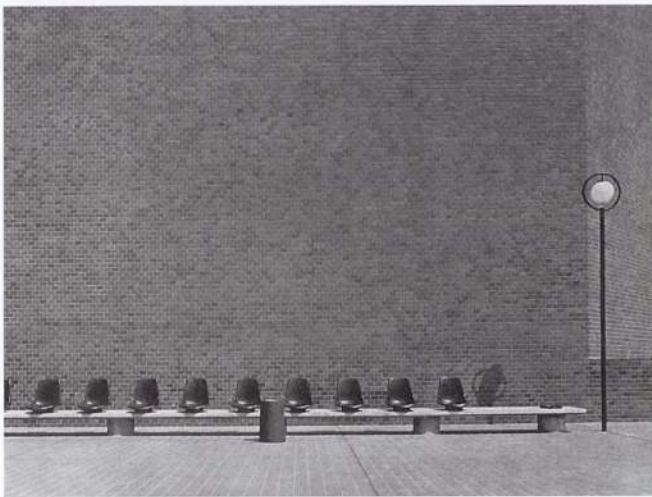
①御堂ビル（現在）



②御堂筋側の外観



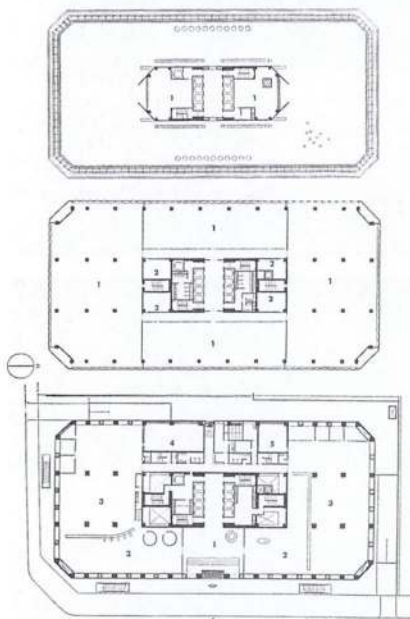
④7階玄関ホール



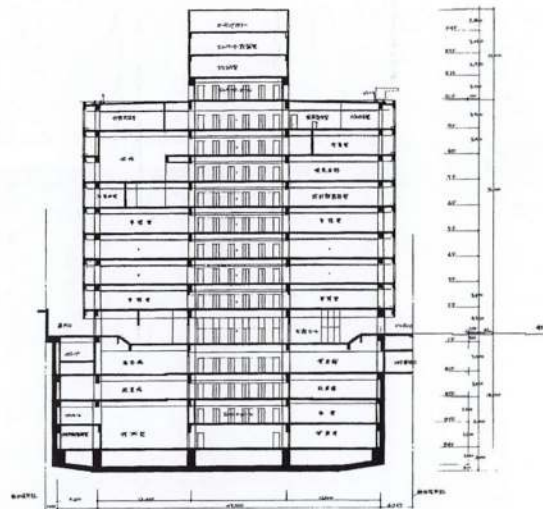
③屋上



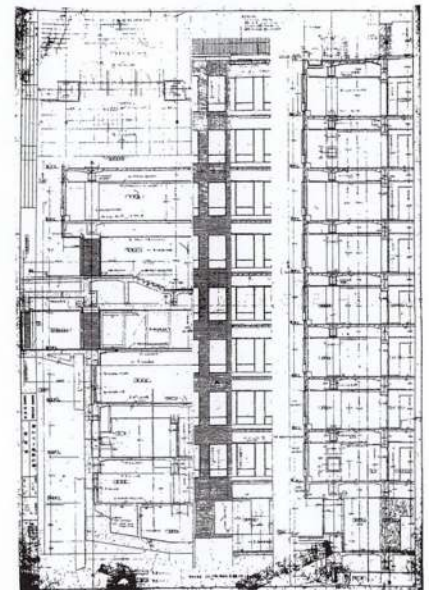
⑤会議室



⑥(上から)屋1階、基準階、1階平面図
いずれの階も、裏表のない完璧なセンターコア・プラン



⑦断面図(資料提供:竹中工務店)



⑧矩計図(資料提供:竹中工務店)



⑨

⑩



⑪



⑫



⑬



⑭

⑨ 御堂筋側ファサード (現在)

1種類のサッシュが規則正しく繰り返され、表情を作る。

⑩ 屋上「スカイオアシス」 (現在) (資料提供: 竹中工務店)

⑪ 7階玄関ホール (現在) (資料提供: 竹中工務店)

⑫ プレゼンテーションルーム (現在) (資料提供: 竹中工務店)

⑬ 7階応接ロビー (現在) (資料提供: 竹中工務店)

⑭ 1階壁面のセットバック

1.2mの壁面後退が、影を作り歩道空間にゆとりを与える。

次の通りである。

- ・隣地境界より充分な距離を取り、裏表のない外観をもつ建物とし、格調の高い雰囲気を醸成することを目指した。
- ・建物中央にコアを設けてその周囲に事務室を配置し、隣地と外壁との間に適度の空地を設けたことにより四周より充分な採光が得られ、どの場所においても等しく好い環境をつくることができた。
- ・東西方向12.6m、南北方向7.2mの大スパンによる柱配置は、間仕切、家具のレイアウトに拘束を与えることを少なくし、便利と好環境を同時にもたらすことにつとめた。
- ・材料、色彩、ディテールを極力統一した。

基準階の平面図が非常に美しい。基準階はまさに建築計画の教科書にあるセンターコア型の事務所ビルの平面図である。ここまで美しく納まるまでに費やした時間と労力が感じられる。現在、地価の高い都心では、制限範囲内で最大の床面積を確保する苦心こそが設計のようであるが、平面でも外観でも裏表のない、四面が正面という建築は、何とぞぜいたくである。

裏表のないのは、屋上も同様で、完璧な対称プランである。普段、街路を歩く時、屋上の様子は見えず、往々にして設備機器の設置場所と化しているが、より高い新築建物から図らずも見えてしまった時、日本の景観概念の実像を見せつけられるようで切ない。竣工時、御堂ビルの屋上は社員のための憩いの空間として設計された。中央の塔屋を挟んで、イームズのベンチと樹木が、やはり裏表なくシンプルに配置されている。屋上は、2002年に改修され、屋上面積の約20%が緑化され「スカイオアシス」と称されている。屋上の緑は、憩いの創出だけでなく、都心のヒートアイランド現象の緩和への期待を込めて、次の時代の技術開発という役割を担っている。

外壁は褐色のタイル貼りで、壁面とガラス面がそろった平滑な壁面で唯一のアクセントは、規則正しく並ぶ縦長のシンプルなステンドグラスのサッシュだけである。エッジの効いたシンプルなサッシュは竣工時のまま保たれ、今も開閉可能である。

建物全面をタイルで覆い尽くすビルを岩本博行はいくつか残しているが、御堂ビルはその最後の作品と位置づけられる。外壁のタイルは茶色、灰色、土色の3系統の濃淡で6種類の色調を混ぜて貼られている。当時のタイルには焼きむらがあり、実際にはそれ以上の色数となる。今はタイルの品質を均一に生産する技術が進み、焼きむらがなくなり、大き

な壁面を均一に作れるが、逆にこのような微妙なテクスチャーが出せなくなってしまった。外壁の改修にあたっては、最小限の貼りがえと浮きの補修を施し、今は作れない材質感や色合いを維持している。

■ミッド・センチュリーな室内空間

自社ビルならではのプランだが、7階に2層吹き抜けの玄関ホールが設けられ、そこから応接室や上階の役員室などへ軽やかな階段で導かれる。玄関ホールの仕上げ材は「壁：マンソニヤ・練り付ベニヤ底目地貼り厚さ12mm C.L.、天井：有孔マンソニヤ練り付ベニヤ底目地貼り厚さ9mm C.L.」とある。近年、7階・8階部分は改修され、写真⑩のように、もとの構成は受け継ぎながら、今日的に生まれ変わっている。

竣工時の写真の中で、時代のデザインが最も感じられるのは、かなり暗めの造作の室内の写真である。何事にも透明性や明るさが求められる今、ダークで重厚な内装はあまり好まれる空間ではないようだ。7階玄関ホールの改修と同時に、応接室は軽やかなガラスの間仕切りに変更された。この頃の建築は合理性を追求したため、遊びが少なく、居室の天井高が低い。御堂ビルも31mの高さ制限範囲内で9層を確保し、基準階の階高は3.4mとなっている。

御堂ビル1階の床高は、やはり全体の高さを抑えるため、街路のレベルから1m低く設定されている。上階のダークな色調とは反対に、1階玄関ホールは大理石で仕上げられている。竣工時、1階には銀行が入居していたが、現在は講習会やイベント等が開催できるスペースと商談・打ち合わせ用のスペースに改修された。エレベーター・ホールには、流政之によるレリーフ「のぼり太鼓」が大胆に配され、手前には大理石の受付カウンターとベンチが設置されている。細部は変更されているが、全体の雰囲気は、ほぼ竣工時のまま保たれている。

■御堂筋の銀杏並木とオフィスビルのなす風景

御堂筋は、並木と広い歩道、緩速車道も備えた大阪を代表する街路であり、梅田と難波のターミナルを結ぶ約4キロの間、さまざまな表情を見せるが、本町を中心とするエリアは、平日はスーツ姿の人々が足早に行き来する商都・大阪の中心である。建物のファサードは景観を考える上でとても大事だが、日々、街路を行き交う人々にとっては、全体よりも建物の足元がどうデザインされているかが大事だろう。御堂ビルの場合、1階の銀行営業室部分と2階以上の事務室のスペースはデザ

インも必然的に違うものとなる。1階壁面はショーウィンドウとして構成され、2階壁面線より1.2m後退し、影をつくり、立面のバランスをとっている。

1階壁面の後退は、デザイン面だけでなく、多くの人々が通る街路への心遣いもあったと思える。雨宿りの軒下のような空間は、敷地際を半公共的な空間としている。御堂筋沿道の竹中工務店設計のオフィスビルには、朝日ビル（1931年）、現在解体中の新朝日ビル（1958年）、大阪朝日生命館（1961年）など、公共的な通路空間を1階部分にそなえたビルがいくつかある。雨の日や日差しのきつい日には、ちょっとしたオアシスであり、場所によってはカフェのテラス席にもなっている。

御堂ビルはほとんど変わっていないように思えるが、今回改めて竣工時の図面・写真を見ると、正面玄関には風除室が付加されているし、正面玄関両側には植え込みが設置されている。建物を長年使い続けると、ハード面でもソフト面でもさまざまな変化があつて当然で、それに建物が応えていくことが必要になる。御堂ビルもさまざまな改修が加えられているが、オフィスビルのあるべき姿は継承されているように思える。

御堂ビルができた昭和40年前後、日本はやっと戦災から本格的に復興し、大阪でも御堂筋の街並みがほぼ完成した。法的規制が変わり、御堂筋は再び大きく変わろうとしている。御堂ビルのある本町交差点周辺にも、次の御堂筋のスタンダードかもしれない超高層の新築ビルが建ち始めている。1960年代を歴史的に見たとき、その時代の思想を表す一つの好例として、御堂ビルは生き続けることができるだろうか。

参考文献

- ・松隈章「シリーズ関西のモダニズム建築27 竹中工務店における昭和30年代モダニズム建築の到達点 ～「御堂ビル」と岩本博行～」『まちなみ』2003年3月号、pp.16-21
- ・村松貞次郎『竹中の歩み』竹中工務店、昭和49年
- ・竹中工務店七十年史編集委員会『竹中工務店七十年史』竹中工務店、昭和44年

（はしてら ともこ／関西大学建築学科准教授）

マチに学び都市をたのしむ

普段、仕事で名刺交換すると下段に添えられた所属NPO「もうひとつの旅クラブ」のところに興味を持たれることが多い。旅を含んだネーミングから旅を楽しむ人の集まりを想像される方も多いが、実ははっきとしたまちづくりNPOである。自分たちのまちを旅人の視線で見て、魅力を発掘し発信していこうという思いが込められている。訪れる旅人やひいては地元の人にまで偏向的なイメージで捉えられる大阪ではない、もうひとつの大阪を知ってもらおうと活動している。

発足当初より、大阪城の歴史物語を学芸員に学び、闇夜にまぎれて大阪湾に至る船旅で最後の将軍慶喜の脱出を追体験する企画や、なにわ伝統野菜をテーマに落語鑑賞後、名門料亭の調理で試食する企画も実施した。型にはまった従来のイメージとは違う大阪を旅人感覚で追体験できるツールとして旅のカードブックを製作・販売するプロジェクトも手がけた。これらの試行を積み重ねた一つの集大成が中之島物語「舟屋プロジェクト」である。2005年秋の1ヵ月間、中之島バラ園に仮設の栈橋「中之島ローズポート」と「舟屋」を設置し、川と陸をつなぐ楽しさを演出、水都大阪の魅力と中之島公園の可能性を引き出した。また、大阪とゆかりのあるまちの協力を得て、歴史に学び、未来へ続く地域間交流プログラムを実施した。舟屋にはメンバーが交代で詰め、まち案内人の役を担った。昼間普通に仕事を持つメンバーにとって、1ヵ月の長丁場は限界への挑戦でもあった。

まちづくり活動に
取り組む人々。

04

もうひとつの旅クラブ
岩田尚樹（いわた なおき）

このまちが好き

I love my town



舟屋プロジェクト
小豆島ウィーク



ご来光カフェ
2009年10/1～8開催



大阪まち遊学
長屋と路地の迷宮・野田

翌年、予算や時間の制約をバネにして生まれたのが中之島物語「ご来光カフェ」である。都心のど真ん中、淀屋橋の水上バス栈橋にて生駒山から昇る朝日を望める貴重な1週間を発見。期間限定の水上カフェで「中之島時間」を共有し、その豊かさを実感しようというものだ。何気なく過ごしているまちの季節、時間、場所を切り取ることで生まれた壮大なご来光のドラマは究極の魅力発掘となった。ご来光カフェは独自採算の道を探りながら継続プロジェクトとして今年4年目を迎える。そして、同じ水辺で水都大阪を満喫できる快適空間を提供するのが、大阪川床「北浜テラス」で、3つのグループのネットワークを活かした協同という新たな試みでもある。（先月号参照）

現在の活動の柱のひとつは一昨年より始まった地域密着型のまち歩き「大阪まち遊学」である。身近なまちに着目し、皆で何度も歩き、地域の価値を見いだしながらテーマを絞り込む。地域で活動する人に取材して、本番にもご登場いただく。まちを巡り人にふれあうことを特徴にしたまち歩きである。昨年は野田、大正、天満天神など個性的な8つのエリアで一月に一度実施し、好評を得た。

そして今年「大阪まち遊学」を基にして、永続的に受け入れ可能な大阪の観光プログラムを提案する協同プロジェクトが始まっている。水都大阪2009で実施される「OSAKA旅めがね」である。大阪を愛する市民を募り、案内人を育成し、お客様をもてなす。案内人はわがまちの魅力を発見し、誇りを持って来訪者を案内しながら、継続的な観光集客に貢献し、まちづくりの視点も養うことになる。4月より試行的に9エリアで始まっており、7月には17エリアに拡大すべく、急ピッチで研修ツアーが行われている。当NPOメンバーは率先してエリア企画や案内人を務め、自立・持続するシステム作りの大きな推進力となっているところである。あなたも「OSAKA旅めがね」にもうひとつの大阪を探しに出かけてはいかがだろうか？

住宅の長寿命化への 取り組み

国土交通省住宅局住宅生産課

平成15年住宅・土地統計調査によると、総世帯数約4,700万世帯に対し住宅の総ストック数は約5,400万戸に達しており、量的充足という点では一定程度達成されたと言える。一方で、本格的な人口減少社会を迎え、世帯数も2015年をピークに減少に転ずると推計される中、環境問題の深刻化等、新たな課題への対応が求められていること等を踏まえつつ、我が国の現状を見ると、豊かな住生活が実感できているとは言い難い状況にある。

このような状況を踏まえ、これまでの「住宅の量の確保」を中心に据えた政策から、居住環境を含めた「住生活全般の質の向上」を図る政策への本格的な転換を図るべく、平成18年6月に「住生活基本法」が制定され、現在及び将来における国民の豊かな住生活の実現に向けた道筋が示された。また、同年9月には以後10年における目標や基本的な施策等を定めた「住生活基本計画（全国計画）」が閣議決定された。

今後の住宅政策においては、この住生活基本法及び住生活基本計画に基づき、これまでの「つくっては壊す」フロー消費型の社会から、「いいものをつくって、きちんと手入れして、長く大切に使う」というストック重視の社会への転換を図り、成熟社会にふさわしい豊かな住生活を実現し、将来世代の住居費負担の軽減や環境負荷の低減のため、長期にわたって使用可能な質の高い住宅ストックの形成を図っていく必要がある。

住宅の長寿命化に向けた 取り組みとは

長期にわたって使用可能な質の高い住宅ストックの形成を実現するためには、維持管理や流通の段階を念頭において、各段階における総合的な対策が必要となる。

建設段階の措置については、物理的耐用性として、構造躯体の耐久性の確保や配管の点検、維持管理のしやすさなど、また社会的耐

用性として、将来の間取り変更や設備の更新のしやすさなどを組み込んでおく必要がある。構造躯体（スケルトン）と内装・設備（インフィル）に設計思想を分離し、インフィルは更新・交換されていくものであると整理したうえで、スケルトンについては、インフィルの更新・交換が容易に可能となるような工夫をしつつ、長期の耐久性を備えることが基本となる。すなわち、将来を見据えた維持管理への対応を建設段階から盛り込んでおくことが必要であり、構造躯体に求めるべき性能としては、数世代にわたって使用可能であること（耐久性）や大規模な地震後も使用可能であること（耐震性）に加えて、点検・補修・更新などの維持管理が容易であること（維持管理容易性）、一定程度の間取りの変更が可能であること（可変性）などが求められる。

維持管理段階については、適切な維持管理計画を策定し、これに従って点検し、必要に応じて補修・更新等が行われるなど、適切かつ計画的な維持管理を実施することが必要であり、さらに必要な住宅履歴情報を適切に記録し、保存し、後世代の人たちが活用できるようにしておくことが必須条件となる。住宅履歴情報は住宅の新築、改修、修繕、点検時等において、設計図書や施工内容やそれに関連する情報のことであり、このような情報が蓄積・継承されていくことにより、適切なリフォームや点検、交換が可能となる、安心して既存住宅の取引が可能となる、災害や事故の際に迅速かつ適切な補修が可能となる等のメリット・効果が期待される。

また、こうして形成された良質な住宅ストックが有効に活用されるよう、既存住宅の流通が円滑に行われることが必要であり、既存住宅流通の市場環境が整備されることが求められる。

*

これらのことを踏まえて、国土交通省では住宅の建設、維持管理、流通、資金調達等の各段階において、総合的な施策を講じている。

長期優良住宅の普及の促進に 関する法律

長期にわたり良好な状態で使用するための措置が講じられた優良な住宅である「長期優良住宅」について、その建築及び維持保全に関する計画を認定する制度の創設を柱とする「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」が平成20年12月5日に公布され、平成21年6月4日に施行された。

この法律では、長期優良住宅の普及の促進のため、構造躯体の耐久性や内装・設備の維持管理の容易性等の性能を有し、維持保全計

画が策定された住宅を認定し、当該認定を受けた住宅については住宅ローン減税の拡充や投資型減税の創設のほか、登録免許税、不動産取得税及び固定資産税に係る税の負担軽減を図ることとしている。

その他の関連施策

「長期優良住宅先導的モデル事業」「いいものをつくって、きちんと手入れして、長く大切に使う」というストック社会のあり方について、具体的内容をモデルの形で広く国民に提示し、技術の進展に資するとともに普及啓発を図ることを目的に、先導的な材料、技術、システムが導入されるものであって、住宅の長寿命化に向けた普及啓発に寄与するモデル事業の提案を募り、優れた提案に対して、事業の実施に要する費用の一部を補助している。

「住宅履歴情報の整備」 既存住宅の円滑な流通や、計画的な維持管理等を行っていくためには、住宅履歴情報が適切に保存されていることが重要であることから、こうした履歴情報が確実に蓄積され、いつでも活用できる仕組みの整備とその普及を推進している。

「住宅金融の拡充」 民間金融機関が認定長期優良住宅について最長50年の住宅ローンを供給できるよう、住宅金融支援機構が支援している（フラット35）。また、同機構の優良住宅取得支援制度（フラット35S）において、認定長期優良住宅等に係る金利優遇（0.3%金利引き下げ）の期間を当初10年間から20年間に延長する措置が講じられている。

「既存住宅流通の円滑化・リフォームの促進」 適切に建設・維持管理された住宅の資産価値が適正に評価されるとともに、消費者が安心して適切なリフォームを行うこと等を通じて、既存住宅の質の向上が図られるよう、既存住宅の流通の促進及びリフォーム市場の整備のための方策のあり方について、社会資本整備審議会において審議している。

「中小住宅生産者による長期優良住宅への取組の促進」（平成21年度補正予算） 住宅供給の主要な担い手である中小住宅生産者による長期優良住宅への取り組みの促進を図るため、長期優良住宅普及促進法の施行初期段階において、中小住宅生産者が行う長期優良住宅供給の取り組みに対して助成を行っている。

*

これらの施策を通じて、国民一人ひとりが成熟社会にふさわしい豊かさを実感し、安心して住まい続けられる環境の実現を図ってまいりたい。

木材を編む

稲田竜也

㈱デザイン・構造研究所

高野口小学校体育館は、約725㎡、RC造平屋建ての建築物である。少し特徴的であるのは、22mスパンの屋根が集成材ではない一般流通木材により構成されている点であろう。一般流通材には、地元和歌山で産出された紀州杉が用いられている。

木造による大スパンの計画と実際

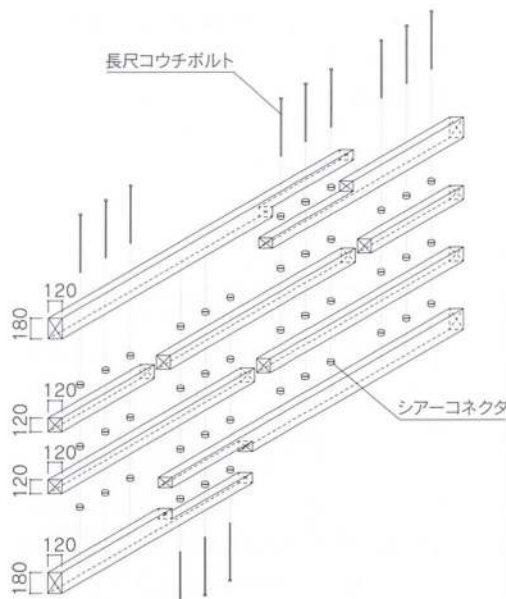
通常、木造で大スパンを構成するためには3つの考え方がある。まず、素材として強度の高い集成材を用いる方法。これは大断面を確保するという意味でも木架構では必要となりやすい。次に、部材レベルでの性能を向上させる意味でハイブリッド構造を採用することも考えられる。さらに、架構システムとして立体トラス形式を採用することも考えられるであろう。

ただし、設計をしてみればわかるが、木部材を立体トラスとして利用する場合には、その接合部において接合部材である鉄との応力伝達がスムーズにいかず、木材の能力をフルに活用することが容易ではない。仮にそれを実現しようとすれば、無骨な鉄部分を大きく露出させることになりかねない。同様の問題はハイブリッド構造を用いる場合においても有している。

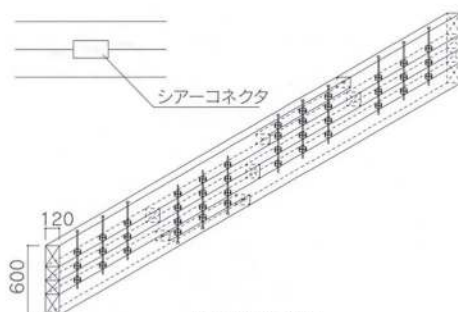
設計に際しては、木の良さを最大限に追求しながら大スパン構造を満足させるというテーマを想定し、木材の弱点を最小限に抑えるとともに同時に、デザイン面にも配慮して取り組んだ。その結果として、木材の温かさと架構の大胆さを両立させ、材がもたらす陰影が建物の個性を演出することに成功した。

鋼材で木を繋ぐ

この建物の構造的特徴の一つは、交差する重ね梁をその交点において交互に貫通させることで、同一平面の大きな屋根面を構成したことにある。交点においては、交差する部材のお互いに断面の一部ずつが貫通することか



木材を積層するだけでは剪断力を伝達することはできないので、材の間にシアコネクタを入れ剪断力の伝達を確実にできるものとした。



接合部模式図

ら、弱点となってしまう。それを鋼板を併用して補うことで解決している。最も大きな点は、鋼材を併用することにより木材の良さを打ち消していないことである。

基本となる重ね梁は、120×180と120×120のごく一般的に用いられる断面の4層で構成している。さらに、これらの構成材は市場流通品である4mと6mの長さの材によって成立するように配慮している。

重ね梁の平面保持はスプリットリングを利用したシアコネクタにより確保し、木材の剥離はコウチボルト等により抑制している。こうした物理的結合による集成材のイメージは、すでに昭和初期の段階に東畑謙三氏らによって提案されていた(『建築と社会』昭和5年7月号)。もちろん、当時の提案は現実性を伴うものではなかったし、その後の接着剤の進歩があったこともあり、実現されるに至らなかった。当該事例は、その過去のアイデアに新しい考え方を加えることによって現代に実現したものである。

架構形態

もう一つの特徴は架構形態にある。RC柱



高野口小学校体育館 外観



内観



接合部詳細

頭部に木造部材により構成される大きな三角錐を設け、これらを連結することで非常に大きな立体トラス梁を成立させている。この形態は、長崎県の森山中学校体育館の鉄骨造で用いたシステムの発展形である(『鉄骨技術』2007年8月号)。切妻の勾配屋根が、端部の大きな立体トラスに拘束されることで、より大きな変形抵抗能を得ている。

勾配屋根は、持ち出し部の存在とタイバー状の斜め材により拘束され、鉛直方向のたわみは非常に小さく抑えられる。柱頭部が開放的なことから、側方に大きな開口部を持つことかでき、照明を用いなくても十分に明るい空間を生み出している。

*

なお、最後にこの困難な架構の製作に尽力いただいた株木建設・トリスミ集成材の施工担当の皆様方、および基本計画段階より構造的なチャレンジに最大限のチャンスをくださった和歌山大学本多教授に、この紙面をお借りして深く御礼申し上げます。

(いなだ たつや)

住まい・まちづくりの 視点から見た 京都市新景観政策



●講師からのメッセージ

- 1) 京都の町の構成原理は、家が連担して町を形成しており、家と町の相互関係の中で町家が成り立っていることを認識する必要がある。
- 2) 新景観政策は、風致美観政策としてだけでなく、まちづくりの政策として捉えると、見え方が異なってくる。景観は、単に高さや色の問題ではなく、コミュニティが重要である。
- 3) 価値観の違う人々が妥協点を見出すという価値調整過程だけでなく、価値観の違う人々が将来のことを協議してある方向を見出すという価値共有過程を伴わないと、将来に向けたまちづくりはできない。そのために、タイトでオープンなcommons(資源をマネジメントする仕組み)をつくる必要がある。
- 4) 行政による規制をどうするかということよりも、地域で建築ルールをつくっていくことをどのように支援すればよいかを考えねばならない。

■日本建築学会近畿支部環境保全部会

主査：三好庸隆（武庫川女子大学教授）

幹事：伊丹康二（大阪大学大学院助教）

上山 卓（株式会社コープラン）

北尾靖雅（京都女子大学准教授）

高岡伸一（大阪市立大学都市研究

プラザ特任講師）

八木康夫（立命館大学准教授）

日本建築学会近畿支部環境保全部会では、「なぜ日本の住環境は美しくならないのか」という問題意識のもと、重要と考えられるテーマを取り上げ、そのテーマについて先端的な取り組み、研究をされている講師をお迎えし、公開研究会を行っています。

● 第4回公開研究会

第4回となる公開研究会は、「住まい・まちづくりの視点から見た京都市新景観政策」について、京都大学教授の高田光雄氏を講師に迎えて開催しました。（開催日：2009年3月26日、会場：大阪市立大学 文化交流センター・大セミナー室）なお、本公開研究会は、（社）日本建築協会の後援を得ています。

今回の講演は、2007年9月に施行された京都市の「新景観政策」について、その概要と意義について解説いただきました。具体的には、まず新景観政策を理解するために最低限必要な京都の町家と町の構成について解説されました。続いて新景観政策の概要と、まちづくりの視点から見た新景観政策の意義について解説いただきました。

● 講演概要

1. 京町家と町の関係

1) 京町家の原理 中世から町家は道路に対してオープンな構成を持っていた。町家の格子を外すと、プライベート空間が都市に出て、パブリックな空間が家の中に入ってくるといった空間の重ね合わせが生まれ、町家と町の緊密な関係が形成された。そして、隣り合う町家では、建物や中庭が連担することで環境が担保され、高密度居住が実現してきた。また、「京間」は、「江戸間」とは異なり内法制のため、寸法・モジュールが決まって互換性があり、他の家でも使用可能である。

2) 町の原理 京都では、通りの両側の宅地群（両側町）を「町（ちょう）」と呼び、コミュニティの基礎単位となっている。江戸時代は町は自治組織で、祇園祭も「町」を単位として行われている。また、京都では明治2年に64の番組小学校ができたが、この学区が「元学区」という単位である。現在でも「町」と「元学区」のコミュニティの単位が根強く生きている。

つまり、京町家は独立した建物であっても町と一体となり、連担して町を形成している。あるいは京町家が町の要素となっており、その相互関係の中で京町家が成り立っていることが重要なことである。これが京町家や町の原理であり、この原理をふまえて新景観政策を見ていかねばならない。すなわち、新景観政策を理解す

るためには、京町家や町の構成原理を知っておかなければならない。

2. 京都市の景観政策

1) 風致美観行政の系譜 京都市では、1930年に風致地区が指定された。1950年代、双ヶ岡の開発問題などが発生し、鎌倉の保存運動などもきっかけとなり、1966年に古都保存法が制定された。そして1972年、全国初の市街地景観整備条例が制定され、翌73年、高度地区制度により高さ45mという制限が定められた。1990年代には、京都ホテル（高さ60m）、京都駅ビル（高さ59.8m）の建設に対し激しい論争があった。1993年、土地利用と景観対策についてのまちづくり審議会が行われ、このとき初めて「まちづくり」という用語が使用された。この審議会で、北部は保全、都心部は再生、南部は創造という基本的な方針が定められ、この京都市の大きな枠組みのもと、その後の景観政策が展開していった。

2) 景観問題と住まい・まちづくり 1997年、京都市景観・まちづくりセンターが設置された。これは大きなエポックだった。つまり、景観を行政がいかに規制するかという視点だけではなく、地域の住民が自分たちの町をどのように運営していくのかという視点から捉える動きが出てきたのである。そして2002年「都心部のまちなみ保全・再生に係る審議会」の提言を受け、翌03年、都心部の職住共存地区において高度地区の変更、美観地区の指定などを行う、いわゆる「2003年建築ルール」が施行された。

風致美観政策だけではなく、まちづくりの政策の視点から景観を考えることで、新景観政策の捉え方は変わってくる。

3) 景観法と新景観政策 2004年、景観法が制定された。景観法は、国が景観をコントロールするものではなく、各自治体が行う景観政策を国がバックアップすることを定めている。なお、景観法上の仕組みは、これまでの京都市の景観政策を下敷きにして定められており、京都の蓄積が国の法律に結びついたと言える。

その後、京都市では景観法を後ろ盾にし、大変激しい規制を伴う新景観政策、いわゆる2007年ルールが施行された。ごく短期間で、5つの基本方針と具体的な施策の提言が行われたが、緊急を要するという社会的背景だけでなく、これまでの景観政策などの積み上げがあったことや、日本建築学会の特別研究委員会による提言など、学術的な研究が景観政策の推進に寄与した。ただし、住まい・まちづくりの視点からは課題も残った。

3. 景観とまちづくり

1) 景観とまちづくりの関係 京都祇園町南側は町家が連なっているが、北側は雑居ビルが

並んでいる。南側の景観が美しいのは、借地の上に町家が建っているため、土地の所有権が町並みをコントロールする根拠となっているからである。さらに、この南側地域では、町並みを維持するための様々なまちづくり活動が行われている。

2002年、京都市はこの祇園町南側の地域から準防火地域の指定を外した。老朽化した町家を建て替える際に、これまでの町並みを維持するためである。その判断の根拠になったのが、住民たちの防災まちづくりの活動である。私設消火栓があり、消防訓練が日常的に行われるなど、コミュニティ防災が蓄積されている。このようなコミュニティが、景観にとって大事であり、単に高さや色の問題ではないと考える。

2) マンション紛争と町家型集合住宅 京都市内では、1990年代にマンション紛争が数多く起こった。マンション紛争とは、マンションと町家の喧嘩ではなく、地域の分裂解体を意味する。ディベロッパーからすると、地域コミュニティの弱い地域を狙い、コミュニティを切っていくことがマンション建設事業の成功の鍵となる。このようなマンション建設に対して建築協定や地区計画の策定運動も起こったが、場合によっては、運動を進めてきた住民が地域から浮いてしまうという現象も起こった。協議の仕方やコミュニティのつくり方を考えておかないと、結果的に地域が分断されてしまう恐れがある。

すでに述べたとおり、町家は連担することで環境が担保されるが、マンションが建設されることで建物と空地の関係性が崩壊する。そこで、マンション紛争を解決するだけでなく、町家と共存できる集合住宅を考え、「町家型集合住宅」を開発、提案し、モデル事業を行ってきた。しかし、設計論だけでは限界があり、地域のまちづくりと設計計画の提案をどのように関係づけるかも大事である。「アーパネックス三条」というプロジェクトでは、元の計画は地域の反対運動で白紙になったが、その後ディベロッパーと地域住民が2年ほどかけて協議を行い、まちづくりの文脈に適合した集合住宅の建設に至った。この成功事例が、2003年ルールにつながっている。従来はディベロッパーや住民によ

る建築行為と行政の規制のバランスをいかにとるかという価値調整の仕組みを、地域ごとに協議をして地域のまちづくりのルール、条件をつくる仕組み、いわば価値共有型の仕組みに再編したのである。

4. 住まい・まちづくりからみた新景観政策

新景観政策は5本柱と支援策から構成される。

1) 建物の高さ 特徴的なのが、高さ45mを31mに、31mを15mに規制強化したことであるが、高さ31mを15mにした地区は職住共存地区であり、2003年時には、すでに実質20mになっていたことはあまり知られていない。

2) 建物等のデザイン 非常に詳細なデザイン規制を定め、建築物をコントロールしようという政策であるが、個々のデザインを詳細に規制する考え方は問題があると思っているし、デザイン協議会でも議論が続いている。

3) 眺望景観や借景 学術的に見ても意味があることだが、個別の問題では調整が必要である。

4) 屋外広告物 ほとんどの広告物に改善が必要な状況であり、撤去も進んでいる。一方で、広告業者の仕事がなくなるなどの問題もあり、いかにフォローするかが問題である。

5) 歴史的な町並みの保全 これまでの取り組みを、景観法を後盾にさらに進めることを意味する。

6) 支援制度 実際には、マンションの維持管理や建て替えに対するアドバイザー派遣などのマンション対策が多い。

5. コモンズとしての都市景観

1) コモンズとしての都市景観 建物等は「私有財産」であっても景観は「公共の財産」であると、景観審議会の答申の中に書かれている。公共の財産と言うときに、「お上の公共性」と捉えるか、「地域の共同性」に重点を置くかで理解は変わってくるが、「地域の共同性」に重点をおく必要があるだろう。すでに2002年のまちなみ審議会の答申の中には、短期的に規制の強化が必要であるが、中長期的にはまちづくりの支援を行う必要があると示されている。価値観の違う人々が妥協点を見出すという価値調整過程だけではなく、価値観の違う人々が将来のことを協議して、ある方向を見出すという価値共有過程を伴わないと、将来に向けたまちづくりはできない。例えば、なぜ地区計画や建築協定の策定運動が失敗したかという、価値共有過程を持たずに価値の調整に入ったためである。

2) タイプでオープンなコモンズ 京都には両側町や元学区というコモンズ（資源をマネジメントする仕組み）の基礎になるような単位があるが、景観問題はこの単位で解決できなかった問題だとも言える。地域の住民だけのクローズドコモンズで問題を解決することには限界がある。しかし、ルールがあるタイトなコモンズ、かつ地域の住民以外の専門家などを含むオープンなコモンズであれば、景観のマネジメントはできるのではないかと考えている。

3) 地域の管理システムと建築ルール タイプでオープンなコモンズをつくるためには、地域の活動主体と外部の支援主体が役割、責任を持ち、リスクを負担してこの活動に参加する組織をつくる必要がある。このような組織は行政、企業とも連携できる可能性が高く、ネットワークが広がりやすい。まちづくりの基本的な組織等の仕組みや地域の景観に対して協議をし、ルールをつくっていくことで景観を育てていくことが必要である。そのための基礎的な条件をつくったり、地域ごとの特性を把握した上でルール等の仕組みを支援するのが行政の仕事、役割である。このような仕組みが地域の管理システムである。

また、街区の単位とコミュニティの単位がずれている京都では、どの単位でルールをつくるべきかという問題や、コミュニティ単位で景観のルールをつくっていくということに伴い発生する問題の研究をしていくことも大事だと考える。

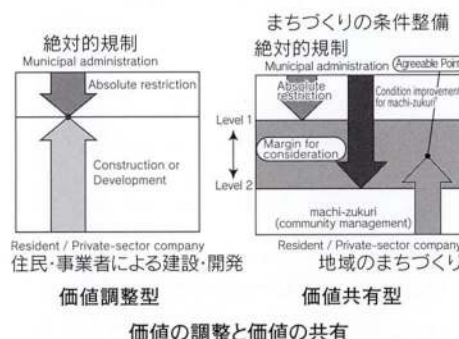
行政のコントロールをどうするかという研究だけでなく、地域で建築ルールをつくっていくことをどのように支援すればよいかという研究をより深めなければならないと考える。

今年、京都は環境モデル都市になった。現在、京都の最大の課題は環境政策であり、環境政策と景観政策をどのように重ね合わせるかということが、京都の重要課題になっている。住まい・まちづくりの視点から環境と景観の関係を考えることが求められている。

今年、京都は環境モデル都市になった。現在、京都の最大の課題は環境政策であり、環境政策と景観政策をどのように重ね合わせるかということが、京都の重要課題になっている。住まい・まちづくりの視点から環境と景観の関係を考えることが求められている。



(文責：伊丹康二／大阪大学大学院助教)



▶ 構造設計／設備設計一級建築士制度、平成21年5月27日から

「建築士法等の一部を改正する法律」(平成18年法律第114号)による改正後の建築士法第20条の2及び第20条の3の規定は、平成21年5月27日以後に士法第2条第6項に規定する構造設計または設備設計を行った場合について適用される。

国土交通省から住宅局建築指導課長名で、各都道府県建築行政担当部長と各建築団体に、構造設計／設備設計一級建築士制度の円滑な運用を図るため、その細目及び運用方針について通知があった。

▶ 第6回公開研究会 「景観から景観まちづくり、 そして、まちづくりへ」

地域住民とまちづくりはどのようにすすめてゆくことができるのかについて実践的に取り組んでいる久 隆浩氏(近畿大学理工学部教授)を講師に招き、日本建築学会近畿支部環境保全部会は公開研究会を開催する。

日 時 2009年7月30日(木)18:30~21:00

場 所 大阪市立大学文化交流センター

講 演 景観から景観まちづくり、そして、まちづくりへ／久 隆浩

資料費 500円

定 員 36名

申込み 大阪大学大学院工学研究科

伊丹康二(環境保全部会幹事)

itami@arch.eng.osaka-u.ac.jp

▶ 医療福祉建築フォーラム2009 「公立病院改革と建物整備」

今回のフォーラムは一般の聴講希望者に限り、初日のみでも出席できる形とした。

会 場 建築会館ホール 東京都港区芝5-26-20

定 員 120名(定員になり次第締め切り)

参加費 一般35,000円 JIHA会員20,000円

一般は1日目のみの出席可20,000円

申込み 参加申込書を、FAX03-3453-7573にて(株)日本医療福祉建築協会へ。

●9月17日(木) 9:30~17:00

講演: 公立病院再編と建て替え計画

鼎談: 町立三春病院~建築コストと向き合う~

シンポジウム: 公的病院の責務と病院改革

講演: 公立病院の未来

●9月18日(金) 9:30~16:30

鼎談: 事業者と設計者の協働

講演: 医療とメディア

講演: ソーシャルデザイン

シンポジウム: 集中治療部(ICU)から病棟・

手術・救急を考える

詳しくは、(株)日本医療福祉建築協会<http://www.jiha.jp>に掲載。HPからの申込みも可。

▶ 関学時計台、登録有形文化財に

国の文化審議会(西原鈴子会長)はこの6月19日、関西学院大学時計台(旧図書館)など全国46カ所116件を有形文化財として登録するよう塩谷文部科学相に答申した。

大学が神戸市から西宮市上ヶ原に移転する1929年に建てられた関西学院大学時計台は、米国人建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズの代表作の一つで、甲山を背にクリーム色の壁に赤い瓦の屋根が鮮やかな左右対称の学校建築で、同大学のシンボリックな建物となっている。

▶ 中央郵便局を重要文化財に!

2008年6月、東京中央郵便局の再開発計画が発表され、大阪中央郵便局については2008年12月に新ビル計画が発表されている。

東京中央郵便局は吉田鉄郎の設計で、1931年に竣工。大阪中央郵便局は吉田鉄郎の設計で、1939年に竣工した。建築諸団体から、このふたつの中央郵便局について保存要望の声が上がっている中で、「大阪中央郵便局を重要文化財にする会」(代表:長山雅一氏)は、2009年7月5日の日曜日午後、「中央郵便局を重要文化財にする集い」を開催した。

大阪歴史博物館の講堂では、「大阪中央郵便局の建築的価値」藤岡洋保(東京工業大学教授)、「吉田鉄郎のモダニズム—北欧と戦時下の思考」松隈 洋(京都工芸繊維大学教授)、「東京・大阪中央郵便局再開発の課題」南一誠(芝浦工業大学教授)、「大阪駅前と都市美」橋爪紳也(大阪府立大学教授)氏らの講演が行われた。

▶ カーボンオフセットへの取り組み

横浜に本社を置くプリンス電機株式会社は、環境配慮型製品開発・省エネ・廃棄物削減等の地球温暖化防止活動をし、昨年7月には製品・活動・企業の3つでCO₂を削減する『スリムエコ®』宣言をした。また、昨年の創立50周年を機に、昨年度の本社と東京営業所の消費電力と、今年6月の環境月間に上野東天紅で開催された約130名規模の講演会・懇親会の消費電力にかかるCO₂をオフセットしている。「目的を持った自らの環境保全の活動からCO₂削減に貢献していくことで、世界の一員企業として、目的と意識を持った環境保全と社会貢献ができる」と同社担当者はいう。

▶「躍動する魂のきらめき—日本の表現主義」

滝沢真弓
《山の家(模型)》
1921年設計
東京大学藤森研究室蔵



表現主義とは、20世紀初めごろ、ドイツをはじめとするヨーロッパ各地で起こった美術運動で、日本にも伝わり、明治末から大正期に内面の感情や生命感を表した個性的で力強い芸術表現が各分野で生まれた。大正期を中心に起こった日本の表現主義—洋画、日本画、版画、彫刻、工芸、建築、デザイン、写真、舞台美術などを約140作家の350点の作品や資料で紹介する。

会 期 2009年6月23日～8月16日(日)
10:00～18:00 (金・土は20:00まで)
月曜日休館
ただし7/20(月・祝)開館・7/21休館

会 場 兵庫県立美術館
神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

入場料 1200円、大高生900円、中小生500円
展 示 予兆—黒田清輝、藤島武二ほか、生命主義—岸田劉生、村山槐多、濱田庄司ほか、影響と呼応—萬鉄五郎、村山知義、山田守、川喜田煉七郎、堀口捨己ほか、生活—藤井達吉、河井寛次郎ほか

招待券は日本建築協会(TEL06-6946-6981)へ。

▶ 7、8月の大阪歴史博物館

■常設展示7階「大大阪の時代『近代都市の建設』コーナー」

70～80年前に建てられた銀行やホテルとくらべても見劣りがしないといわれた小学校校舎。当時普及し始めた鉄筋コンクリート造で、屋内プールやエレベータを備えていたり、豊かな建築装飾を用いたり…。いまは統合され大阪市立開平小学校となった二つの学校、旧大阪市立集英小学校(昭和2年竣工)の建築装飾や愛日小学校(昭和4年竣工)玄関床モザイクタイルなどを展示している。

展示期間/2009年6月10日～8月24日(月)

■8階特集展示室「難波遷都—大化改新がもたらした難波の変化—」



旧大阪市立集英小学校
建築装飾 昭和2年
大阪歴史博物館蔵

「難波遷都—大化改新がもたらした難波の変化—」

645年に孝徳天皇が飛鳥から難波へ遷都し652年に完成させた難波長柄豊碕宮は、明確な中軸線と広大な朝堂院を有する日本歴史上初めての本格的な宮殿として知られている。

8階特集展示室では、古代難波にかかわる考古資料約150点を、①遷都前夜②遷都に伴う開発③変わりゆく上町台地④最新の調査研究成果の4部構成で展示している。

展示期間/2009年6月17日～8月31日(月)

時 間 9:30～17:00 (金曜日は20:00まで)

火曜日休館

会 場 大阪歴史博物館

大阪市中央区大手前4-1-32

地下鉄谷町線・中央線「谷町四丁目」

下車9号出口

観覧料 大人600円、高大生400円

中学生以下・市内在住65歳以上無料

招待券は日本建築協会(TEL06-6946-6981)へ。

▶「カンポ・バエザの建築」

スペインのモダニズム建築家アルベルト・カンポ・バエザ氏(1946年生まれ)は、マドリードを拠点にして国内で活躍する。その作品は“More With Less”という彼の言葉にあるように、外観はシンプルな箱型建築で



グラナダ貯蓄銀行本店
グラナダ、スペイン
2001年 ©Hisao Suzuki

ありながら、内部には意図的に設けた天窗や高層窓、ガラス壁のペントハウスなどから取り込んだ西ヨーロッパ特有の強い光に満ちた崇高な空間がつけられている。

日本では正統なモダニズム建築として「グラナダ貯蓄銀行」(2001年)や「デ・プラス邸」(2000年)が知られているが、GALLERY・Maの本展は、氏の現在までの活動を紹介する国内初の展覧会となる。入場無料。

会 期 2009年6月25日～8月29日(土)

11:00～18:00(金曜は19:00まで)
休館日は月・祝日と8/9～8/17

会 場 GALLERY・Ma TEL03-3402-1010
東京都港区南青山1-24-3
TOTO乃木坂ビル3階

展 示 バエザ氏が持ち歩いているスケッチブックに描かれた膨大なスケッチを樹木に見立てたインスタレーション“The Creation Tree”を創作して発想の源を公開。グレーロ邸/トゥレガーノ邸/ガスパール邸/オルニック・スパヌ邸など

▶『日本建築は特異なのか—東アジアの宮殿・寺院・住宅—』

国立歴史民俗博物館では歴博所蔵の建築模型を展示しているが、「建築の歴史」をテーマとする展示はなかった。

今回の展覧会では、日本建築だけではなく中国・韓国建築の歴史的調査・研究の進展を背景に、東アジアという観点から日本建築の歴史をテーマに取り上げ、中国建築、韓国建築と比較して日本建築の何が独自なのかをまず考え、そこから東アジア建築の共通性、普遍性を考えようとする。



中国福建省の土楼

会 期 2009年6月30日～8月30日(日)

9:30～17:00 月曜日休館

(祝日の際はその翌日)*8/10は開館

会 場 国立歴史民俗博物館 企画展示室A
千葉県佐倉市城内町117
TEL043-486-0123

入場料 830円、大高生450円、小中生無料

展 示 ①宮殿—王権のあり方からみた中国・韓国・日本②寺院—宗教建築のあり方からみた中国・韓国・日本③住宅—生活と儀式・儀礼からみた中国・韓国・日本④建築技術と生産組織—の構成で、建築模型・写真・実物を展示。

招待券は日本建築協会(TEL06-6946-6981)へ。

▶館蔵品展「幻想・奇想・夢—シュルレアリスムへの誘い」

1924年フランスから発信されたシュルレアリスム(超現実主義)は、幻想・奇想・夢・狂気など人間の深層心理や内的世界といった意識下の世界に人々を誘った。そして瞬間に、この手法は20世紀前半の芸術思潮の主流となった。

奈良県立美術館では所蔵するコレクションの中から、シュルレアリスムを推進した日本人画家、シュルレアリスムから影響を受けた作品、さらにはシュルレアリスムから派生した抽象表現主義の作品に焦点を当て、豊饒なる心象世界を展示する。



桂ゆき
《大きな木》
1946年

会 期 2009年6月6日～8月30日(日)
9:00～17:00 月曜休館
ただし7/20(月・祝)開館・7/21休館
会 場 奈良県立美術館 TEL0742-23-3968
奈良市登大路町10-6
入場料 400円、大高生250円、中小生150円
作 品 六條篤「岬」古沢岩美「壁」福沢一
郎「闇火風処地獄」難波田龍起「青
い夜」津高和「対話」など
招待券は日本建築協会(TEL06-6946-6981)へ。

▶建築家 坂倉準三展ふたつ

坂倉準三(1901～1969)はル・コルビュジエ直伝の近代建築をもたらし功績者。昭和15年に帰国して坂倉準三建築研究所(現・坂倉建築研究所)を設立。市庁舎、美術館、学校などの公共建築から渋谷や新宿などのターミナル開発まで、新しい時代の建設に生きてきた。そして、2009年は坂倉準三の没後40年。

■モダニズムを生きる一人間、都市、空間—

会 期 2009年5月30日～9月6日(日)
9:30～17:00
月曜休館(7/20は開館・7/21は休館)
会 場 神奈川県立近代美術館 鎌倉
鎌倉市雪ノ下2-1-53



神奈川県立近代美術館 鎌倉 設計/坂倉準三 1951年
入場料 一般900円(65歳以上450円)
20歳未満・学生750円、高校生100円
展 示 バリ万国博覧会日本館(1937年)、
枚岡市庁舎(1964年)、出光興産給
油所(1957年)など約200点を、図面、
写真、模型、資料で展示

■モダニズムを住む—住宅、家具、デザイナー—

会 期 2009年7月4日～9月27日(日)
10:00～18:00
月曜休館(7/20、8/10、9/21は開館)
8/11～8/16休館
会 場 パナソニック電工 汐留ミュージアム
東京都港区東新橋1-5-1
パナソニック電工ビル4階
入場料 700円(65歳以上500円)
大高生500円、中小生300円
展 示 大扉の原寸大再現、椅子の意匠の変
遷、図面、写真、模型、映像を通し
て、坂倉準三の住宅、家具、デザイ
ンの仕事を取り上げる。

なお、両展覧会の一般有料入場券の半券提示
で、それぞれに優待料金で入場ができる。

▶ルーヴル美術館展 美の宮殿の子どもたち

国立国際美術館は、古代から19世紀前半まで
子どもに注がれてきた眼差しを多角的にとら
え、ルーヴル美術館所蔵品約200点を①誕生
と幼い日々②子どもの日常生活③死をめぐっ
て④子どもの肖像と家族の生活⑤古代の宗教
と神話のなかの子ども⑥キリスト教美術のな
かの子ども⑦空想の子どもの7章で構成す
る。



ティツィアーノ・ヴェチェッリオ《聖母子と聖ステパ
ノ、聖ヒエロニスム、聖マウリティウス》1517年頃
©RMN/René-Gabriel Ojéda/distributed by DNPartcom

会 期 2009年6月23日～9月23日(水・祝)
10:00～17:00(金曜は19:00まで)
月曜休館、ただし7/20開館・7/21休館
会 場 国立国際美術館
大阪市北区中之島4-2-55
京阪中之島線「渡辺橋駅」下車
入場料 1500円、大学1200円、高校800円
中学生以下無料
展 示 台車にのったライオン/少女のミイ
ラと棺/ジョシュア・レイノルズ
《マスター・ヘア》/幼いホルス神
に授乳するイシス女神/フランソ
ワ・ブーシェ《短剣を持って座るア
モール》/リジエ・リシエ《幼子イ
エス》等

招待券は日本建築協会(TEL06-6946-6981)へ。

▶「安土城をつくった大工と道具」 —映画『火天の城』協賛展—

五層七階の楼閣の内部は黒漆塗り、華麗な障
壁画で飾られていたとされる安土城は、本能
寺の変後まもなく天主と本丸周辺が焼失し
て、その姿は謎に包まれている。この築城を
可能にしたのが
宮大工・岡部又
右衛門(おかべ
またえもん)。
岡部又右衛門と
その一門が安土
城築城に挑む姿
を描いた『火天
の城』(東映)
は9月12日に
封切られる。こ
の映画の製作に



映画『火天の城』の一場面
©2009「火天の城」製作委員会

は、竹中太夫道具館は当時の大工道具やその
使用法に関する時代考証の協力をしている。

会 期 2009年7月1日～10月16日(金)
9:30～16:30
月曜休館(祝日の場合は翌日)

会 場 竹中大工道具館
神戸市中央区中山手通4-18-25
JR・阪神「元町駅」から徒歩10分
入館料 300円、大高生200円、中小生100円
展 示 岡部又右衛門が生きた中世末から近
世初の大工道具(復元品)、映画に
登場する大工道具とそのシーン

■講演会「信長・秀吉・家康のお抱え棟梁たち」

講 師 谷 直樹(大阪市立大学大学院教授)
日 時 2009年10月4日(日)14:00～16:30
場 所 ラッセホール大会場
神戸市中央区中山手通4-10-8
竹中大工道具館より徒歩1分

定 員 先着250名

イベントの問い合わせは、竹中大工道具館事
務局(TEL078-242-0216)へ。

▶ヴェロニカ・ドバス展

ヴェロニカ・ドバスはドイツ生まれ、ブル
ク・ギービヒェンシュタイン美術大学を卒
業。2007年より大阪に在住。神戸にアトリエ
を構え、アクリルガラス板裏面に、裏返した
モチーフを油絵の具でペイントする作品を
制作。

会 期 2009年7月11日(土)～8月8日(土)
11:00～17:00 日・月曜日は休廊
会 場 ギャラリーヤマキファインアート
神戸市中央区元町通3-9-5 2F
TEL 078-391-1666

作 品 《Gold Bundles and Blue Heaps》

社団法人日本建築材料協会とフジサンケイビジネスアイの主催による「第20回けんざい2009」がインテックス大阪で6月10日(水)～6月13日(土)まで開催された。

今回のテーマは、「エコと建築—環境と共生する建築材料」。このテーマにかかわる新しいニーズに対応した建材・設備が102社のそれぞれのブースにおいて展示され、来場ユーザーへ新しい情報を提供した。会場は開催期間中、おおいに盛り上がっていた。



初日のオープニングセレモニーでは、主催者側の社団法人日本建築材料協会会長の藤井實氏が挨拶のなかで、「この厳しい時期だからこそ、ピンチをチャンスに変えるために知恵を絞り、新商品の開発を駆使していく事が大切です。現在我が国では、安全性が高く、エコな商品が求められています。新しい社会のニーズに応える建材が求められています。」と述べると、出展団体を代表して(社)日本建築協会の中井進会長が、「省エネ、ロングライフ、リサイクル、環境保全、そして人に

優しい材料、今わが国に求められているものは「エコマテリアル」であるかと思います。出展各社の手法、いろいろな提案が、環境に調和した新たな材料技術を生み出すきっかけになればと思います。またいろいろな発見が出来る建材展がひとつのビジネスチャンスの契機になることを願っています」と挨拶をした。また日本建築協会が7年後に迎える創立100周年に向けた新事業のひとつである『大阪創生プロジェクト』の第1弾として『「大阪かくれたええところ」再発見コンクール』を実施したことも挨拶の中で紹介をした。

日本建築協会も協会の事業活動をもっと知ってもらおうと、前回に引き続き出展をした。

今回の展示内容は、・協会の設立に至るまでの流れ・建築協会の活動目的と5つの常設委員会の2008年度の主な活動内容を、写真を織り交ぜながら紹介・100周年に向けての新しい事業の紹介をそれぞれパネル仕立てにして協会をアピールした。また『第54回工高生デザインアイデアコンペ』の入賞作品、『大阪「かくれたええところ」再発見コンクール』入賞作品もパネルで展示した。これら展示は日建設計と東りのご協力により出来上がった。他のブースを覗いてみるとそれぞれに工夫を凝らし各社アピールをしていたが、その中でも当協会ブースはひときわ目を引くものに出来上がっていたように思う。

(片山 和代)

『第20回けんざい2009』 に 建築協会も参加



理事会

第2回常任理事会

5月27日(水) 16:00~17:30

出席者 中井会長ほか6名

- 議事 (1) 平成20年度事業報告(案)
(2) 平成20年度収支決算(案)
(3) 後援名義等の使用承諾
(4) その他報告事項等

編集委員会

第2回編集委員会

5月13日(水) 18:00~19:30

出席者 前田副委員長ほか3名

- 議事 (1) 6月号特集「建築空間が求める空気環境(空気質)」
(2) 7月号特集「建築と水」
(3) 8月号特集「(仮称)実用化レベルで展開される施工管理のIT化」
(4) 9月号特集「第56回青年技術者」
(5) 10月号以降の特集担当分科会の確認
(6) 各小委員会・分科会の報告
(7) 収支状況報告ほか

第2回法令分科会

5月18日(月) 15:00~17:10

出席者 鷲尾幹事ほか5名

- 議事 (1) 「法令コーナー」の企画
(2) 10月号法令特集の企画
(3) 委員の補充
(4) 情報交換

第3回施工材料分科会

5月11日(月) 17:00~18:00

出席者 桜井幹事ほか4名

- 議事 特集テーマ企画検討

第4回施工材料分科会

5月26日(火) 17:00~18:00

出席者 桜井幹事ほか4名

- 議事 特集テーマ企画検討

第2回構造分科会

5月1日(金) 18:00~19:30

出席者 岸本幹事ほか4名

- 議事 (1) 「構造の頁」の企画
(2) 構造特集

第2回設備分科会

5月12日(火) 18:00~20:00

出席者 赤澤幹事ほか5名

- 議事 (1) 6月号「建築空間が求める空気環境(空気質)」特集
(2) 見学会の企画
(3) 「設備の頁」の企画
(4) 新企画の提案

第2回作品作風小委員会

5月28日(木) 19:00~20:00

出席者 居内副委員長ほか8名

- 議事 (1) 作品の選定
(2) 作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
(3) 「gallery」掲載報告・予定
(4) 前回の編集委員会の報告

第2回広告企画小委員会

5月13日(水) 17:00~18:00

出席者 虎谷副委員長ほか3名

- 議事 (1) 6月号特集「建築空間が求める空気環境(空気質)」
(2) 7月号特集「建築と水」
(3) 8月号特集「(仮称)実用化レベルで展開される施工管理のIT化」
(4) 9月号特集「第56回青年技術者」
(5) 広告掲載状況の報告
(6) 収支状況報告

第2回10年委員会

5月14日(木) 19:00~19:40

出席者 設楽委員長ほか6名

- 議事 (1) 「建築現場」見学会
(2) 大阪「かくれたええところ」再発見コンクール

事業委員会

第2回情報見学小委員会

5月14日(木) 18:00~18:45

出席者 瀬戸川委員長ほか9名

- 議事 本年度事業について

出版委員会

第2回出版委員会

5月27日(水) 20:00~20:15

出席者 上原委員長ほか8名

- 議事 (1) プロのノウハウと特装本の経過報告
(2) 進行中のテーマ、他

教育委員会

第1回講習会小委員会

5月26日(火) 18:00~19:45

出席者 山形委員長ほか5名

- 議事 (1) 平成20年度建築工事実務講

習会実施報告

- (2) 本年度の方針
(3) テキストについて
(4) その他

特別委員会

第2回群像

5月21日(木) 18:00~20:00

出席者 本多委員長ほか7名

- 議事 関西の建築界「群像」登壇者人選とカテゴリーについて

講座

出版委員会企画/第33回プロのノウハウ講座

『写真マンガでわかる建築現場管理100ポイント』

5月27日(水) 18:00~20:00

場所 OMMビル2F 3号室

参加者 28名

出席者 上原委員長ほか7名

講師 玉水 新吾氏

東海支部

第12回役員会

5月22日(金) 16:00~

出席者 佐伯支部長ほか19名

場所 名古屋ガーデンパレス

- 議事 (1) 平成21年度東海支部通常総会議案書承認
(2) 平成21年度東海支部総会役割分担
(3) 報告事項

入会者(敬称略)

【個人正会員】

上野 圭介	(株)日建設
岡田 健	(株)日建設
上河内 浩	(株)竹中工務店
黒川 祐樹	(株)日建設
佐藤 友美子	(財)サントリー文化財団
墨 英子	(株)日建設
谷岡 宗昭	(株)竹中工務店
水上 栄	(株)大林組

講座『写真マンガでわかる建築現場管理100ポイント』会場



「建築と社会」誌へのご意見をお寄せください

—返信はFAX 06-6946-6984で—

(社)日本建築協会の「建築と社会」は、会員及び関係者のみなさまのご協力のもと発行しておりますが、ここで誌面の見直しと今後の誌面づくりをさぐるため、アンケートをさせていただきますことになりました。ご協力をお願いします。

なお、アンケートにより得られた情報は、目的以外には使用いたしません。

●「建築と社会」に対する感想は?

内容・構成	☐ よい	☐ ふつう	☐ 不満
表紙	☐ よい	☐ ふつう	☐ 不満
誌面デザイン	☐ よい	☐ ふつう	☐ 不満
頁数	☐ 適度	☐ ふつう	☐ 不満
総合して	☐ よい	☐ ふつう	☐ 不満

●本誌に対する具体的なご意見をお聞かせください。

●「建築と社会」 ☐ 月号のどのコーナーの情報が役に立ちましたか? (複数回答可)

☐会告

☐作品作風 ☐研究の風景 ☐gallery

☐特集記事 (テーマや執筆者名は?)

☐法令コーナー ☐設備の頁 ☐構造の頁 ☐新建材の頁 ☐読者の頁

☐REPORT (環境保全部会REPORT、投稿REPORT、その他の投稿)

☐information

☐書評・新刊紹介、その他の記事 ()

☐月間の動き

●どのように役立ちましたか?

●今後取り上げてほしい分野・テーマ、またはご意見があればお聞かせください。

回答者名

連絡先

年代 ☐20歳以下 ☐20代 ☐30代 ☐40代 ☐50代 ☐60代 ☐70代 ☐80歳以上

専門 ☐計画分野 ☐意匠 ☐構造 ☐設備 ☐施工 ☐その他 ()

業種 ☐設計事務所 ☐建設会社 ☐設備会社 ☐設備・建材メーカー ☐教職員

☐学生 ☐その他 ()

*チェックを入れてください。

ご協力ありがとうございました。

第一線の建築
設計者に聞く

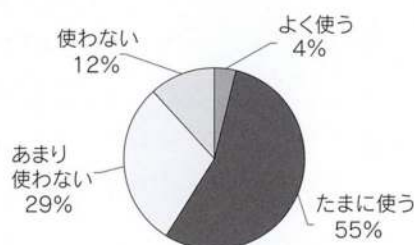
“いち”押し 建材・設備

アンケート

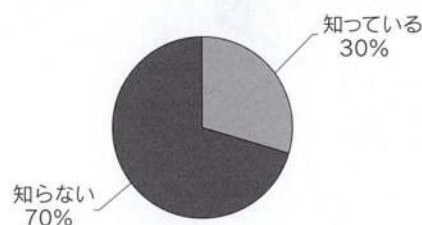
電気硝子建材(株)
「ガラスブロック」

この企画は建材や設備のメーカーが紹介する新製品、お勧め製品、いわゆる“いち”押しの製品につき、協会の会員の設計者の方々から50人を選びアンケート方式で意見を収集して、誌面で公開するものです。設計者はアンケートに答える際にその製品に対する理解が深まりますし、他の設計者のアンケート結果を見ることで、製品に対する別の見方や使い方が発見できるかもしれません。またメーカー側も自社製品に対する多くの設計者の反応に触れることによって今後の販売戦略や製品開発のヒントを得ていただくことを期待しています。メーカーの方、設計者の方の双方にお役に立つことができれば、幅広い間口を持つ当協会の特徴が活きて考えています。

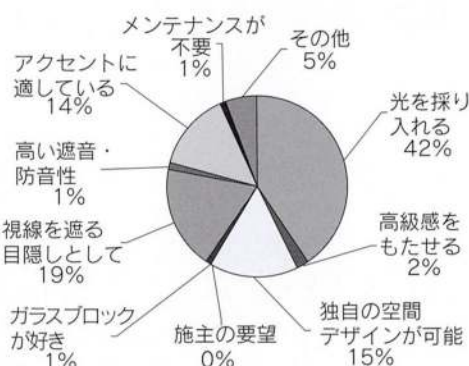
【ガラスブロックについてお伺いします】



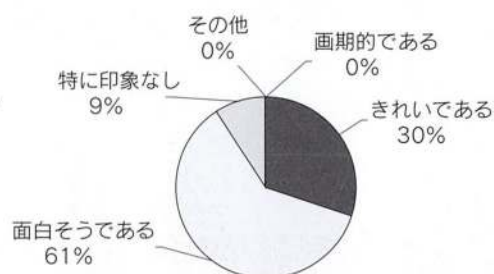
【ガラスブロックとLEDを組み合わせた新商品イルミネーションガラスブロック「カラーパレット」はご存じですか？】



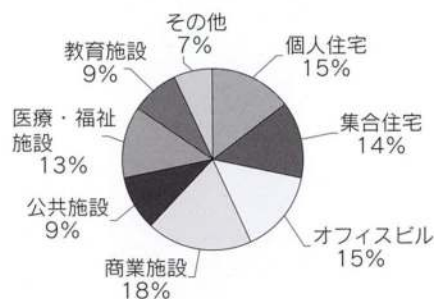
【上項1で「よく使う」「たまに使う」とご回答の方に質問いたします。ガラスブロックを検討または採用する場合の主な動機についてお聞かせください。(3項目まで回答可)】



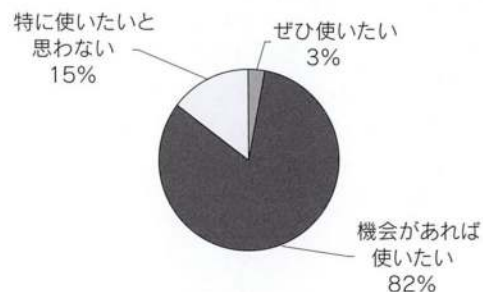
【上項10の「カラーパレット」の印象についてお伺いします。】



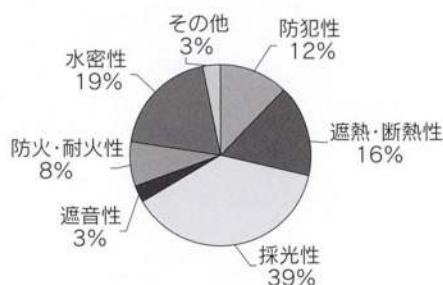
【ガラスブロックを採用するのなら、どのような施設に使用されますか？(複数回答可)】



【上項10の「カラーパレット」を使いたいと思いますか？】



【一般的に開口部には、どのような機能を重視されますか？(3項目まで回答可)】



変幻自在、イルミネーションアート。

イルミネーションガラスブロック

カラーパレット

乾式工法のガラスブロックパネルとLEDのユニットが生む、画期的な照明システムが空間デザインの領域を広げます。

RGBの組合せでさまざまな色をつくりだすLED光源と、光と好相性のガラスブロックが手を取りあい、それはまるで“カラーパレット”のようなイルミネーション。乾式工法を採用したガラスブロックパネルの目地部に組み込んだLEDが、ガラスブロックの両面を同時発光する新システムの誕生です。

■お問い合わせ



きらり、ガラス建材の新未来へ

電気硝子建材株式会社

<http://www.negb.co.jp/>

東京 〒130-8513 東京都墨田区立川4丁目15-3
大阪 〒532-0005 大阪市淀川区三国本町2丁目1-3

Tel.(03) 3632-7721 Fax.(03) 3632-3150
Tel.(06) 6392-2711 Fax.(06) 6392-2911

暑中お見舞申し上げます

平成21年盛夏

岡 本 慶 一

日 建 設 計
代表取締役社長

〒541-8528 大阪市中央区高麗橋4-6-2 TEL (06) 6203-2361

銭 高 一 善

銭 高 組
社 長

〒550-0005 大阪市西区西本町2-2-11
なにわ筋ツインズ ウェスト
TEL (06) 6538-7801

沼 田 亘

株式会社 昭和設計
代表取締役社長

〒552-0007 大阪市港区弁天1-2-1-800 TEL (06) 6575-5555

香 西 喜八郎

株式会社 東畑建築事務所
代表取締役社長

〒541-0044 大阪市中央区伏見町4-4-10 TEL (06) 6202-0391

立 成 良 三

財団法人 大阪住宅センター
理事長

住宅保険、評価、住宅情報相談、住宅展示場他

〒542-0081 大阪市中央区南船場4-4-3 心斎橋東急ビル4F
TEL (06) 6253-0071 FAX (06) 6253-0145

藤 井 實

エスケー化研 株式会社
代表取締役社長

〒567-0034 茨木市中穂積3-5-25 TEL (072) 621-7720

近 藤 徹

不二熱学工業 株式会社
代表取締役

〒542-0081 大阪市中央区南船場2-1-1 TEL (06) 6261-4321

立 野 純 三

株式会社 ユニオン
代表取締役社長

〒550-0015 大阪市西区南堀江2-13-22 TEL (06) 6532-3188

宮 本 博 司

株式会社 宮本工務設計事務所 代表取締役
ISO9001認証取得 (創立63年)

〒665-0022 宝塚市野上1-2-34 (宮本ビル)
TEL (0797) 71-0431 (代表) FAX (0797) 71-5139 (受専)
神戸支店 TEL & FAX (078) 997-0371
大阪支店 TEL & FAX (072) 725-3611

名誉会長

佐 野 正 一

株式会社 安井建築設計事務所
代表取締役相談役

〒540-0034 大阪市中央区島町2-4-7 TEL (06) 6943-1371代

長 恵 祥

株式会社 大林組 本店
代表取締役副社長 本店長

〒540-8584 大阪市中央区北浜東4-33 TEL (06) 6946-4578

森 悠

西日本建設業保証 株式会社
取締役社長

〒550-0012 大阪市西区立売堀2-1-2 TEL (06) 6543-2553

佐 野 吉 彦

株式会社 安井建築設計事務所
代表取締役社長

〒540-0034 大阪市中央区島町2-4-7 TEL (06) 6943-1371代

会長

中 井 進

日 建 設 計
取締役副社長

〒541-8528 大阪市中央区高麗橋4-6-2 TEL (06) 6203-2361

林 新 一

社団法人 日本建築協会
常務理事兼事務局長

〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31 TEL (06) 6946-6981

編集委員長

設 楽 貞 樹

株式会社 安井建築設計事務所
常務取締役

〒540-0034 大阪市中央区島町2-4-7 TEL (06) 6943-1371代

辻 文 三

財団法人 日本建築総合試験所
理事長

〒565-0873 吹田市藤白台5-8-1 TEL (06) 6872-0391
<http://www.gbrc.or.jp>



暑中お見舞申し上げます

平成21年盛夏

設計事務所有志

株式会社 伊藤建築設計事務所

取締役会長 織田 愈史

代表取締役社長 森口 雅文

本社・名古屋事務所 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-15-15 (桜通ビル) TEL (052) 222-8611

東京事務所 〒101-0021 東京都千代田区外神田3-5-12 (聖公会神田ビル) TEL (03) 5294-6211

株式会社 瀬戸本淳建築研究室 ISO9001

代表取締役 瀬戸本 淳

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-1-1 神戸郵船ビル TEL (078) 333-0138

<http://www.jsao.co.jp>

株式会社 東畑建築事務所

代表取締役社長 香西 喜八郎

本社・大阪事務所 〒541-0044 大阪市中央区伏見町4-4-10 TEL (06) 6202-0391

<http://www.tohata.co.jp>

大阪・東京・名古屋・九州

日建設計

代表取締役社長 岡本 慶一

東京	102-8117	東京都千代田区飯田橋2-18-3	TEL (03) 5226-3030
大阪	541-8528	大阪市中央区高麗橋4-6-2	TEL (06) 6203-2361
名古屋	460-0008	名古屋市中区栄4-15-32	TEL (052) 261-6131

安井建築設計事務所

代表取締役社長 佐野 吉彦

本社 〒540-0034 大阪市中央区島町2-4-7 TEL (06) 6943-1371 (代表)

支社 大阪・東京・名古屋・広島・九州 <http://www.yasui-archi.co.jp/>

建設業有志



株式会社 大林組

代表取締役会長 大 林 剛 郎
代表取締役社長 白 石 達

東京本社 東京都港区港南 2-15-2 TEL(03)5769-1111
本店 大阪府中央区北浜東 4-33 TEL(06)6946-4400
支店 札幌・東北・横浜・北陸・名古屋・神戸・広島・四国・九州

100年をつくる会社



KAJIMA CORPORATION

本社：東京都港区元赤坂1丁目3番1号
関西支店：大阪府中央区城見2丁目2番22号・マルイトOBPビル
電話06 (6946) 3311
<http://www.kajima.co.jp/>

子どもたちに誇れるしごとを。

清水建設株式会社

取締役社長 宮本 洋一 取締役専務執行役員関西事業本部長 小橋 鴻三

本社 〒105-8007 東京都港区芝浦一丁目2番3号 シーバンスS館 Tel. 03 (5441) 1111
関西事業本部 〒541-8520 大阪府中央区本町三丁目5番7号 御堂筋本町ビル Tel. 06 (6263) 2800



大地への愛 人間への愛

銭 高 組
社長 銭 高 一 善

本店 大阪市西区西本町2-2-11
なにわ筋ツインズ ウエスト
TEL (06) 6531-6431
本社 東京都千代田区一番町31番地
TEL (03) 3265-4611
支社・支店 大阪・東京・北海道・東北・北関東・千葉
横浜・北陸・名古屋・神戸・広島・四国・九州
URL <http://www.zenitaka.co.jp/>

地図に残る仕事。



大成建設株式会社

社長 山内 隆 司
専務 久保 博 司
関西支店長

<http://www.aisei.co.jp/>



株式会社 竹中工務店

取締役社長 竹中 統一

〒541-0053 大阪市中央区本町4-1-13 TEL(06)6252-1201(代表)



戸田建設株式会社

代表取締役社長 井上 舜三
常務執行役員大阪支店長 野村

本社 〒104-8388 東京都中央区京橋1-7-1 TEL 東京03(3535)1354
大阪支店 〒550-0005 大阪市西区西本町1-13-47 TEL 大阪06(6531)6095
支店 東京・千葉・関東・横浜・北陸・名古屋・札幌・東北・広島・四国・九州

建材・報道・学校・団体有志等

モノづくりの学校



大阪工業技術専門学校

OSAKA COLLEGE OF TECHNOLOGY

建築学科・建築設計学科・建築学科Ⅱ部・建築実務学科・建築設備学科・大工技能学科・インテリア学科・建築士専科

〒530-0043 大阪市北区天満1丁目8番24号 ☎ 0120-0910-19 ☒ <http://www.oct.ac.jp/> Tel. 06-6352-0091

1955年創業



株式
会社

建設日報社

社主 重村 一

☎ 550-0006 大阪市西区江之子島1-6-2 TEL(06)6444-2405



社団法人

日本建築材料協会

会長 藤井 實

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-3-13 辰巳ビル9階 TEL(06)6443-0345 FAX(06)6443-0348
<http://www.kenzai.or.jp/>



社団法人 日本建築協会京都支部

支 部 長 上 林 研 二

〒604-0944 京都市中京区押小路通柳馬場東入 京都建設会館別館 TEL(075)211-2857



社団法人 日本建築協会中国支部

支 部 長 森 畑 武

〒732-0048 広島市東区山根町28番22号 下岸建設株式会社内 TEL(082)264-0709



社団法人 日本建築協会東海支部

支 部 長 佐 伯 博

〒460-0008 名古屋市中区栄4-3-26 (昭和ビル5階) TEL(052)261-1451



社団法人 日本建築協会

会 長 中 井 進

〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31 TEL(06)6946-6981



(社)日本建築協会から ご入会のおさそい

建築に関連する各種の活動を行っている日本建築協会に、ご入会になりませんか！

会員は、建築関係の幅広い分野（設計事務所、ゼネコン、官公庁、教育・研究機関、メーカーなど）から個人や団体が参加し、活動しております。21世紀の建築界発展のために、またあなた自身が異業種の方々と交流され、社外ネットワーク形成に役立てていただくことも可能です。

※建築に興味をお持ちの方ならどなたでもご入会いただけます（資格は問いません）。

●会員の特典

- ★ユニークで新鮮な内容を誇る会誌「建築と社会」が毎月配布されます。
- ★話題の建築物、一般では未公開の施設等の見学会や建築関係の著名な講師の講演会・講習会に会員割引で優先的に参加できます。
- ★協会所蔵の貴重な図書・資料の閲覧等ができます。
- ★会誌「建築と社会」に建築作品、研究報告、レポート、ニュース等を投稿できます。
- ★青年技術者の顕彰に応募できます。
- ★協会の各種委員会活動に参画し、様々な情報交換・社外交流の場として利用できます。

●入会申し込み方法

当会ホームページ (<http://www.aaj.or.jp>) の入会申込み画面に記入送信するか、入会申込フォームをプリントアウトし、FAXまたは郵送にて、下記あてお送りください。

〒540-6591
大阪市中央区大手前1-7-31
OMMビル7階
(社)日本建築協会
Eメールアドレス: soumu@aaj.or.jp
TEL: 06-6946-6981 FAX: 06-6946-6984

会員の種別と会費

会員の種別			会 費
正 会 員	個人正会員	本部および支部地域	年額 14,400円
		上記以外の地域	年額 12,600円
	団体正会員		年額 25,000円/口
	学生会員		年額 8,400円

空調・衛生・クリーンルーム設備
(設計・施工)



本社・本店 東京都港区浜松町1-25-7 電話03(3432)5711
大阪支社 大阪市淀川区加島1-58-59 電話06(6302)2270
支店 北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設計 施工



本店・大阪本社 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号 電話(06)6441-8231
東京本社 〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目15番10号 電話(03)3261-8231
支店 名古屋・福岡
支店 札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・
広島・高松・熊本
営業所 帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・
福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所 旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店 シンガポール・ホンコン
技術研究所 〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地 電話(0492)58-1511



We have hope

■印刷事業 ポスター、カタログ、パンフレット、書籍、年鑑、社史、
雑誌、文庫、画像データ処理
■メディア事業 SPプランニング、コンサルティング、ITソリューション、
web及びメディアコンテンツ企画制作



株式会社NPCコーポレーション
本社 〒530-0043 大阪市北区天満1-9-19
tel: (06) 6351-7271 (代) fax: (06) 6352-7479
第二ビル 〒530-0043 大阪市北区天満1-11-8
tel: (06) 6351-0128 (代) fax: (06) 6351-0208
東京支社 〒105-0004 東京都港区浜松町1-2-1
一光浜松町ビル7F
tel: (03) 3433-5211 (代) fax: (03) 5776-7733
(旧社名ナニワ印刷業、日本データネット版)

地球環境を守り、100年建築に貢献する

NACL のアルミ表面処理

株式会社日本電気化学工業所

<http://nacl.jp> E-mail: sc@nacl.co.jp

本部営業部 〒560-0036 大阪府豊中市蛸池西町2丁目7番26号 NACLビル2階
TEL (06)6843-1235(代) FAX (06)6853-1632
東京事務所 〒111-0051 東京都台東区蔵前2丁目7-2 東京NACLビル
TEL (03)3862-0978(代) FAX (03)3862-7098

デンカCSAファミリー製品

- デンカCSA (膨張性混和材) コンクリートのひびわれ防止に
- デンカタスコン (グラウト用無収縮材) 鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
- デンカキューデックス (止水・補修用急硬セメント) コンクリート躯体の漏水補修に
- デンカES (土質安定用急硬材) 地盤補強用薬注入
- デンカΣ1000 (製品用超高度混和材) コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社

近畿地区販売店

金森藤平商事株式会社

TEL 大阪 (06) 6332-6861
TEL 東京 (03) 3272-8501

光洋物産株式会社

TEL 大阪 (06) 6252-6000

浜宗産業株式会社

TEL 本社・京都・京丹後 (0772) 72-2220
舞鶴 (0773) 76-0133

小浦産業株式会社

TEL 大阪 (06) 6443-6181

写真マンガでわかる

写真マンガでわかる
建築現場管理
100ポイント



四六判・224頁
定価1995円(本体1900円)

建築現場管理 100ポイント

整理整頓の励行、手抜きのできない現場の実現によって、職人のマナー向上やコストダウン、クオリティの高い仕事をめざそう。本書は、実際の建築現場に見られる管理の悪い例を写真マンガで指摘。その現場の問題点と改善のポイントを解説し、管理のゆき届いた良い例もビジュアルで明示した。現場管理者必携のチェックブック。



玉水新吾 著
阪野真樹子 マンガ

著者略歴

玉水新吾(たまみず しんご)

1953年京都市生まれ、名古屋工業大学建築学科卒業後、1976年から大手住宅メーカーにて、住宅現場の施工管理・品質・保証・工程・安全衛生・環境・技術研修・知的財産・教育など、住宅技術一筋。

著書:『現場で学ぶ住まいの雨仕舞い』『建築主が納得する住まいづくり』(学芸出版社)、『低層住宅施工現場のCIS』『かんたんCISマナー』(ともに共著、PHP研究所)

もくじ

- 第1章 品質管理
- 第2章 コスト・工程管理
- 第3章 安全管理
- 第4章 人間関係管理
- 第5章 環境管理



管理の良い現場、
悪い現場が一目瞭然!

〒600-8216 京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
tel 075-343-0811 fax 075-343-0810
<http://www.gakugei-pub.jp/> E-mail info@gakugei-pub.jp

学芸出版社



私たちの夢は、たくさんの人の「想い」に支えられています。

窓から夢をひろげていきます
不二サッシ



不二サッシ株式会社 〒212-0058 神奈川県川崎市幸区鹿島田890番地12 新川崎三井ビルディング TEL.044-520-0034 ホームページ <http://www.fujisash.co.jp/>

日本建築協会企画・販売
出版図書一覧

1917年3月に創設された日本建築協会（当時・関西建築協会）は、すでに昭和初期には大阪近辺で住宅博覧会や建築講演会を開く一方、当時は入手しにくかった建築の情報を図書の出版という形で会員に提供していた。

*

日本建築協会創立70周年記念出版

住宅近代化への歩みと日本建築協会 1988年

A4判 企画・発行：日本建築協会 本体価格1,500円

日本建築協会創立75周年記念出版

工高生デザインコンクール入選作品集 1992年

A4判 企画・発行：日本建築協会 本体価格2,000円

昭和生まれ 関西の建築家50 1987年

A4判 企画・発行：日本建築協会 本体価格1,500円

日本建築協会建築クラブ朝食会300回記念講演記録集

講演記録集 話のはなし 1997年

B6判 5分冊 企画：日本建築協会建築クラブ 販売価格2,500円(税・送料込み)

民間（旧四会）連合協定

工事請負契約約款（平成21年6月改訂）

工事請負契約書・仲裁合意書・契約書使用上の留意事項・建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律第13条および省令第4条に基づく書面

販売単位：2部1単位とする

価格：1単位700円（税込）送料は実費

日本建築協会事務局（06-6946-6981）で販売

平成20年3月30日刊行

建築主が納得する住まいづくり
—Q&Aでわかる技術的ポイント—

現場マン必読!! 顧客満足度UP! クレームゼロの方法とは?

著者 玉水 新吾
四六判 224ページ
定価 1,900円+税

最新刊 平成21年3月10日発行

写真マンガでわかる 建築現場管理100ポイント

管理の良い現場、悪い現場が一目瞭然!
現場のブローケンウィンドウズを見逃すな

著者 玉水 新吾
四六判 224ページ
定価 1,900円+税

以後、創立周年記念事業として、その時代の動きをとらえて単行本を出版している。

50周年、60周年、70周年、そして80周年に、図書の出版が企画され、現在も継続して発行・販売されている出版物は、以下のとおり。

*

購入希望者は、(社)日本建築協会事務局
(TEL06—6946—6981、FAX06—
6946—6984) まで。

日本建築協会創立60周年記念事業「建築技術選書」姉妹篇・四六判2色刷イラスト入

〈プロのノウハウ〉シリーズ

企画：日本建築協会 発行：学芸出版社 本体価格¥1,600～¥2,700

衛生設備のトラブル50

建築設備トラブル研究会

建築の現場管理システム

伊東貞夫

鉄筋工事・本音の現場学

荒川治徳

新版コンクリート工事のチェックポイント100

加賀秀治

建築と音のトラブル

中川清ほか

建築基準法の性能規定を読みこなすコツ

高木任之

木造住宅監理の話

山田 修

建築工事の祭式

「建築工事の祭式」編集委員会

第二版 環境と共生する建築25のキーワード

大西正宜

飛躍する構造デザイン

渡辺邦夫

木造住宅のしくみ

在来工法の基本と応用 浅野平八・東 敏博

改訂版 建築物の消防法を読みこなすコツ

高木任之

インテリアコーディネートの100ポイント

町田ひろ子監修／松本 茂・村元俊子著

プロが教えるキッチン設計のコツ

井上まるみ

木づくりの常識非常識

上村 武

現場で学ぶ 住まいの雨仕舞い

玉水新吾

建築トラブルにみる常識非常識

荒川治徳

住宅エクステリアの100ポイント

藤山 宏

第三版 都市計画法を読みこなすコツ

高木任之

第三版 建築基準法を読みこなすコツ

高木任之

建築主が納得する住まいづくり

玉水新吾

写真マンガでわかる 建築現場管理100ポイント

玉水新吾

日本建築協会創立70周年記念事業・B5判

選書特装版

企画：日本建築協会 発行：学芸出版社 本体価格¥3,000～¥4,000

水にまつわるトラブルの事例・解決策

〈建築篇〉 「建築漏水」編集委員会

建築デザインのための構造計画

須賀好富

水にまつわるトラブルの事例・解決策

〈設備篇〉 「設備漏水」編集委員会

入門・建築積算

生島道春

建物の汚れ—トラブル事例と解決策

「建物の汚れ」編集委員会

建物の結露—トラブル事例と解決策

「建物の結露」編集委員会